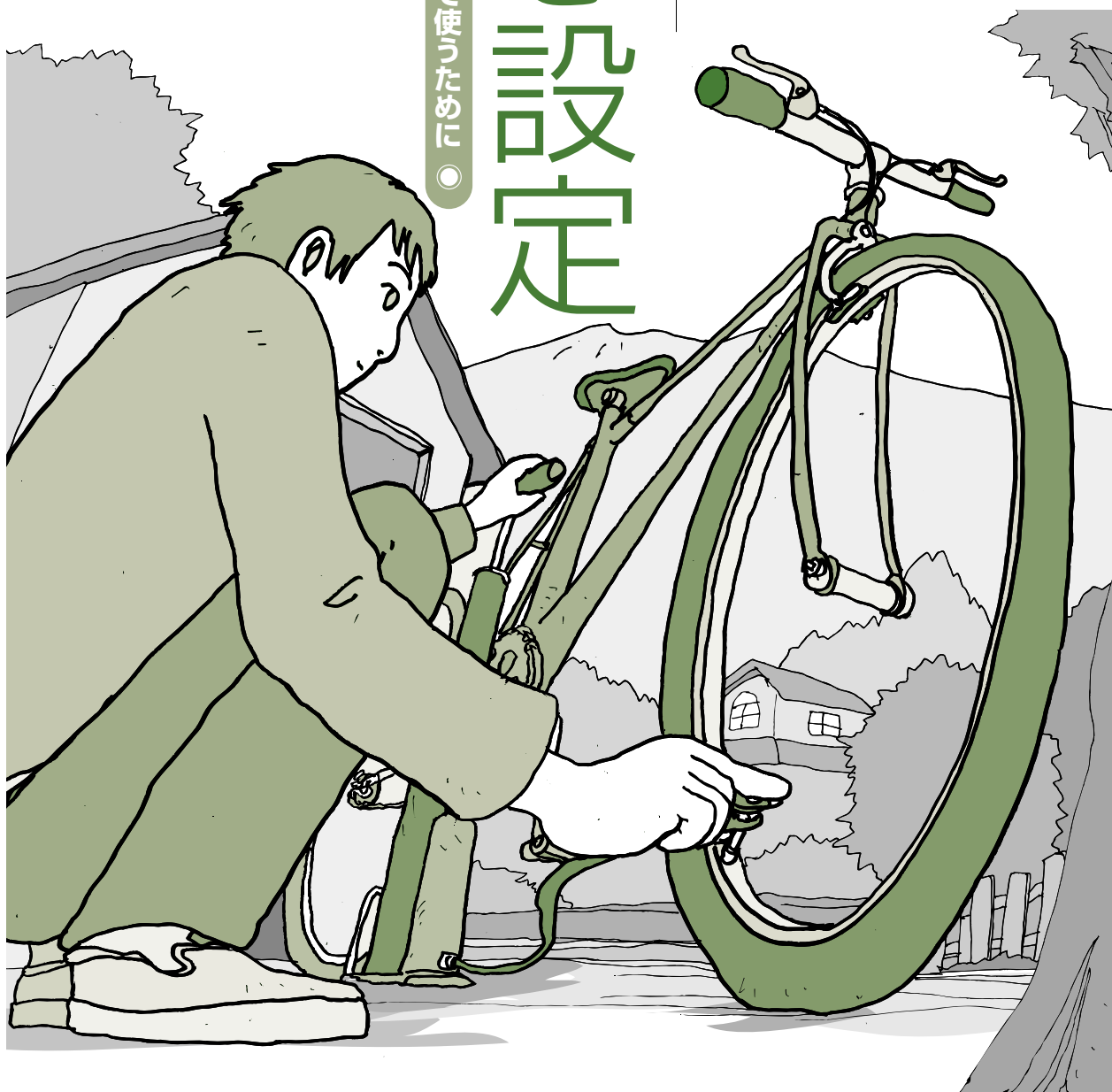
VALUESTAR L

2 準備と設定

◎「あなたのパソコン」として使うために◎

パソコンは、ほかの電化製品とちがって
電源をいれただけでは使えません。
付属品をとりつけ、あなた個人が使うための
設定をし、インターネットにつなぐところまで、
この本の手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの
内容の移しかえや、パソコン内部に機器を
取り付ける方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810601-640-A

『準備と設定』の読み方

第1章～第3章まで
「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

パソコンの置き場所を確認したり、箱の中のケーブルや部品を接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windows のセットアップ）手順を説明しています。

第4章
「基本中の基本の操作」

パソコンの始め方／終わり方、音量調節、CD-ROM や DVD などのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章
「これからインターネットを始めるかたへ」

これまでにパソコンを持っていなかったかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章
「パソコンを買い替えたかたへ」

パソコンを買い替えたかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法や、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法について説明しています。

第7章
「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章
「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンに、PCI ボードやメモリを取り付ける方法を説明しています。

853-810601-640-A
2007 年 4 月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

注意　人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害の発生が想定される内容を示します。

障害や事故の発生を防止するための指示事項は、次のマークで表しています。

使用者に対して指示に基づく行為を強制するものです。

その他の指示事項は、次のマークで表しています。

そのページで説明している手順で、特に大切なことです。

してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキー、またはリモコンのボタンを指します。
DVD/CD ドライブ	DVD スーパーマルチドライブを指します。
「サポートナビゲーター」	電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。 「サポートナビゲーター」は、デスクトップの（サポートナビゲーター（電子マニュアル））をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン、本機	表の各モデル（機種）を指します。
液晶ディスプレイセットモデル	液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。
DVD スーパーマルチドライブモデル	DVD スーパーマルチドライブ（DVD-R/RW with DVD+R/RW ドライブ（DVD-R/+R 2 層書込み））を搭載しているモデルのことです。
マルチプレードライブモデル	マルチプレードライブ（CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ）を搭載しているモデルのことです。
デジタルハイビジョンTV（地デジ / 地アナ）モデル	地上アナログ放送と地上デジタル放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。

トリプルワイヤレスLANモデル
ワイヤレスLAN機能を搭載しているモデルのうち、IEEE802.11a(5GHz)とIEEE802.11b/g(2.4GHz)の両方の規格に対応したワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。

FeliCa対応モデル
「FeliCaポート」を搭載、または添付したモデルのことです。

インテル® Viiv™ テクノロジーモデル
インテル® Viiv™ テクノロジーを搭載したモデルのことです。

Windows Vista Home Premiumモデル
Windows Vista™ Home Premiumがあらかじめインストールされているモデルのことです。

Windows Vista Ultimateモデル
Windows Vista™ Ultimateがあらかじめインストールされているモデルのことです。

Windows Vista Businessモデル
Windows Vista™ Businessがあらかじめインストールされているモデルのことです。

Office 2007モデル
Office Personal 2007またはOffice Personal 2007とPowerPoint 2007が添付されているモデルのことです。

Office Personal 2007モデル
Office Personal 2007が添付されているモデルのことです。

Office Personal 2007 with PowerPoint 2007モデル
Office Personal 2007とPowerPoint 2007が添付されているモデルのことです。

<table>
<tr><th rowspan="2">シリーズ名</th><th rowspan="2">型名
(型番)</th><th colspan="7">表記の区分</th></tr>
<tr><th>DVD/CDドライブ</th><th>ワイヤレスLAN</th><th>ディスプレイ</th><th>TV機能</th><th>リモコン</th><th>OS</th><th>添付ソフト</th></tr>
<tr><td rowspan="2">VALUESTAR L</td><td>VL770/JG
(PC-VL770JG)</td><td rowspan="2">DVDスーパーマルチドライブモデル</td><td>トリプルワイヤレスLANモデル</td><td>液晶ディスプレイセットモデル(20型ワイド液晶(F20WZ2))</td><td>デジタルハイビジョンTV(地デジ/地アナ)モデル</td><td>リモコン添付モデル</td><td rowspan="2">Windows Vista Home Premiumモデル</td><td rowspan="2">Office Personal 2007モデル</td></tr>
<tr><td>VL570/JG
(PC-VL570JG)</td><td>—</td><td>液晶ディスプレイセットモデル(20型ワイド液晶(F20W31))</td><td>—</td><td>—</td></tr>
</table>

◆ VALUESTAR Gシリーズについて

VALUESTAR Gシリーズの各モデルについては、添付の『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

◆本文中の記載について

・本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
・記載している内容は、このマニュアルの制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows Vista	Windows Vista™ Home Premium Windows Vista™ Business Windows Vista™ Ultimate
Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP、Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Office Personal 2007	Microsoft® Office Personal 2007（Microsoft® Office Word 2007、Microsoft® Office Excel 2007、Microsoft® Office Outlook® 2007、（Microsoft® Office ナビ 2007））
Office Personal 2007 with PowerPoint 2007	Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007
Outlook、Outlook 2007	Microsoft® Office Outlook® 2007
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Windows® Internet Explorer®
Windows 転送ツール	Windows® 転送ツール
Windows Media Center	Windows® Media Center
「スタート」、「スタート」ボタン	Windows Vista™ スタート ボタン
ウイルスバスター	ウイルスバスター™ 2007 トレンド フレックス セキュリティ
パーソナルシェルター	パーソナルシェルター for NEC PC103NBG
スクリーンセーバーロック 2	スクリーンセーバーロック 2 for NEC PC103NBG
EdyViewer	EdyViewer 2.0.2.0
かざしてナビ	かざしてナビ for NEC PC103NBG

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121 コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3) 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows Vista™ Home Basic、Windows Vista™ Home Premium、Windows Vista™ Business または Windows Vista™ Ultimate および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

目次

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第1章

箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。また、パソコンの置き場所を決めましょう。

この章の所要時間：約10分

添付品はそろっていますか？

ポイント

- 『スタートシート』で確認

1 『スタートシート』を見る

マニュアルセットに『スタートシート』が入っています。『スタートシート』の「①添付品を確認しよう」を見て、添付品が全部そろっているか確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

VALUESTAR G シリーズをご購入の場合は、『VALUESTAR G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。

添付品の内容はモデルにより異なる場合があります。

困ったときには…
NEC 121（ワントゥワン）コンタクトセンター
0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

添付されている「Windows Vistaをアップグレードしよう DVD-ROM（Windows® Anytime Upgrade DVD）」は、Windows を有償で上位エディション（Windows Vista Ultimate など）にアップグレードするために使用するDVD-ROMです。Windowsのアップデート（更新）に使用するものではありません。
Windowsのアップデート（更新）について、詳しくは「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「Windows を更新する」をご覧ください。
Windowsのアップグレードについて詳しくは、「スタート」-「すべてのプログラム」-「Extrasとアップグレード」-「Windows Anytime Upgrade」を選択して表示される「Windows Anytime Upgrade」画面をご覧ください。

型番と製造番号を確認する

ポイント

- 保証書と本体のラベルの記載が一致していることを確認する
- パソコン本体とディスプレイの両方とも

1 パソコン本体の保証書を見る

パーソナルコンピュータ

型名(型番)　PC-XXXXXXXXX
製造番号　XXXXXXX
保証期間　お買い上げ日からX年間
★お買い上げ日　XXXX年　XX月　XX日

重要

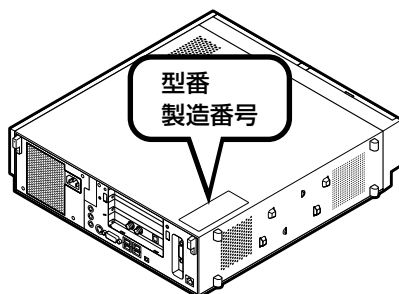
保証書在中

保証書についてのお願い

1. 保証書は、NEC製品の「品質保証」をお約束する書類ですので、大切に保存してください。
2. 保証書の保証内容、保証規定をよくお読みください。
3. 保証書は、お買い上げ販売店で所定事項を記入されたものをお受け取りください。

NEC NECパーソナルプロダクツ株式会社

紙

2 パソコン本体のラベルと一致しているか確認する

3 ディスプレイについても、同じように確認する

ディスプレイの製造番号は、背面に記載されています。

- 機器に記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 保証書は、所定事項（販売店名、お買い上げ日など）が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

パソコンの置き場所を決める

ポイント

- キーボードやマウスを使うために十分余裕のある場所に
- 電話回線や電源などの場所にも気を付ける

1 パソコンの設置環境

◆屋内であること
屋外には設置しないでください。

◆しっかりした台の上
パソコンの重さを安定して支えられるテーブル、机を選んでください。

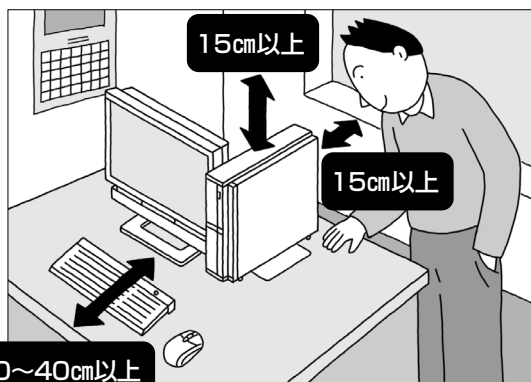
◆温度は 10 ～ 35℃、湿度は 20 ～ 80%
室内の温度と湿度が高く、機械やガラスなどの温度が低いと、水滴がついてしまうことがあります（結露）。パソコンが結露したときは、電源を入れずに 1 時間以上置き、水滴が蒸発してから使ってください。

◆ホコリの少ない場所
ホコリの多い場所に置くと、パソコンの内部にホコリがたまって故障の原因になることがあります。ホコリの少ない場所を選んでください。

2 パソコン周囲の広さ

本体前に 30 ～ 40cm
キーボードを置き、ゆったりマウスを操作できる広さが必要です。

本体後ろに 15cm 以上
本体の後ろ側に通風孔があるため、最低でも壁などから 15cm 以上離してください。できれば50cm程度の余裕があると、後からケーブルなどを接続するときに作業が楽です。

ディスプレイの後ろにも 15cm 以上
ディスプレイの背面に通風孔があるので、15cm 以上あけてください。

パソコンを使っているときは、ディスプレイの上に紙や布を置いて通風孔をふさがないようにしてください。内部の温度が上昇し、動作不良や故障の原因になります。

3 こんな場所にはパソコンを置かないで!

小さなお子さんがいる場合は、ケーブルの付いた機器をお子さんが引っ張って落としてしまうことがあるので、十分気を付けてください。

4 コンセントや電話回線などの近くに置く

◆コンセントについて

- ラジオやテレビに雑音が入ることがあるため、これらの機器とは別のコンセントに接続してください。
- 添付の電源ケーブルを直接コンセントに接続してください。
- コンセントが足りなくてパソコン用のテーブルタップを使うときは、テーブルタップの合計電力を守ってください。
- アース線を接続できるよう、アース端子のあるコンセントを使ってください。コンセントにアース端子がないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持った人にアース端子付きコンセントの取り付けを相談してください。

◆電話回線について

インターネットを有線で利用する場合、電話回線につながっている機器(モデムやルータなど)とパソコンを、ケーブルでつなぐ必要があります。それらの機器にケーブルが届く範囲にパソコンを設置してください。

◆アンテナケーブルについて

パソコンでテレビを楽しむには、アンテナケーブルの位置や長さに注意が必要です。アンテナケーブルの接続については、「アンテナケーブルを接続する」(20 ページ)をご覧ください。

5 パソコンの近くに置いてはいけないもの

◆扇風機や大型のスピーカ、温風式こたつなど（磁気を発生するもの）
強い磁気を発生する装置が近くにあると、ディスプレイの表示や色が乱れることがあります。パソコン用スピーカなど、磁気をもらさないように設計された装置であれば、近くに置いてもかまいません。

◆ストーブなどの暖房器具
暖房器具の近くにパソコンを置くと、熱で変形したり、異常な動作をすることがあります。

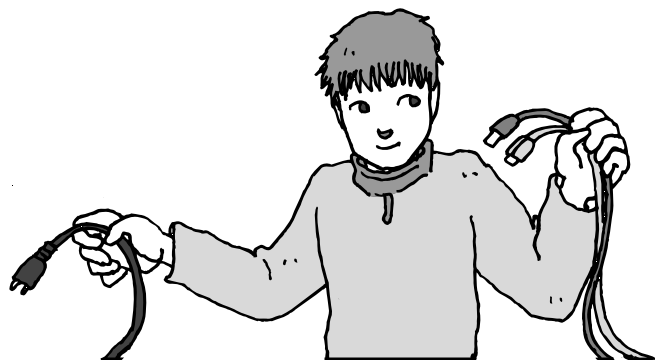
◆ほかのディスプレイやテレビ、ラジオ
ほかのディスプレイやテレビの表示が揺れたり、色が乱れたりすることがあります。テレビやラジオの音声に雑音が入ることがあります。

◆コードレス電話、携帯電話
通話中に雑音が入ることがあります。パソコン側も電波の影響を受けるため、スピーカに雑音が入ることがあります。

アンテナケーブルを用意する

デジタルハイビジョンTV（地デジ / 地アナ）モデルでは、テレビを見るためにアンテナケーブルを接続する必要があります。市販のアンテナケーブルを用意しておいてください。お手元にない場合は、そのまま作業を進めてかまいません。セットアップは問題なくおこなうことができます。
テレビの設定は、アンテナケーブルを接続した後で、始めることができます。

第2章

電源を入れる前に接続しよう

パソコン本体とディスプレイの置き場所を決めたら接続です。いろいろなケーブルをつなぐので、じっくり説明を読んで慎重にやりましょう。次ページから順番に作業を進めてください。電源ケーブルの接続は最後ですよ。

この章の所要時間：約20分

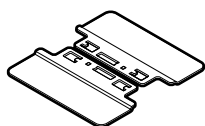
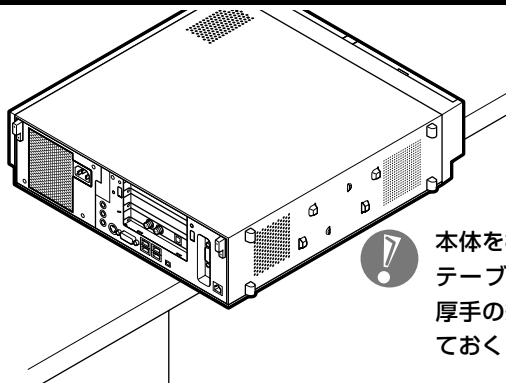
インターネットや周辺機器は後から接続

ここではまだ、インターネットには接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、インターネットや周辺機器の接続をおこないます。

スタビライザ(台座)を取り付ける

ポイント

- スタビライザは、パソコンを倒れにくいようにする部品
- ツメをはめるだけで取り付けできる(ドライバー不要)

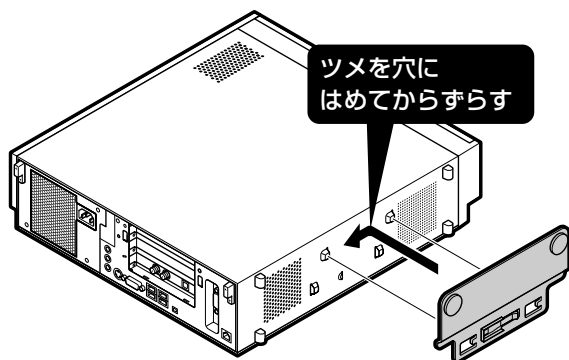
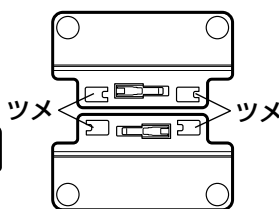
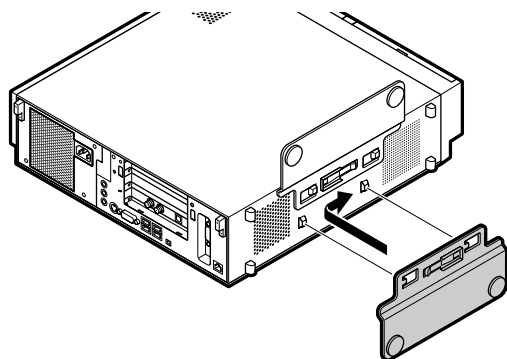
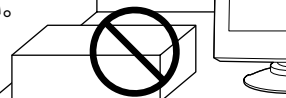
1 スタビライザを用意して、本体を横に置く

本体を横に倒すときは、机やテーブルを傷つけないよう、厚手の紙や布などを下に敷いておくとよいでしょう。

2 スタビライザをはめ込む

ツメを穴にはめてからずらす

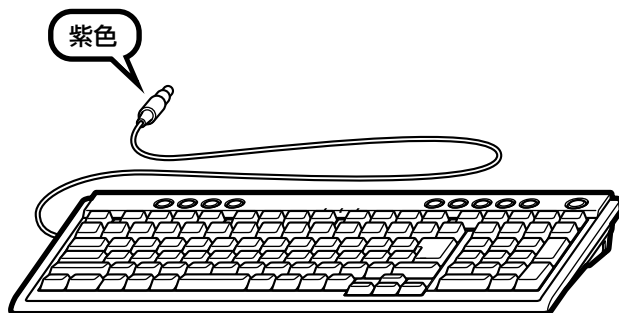
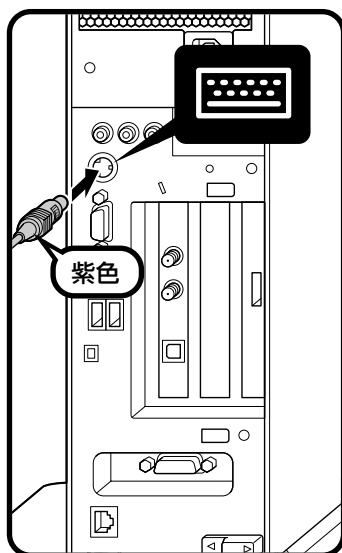
スタビライザ底面

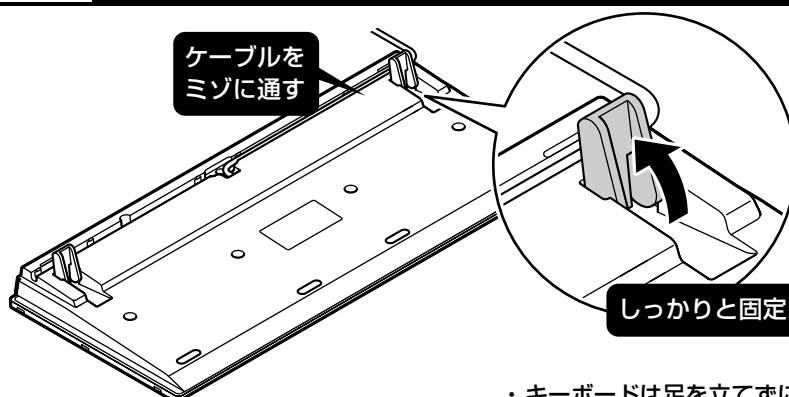
ツメ

ツメ

ツメを本体底面の穴に合わせる

このパソコンは、横置きで使用することはできません。必ず縦置きでお使いください。

キーボードを接続する

ポイント

- マークを見て、プラグの向きを合わせる

1 本体背面のコネクタにキーボードのプラグを差し込む

プラグを差し込むときは、無理に押し込まないでください。うまく差し込めないときは、もう一度プラグの向きを確認してください。

2 キーボード裏面の足を立てる

・キーボードは足を立てずに使うこともできます。

・ケーブルは、左右どちらにも出すことができます。

「マウスを接続する」(10 ページ)に進む

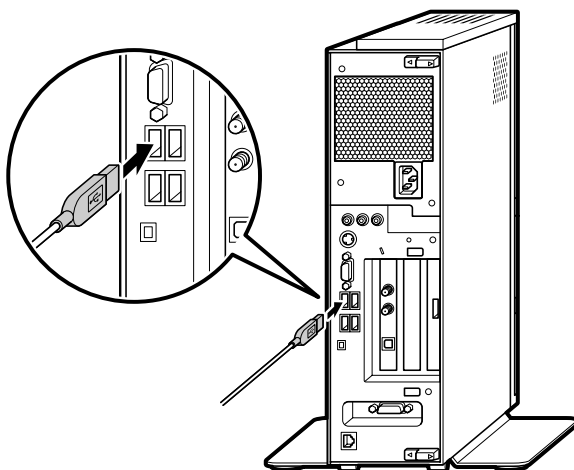
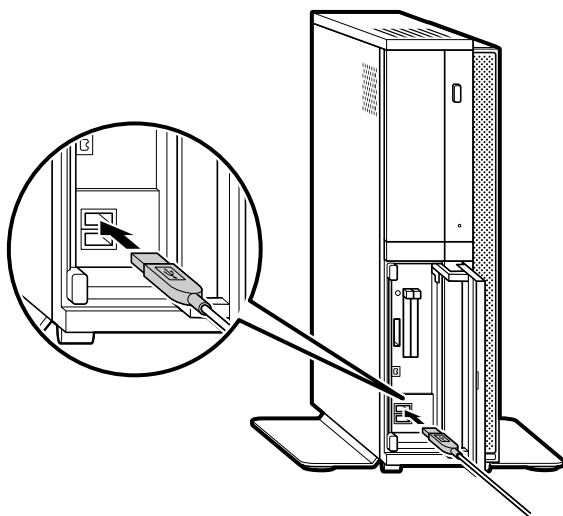
マウスを接続する

ポイント

● プラグの向きを合わせる

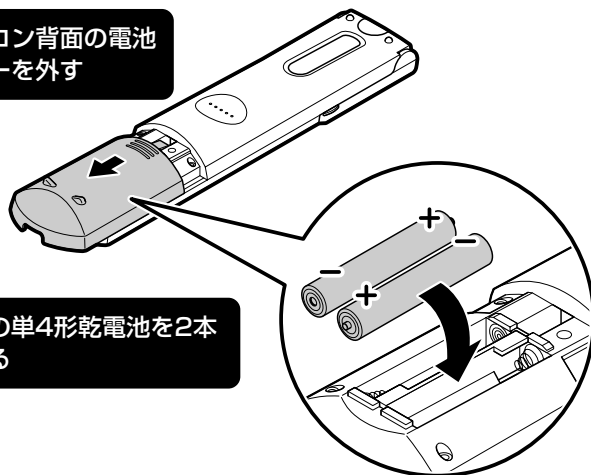
マウスのプラグをパソコンのUSBコネクタに差し込む

マウスのプラグの向きに注意して、パソコンの USB コネクタに差し込んでください。
どの USB コネクタに差し込んでもかまいません。

- マウスを接続する場合は本体に直接接続してください。
- 市販の USB ハブを使って接続しないでください。

リモコンを使う準備をする
(デジタルハイビジョンTV(地デジ/地アナ)モデルのみ)

ポイント

● 乾電池を入れる
● ＋（プラス）と−（マイナス）の向きを間違えないように

1 リモコンに乾電池を入れる

入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

・乾電池の＋（プラス）と−（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。

・ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。お早めに新しい電池と交換することをおすすめします。

・乾電池を交換する際は、単４形のマンガン乾電池またはアルカリ乾電池を使用してください。

・充電式電池、およびオキシライド乾電池は使用できません。

ディスプレイを接続する
F20WZ2

ポイント

- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F20W31 なら、17 ページへ

1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

このページで説明するのは、次のディスプレイです。

◆ 20 型ワイド液晶ディスプレイ：F20WZ2

ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ケーブルの形状は、実際の製品と多少異なります。

2 信号ケーブルをディスプレイに接続する

接続する信号ケーブルのプラグの形状を確認してください。

うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

ネジをしめるときは、交互に少しずつまわしてください。片方だけしめようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

3 信号ケーブルをパソコンに接続する

・ディスプレイのUSBケーブルを接続する場合は本体に直接接続してください。
・市販のUSBハブを使って接続しないでください。

の付いたコネクタに接続（差し込むだけ）

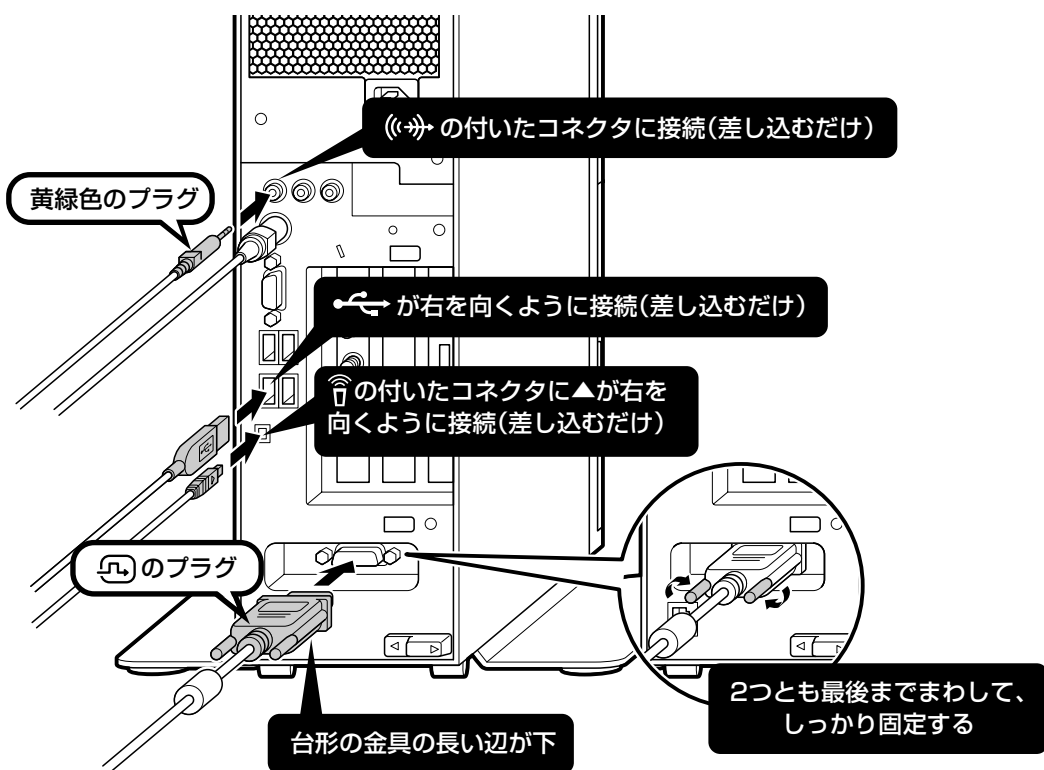
黄緑色のプラグ

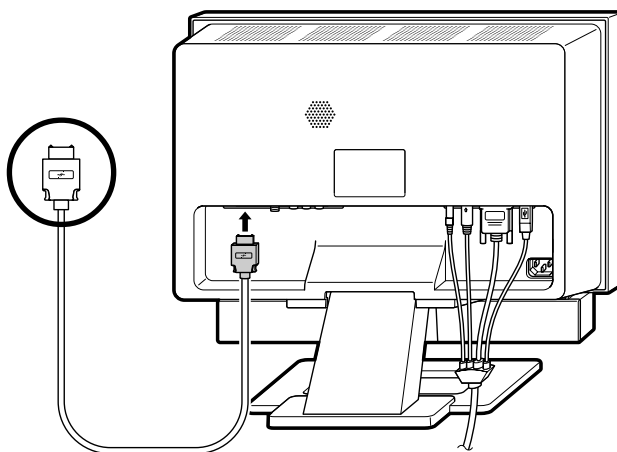
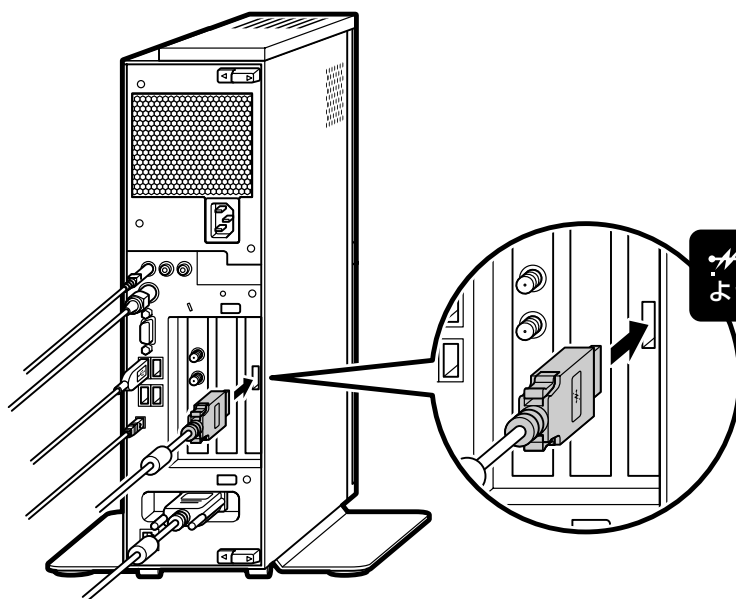
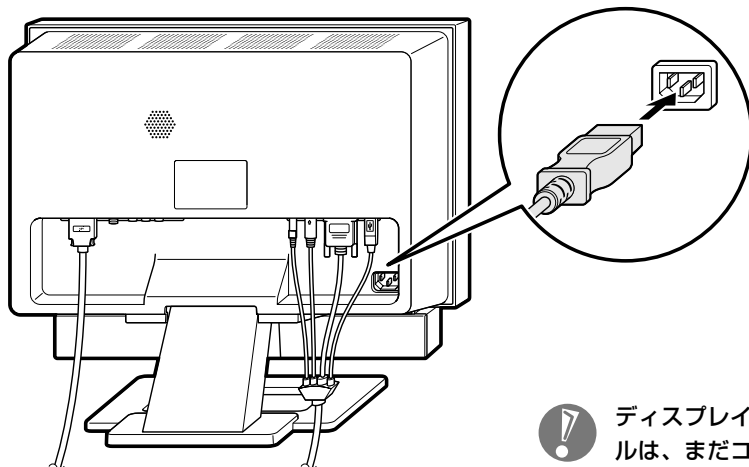
が右を向くように接続（差し込むだけ）

の付いたコネクタに▲が右を向くように接続（差し込むだけ）

のプラグ

2つとも最後までまわして、しっかり固定する

台形の金具の長い辺が下

プラグの向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。ネジは交互に少しずつまわしてください。

4 専用ビデオ通信ケーブルをディスプレイとパソコンに接続する

5 電源ケーブルをディスプレイに接続する

ディスプレイの電源ケーブルは、まだコンセントに接続しないでください。

「アンテナケーブルを接続する」(20 ページ) に進む

ディスプレイを接続する
F20W31

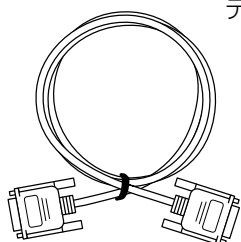
ポイント

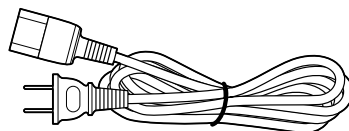
- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F20WZ2なら、12ページへ

1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

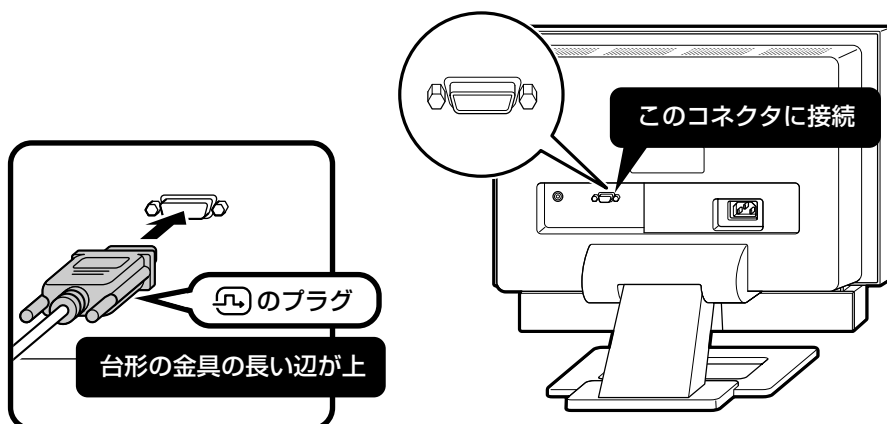
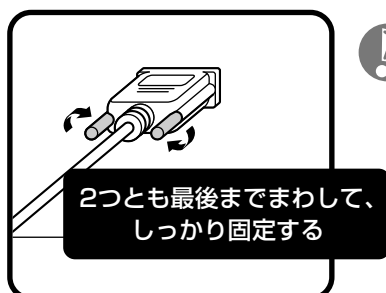
このページで説明するのは、次のディスプレイです。

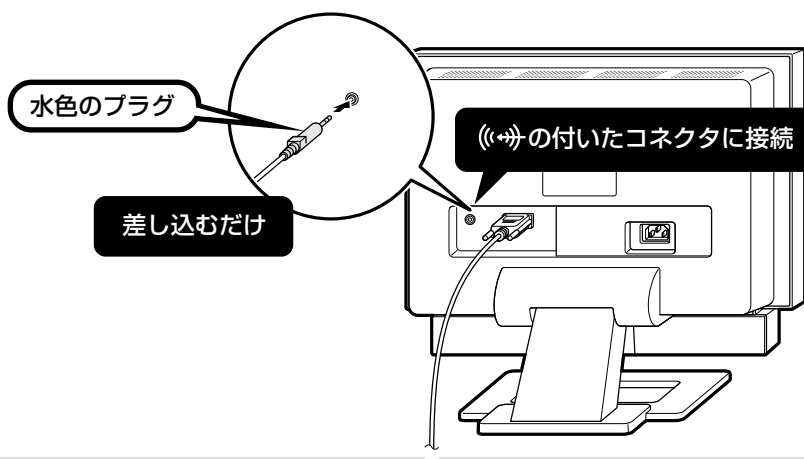
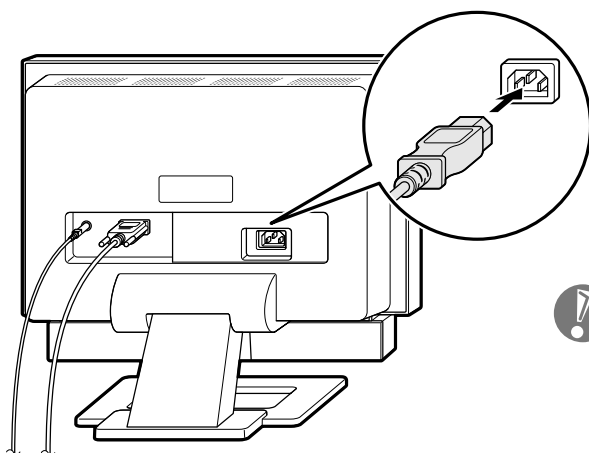
◆ 20型ワイド液晶ディスプレイ：F20W31

ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ビデオ信号ケーブル

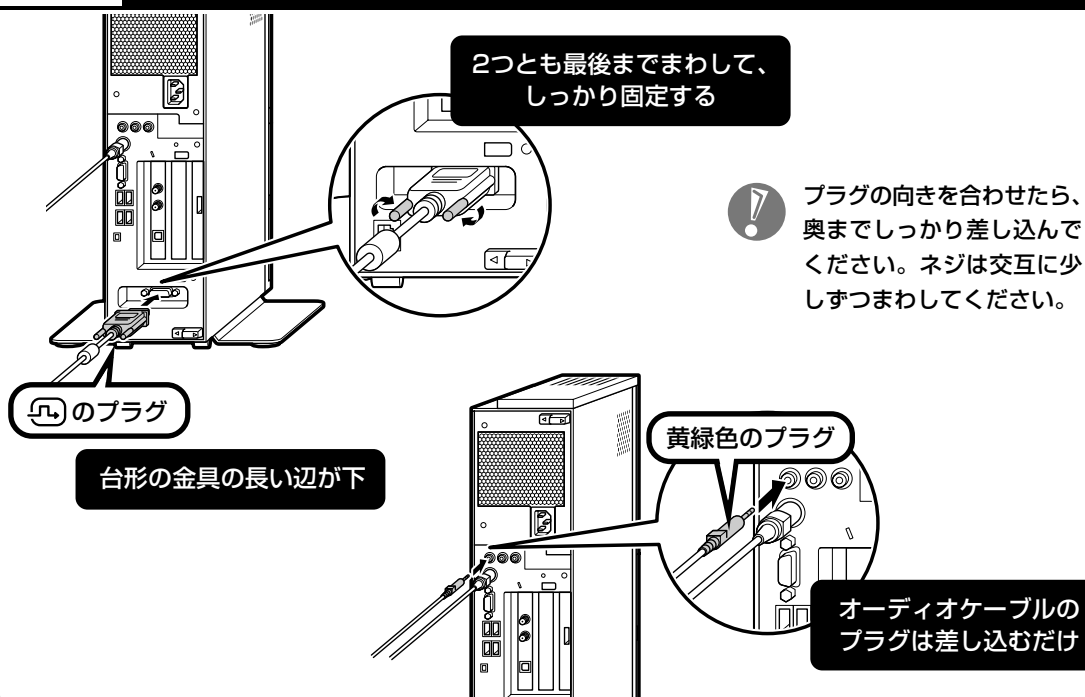
オーディオケーブル

電源ケーブル

ケーブルの形状は、実際の製品と多少異なります。

2 ビデオ信号ケーブルをディスプレイに接続する

うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

ネジをしめるときは、交互に少しずつまわしてください。片方だけしめようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

3 オーディオケーブルをディスプレイに接続する

4 電源ケーブルをディスプレイに接続する

ディスプレイの電源ケーブルは、まだコンセントに接続しないでください。

5 ビデオ信号ケーブルとオーディオケーブルをパソコンに接続する

プラグの向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。ネジは交互に少しずつまわしてください。

アンテナケーブルを接続する (デジタルハイビジョンTV(地デジ/地アナ)モデルのみ)

ポイント

- アンテナケーブルが手元にない場合は、この項目を飛ばして次の「ワイヤレスLANアンテナを接続する」(24ページ)に進んでください。アンテナケーブルは、第3章の作業が終わった後で接続しても問題ありません。

用意するもの

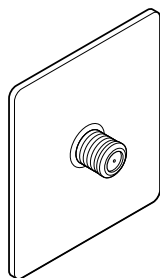
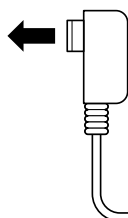
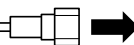
ご自宅のアンテナコネクタの形状や、今お使いのアンテナケーブルの形状によって必要なものが異なります。

このパソコンのアンテナ入力端子との接続には、F型コネクタプラグが付いた同軸ケーブルが必要になります。今お使いのアンテナケーブルの状態に応じて、F型コネクタプラグ、またはF型コネクタプラグ付きアンテナケーブルをお買い求めください。

F型コネクタプラグ付き
アンテナケーブル

このほか、アンテナケーブルの状態によっては、U/V混合器や分配器などが必要になります。お使いのアンテナケーブルの状態に合わせて、適したものをお買い求めください。

ご自宅のアンテナコネクタがF型コネクタ用端子の場合

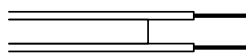
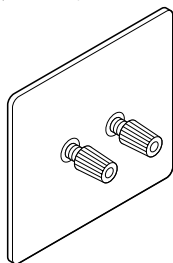
F型コネクタプラグ付きのアンテナケーブルが必要になります。市販のF型コネクタプラグの付いた同軸ケーブルをお買い求めいただくか、すでに同軸ケーブルをお持ちの場合は市販のF型コネクタプラグを取り付けてください。取り付け方法について詳しくは、F型コネクタプラグのマニュアルをご覧になるか、電器店にお問い合わせください。

アンテナケーブルには上の図のように一方のプラグの形状が箱型になっているものもあります。その場合は次のように接続してください。

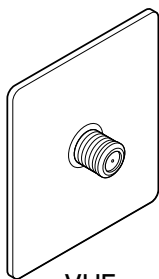
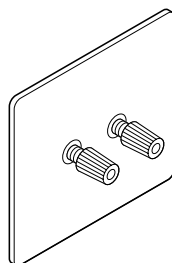
・箱型→壁の端子

・ネジタイプ→パソコン本体

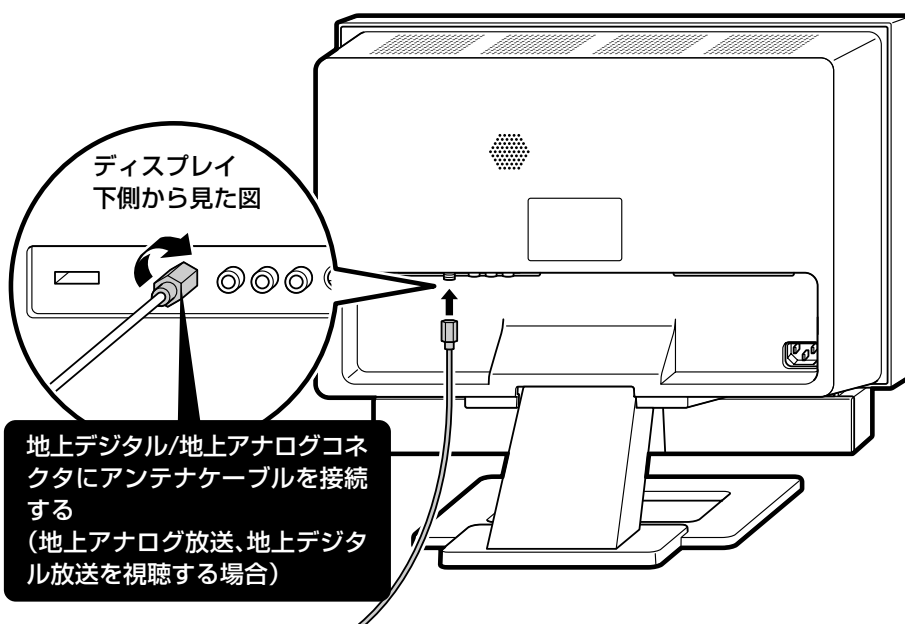
箱型のプラグをパソコン側のコネクタに使用すると、ノイズの影響を受けやすくなり、放送を正常に受信できない場合があります。

アンテナケーブルに平行フィーダ線を使用している場合

ご自宅のアンテナが下の図のような形状で、アンテナケーブルに平行フィーダ線を使用している場合は、市販の整合器を使用して、同軸ケーブルに変更してください。そして、ケーブルの先端にＦ型コネクタプラグを取り付けてパソコン本体につなぎます。詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナケーブルが２本（UHF と VHF）の場合

ご自宅のアンテナコネクタが下の図のように2種類あり、アンテナケーブルを2本使用している場合は、市販のU/V 混合器を取り付けてケーブルを１本にします。そして、ケーブルの先端にＦ型コネクタプラグを取り付けてパソコン本体につなぎます。詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナケーブルをパソコン本体とテレビ（またはビデオ）の両方に接続したい場合は、市販の分配器を使えば、アンテナケーブルを２本にできます。ただし、アンテナを分配すると、電波がその分弱くなります。このため、ディスプレイの画面がチラついたり、きれいに映らないことがあります。この場合は、市販のアンテナブースターを接続してください。詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

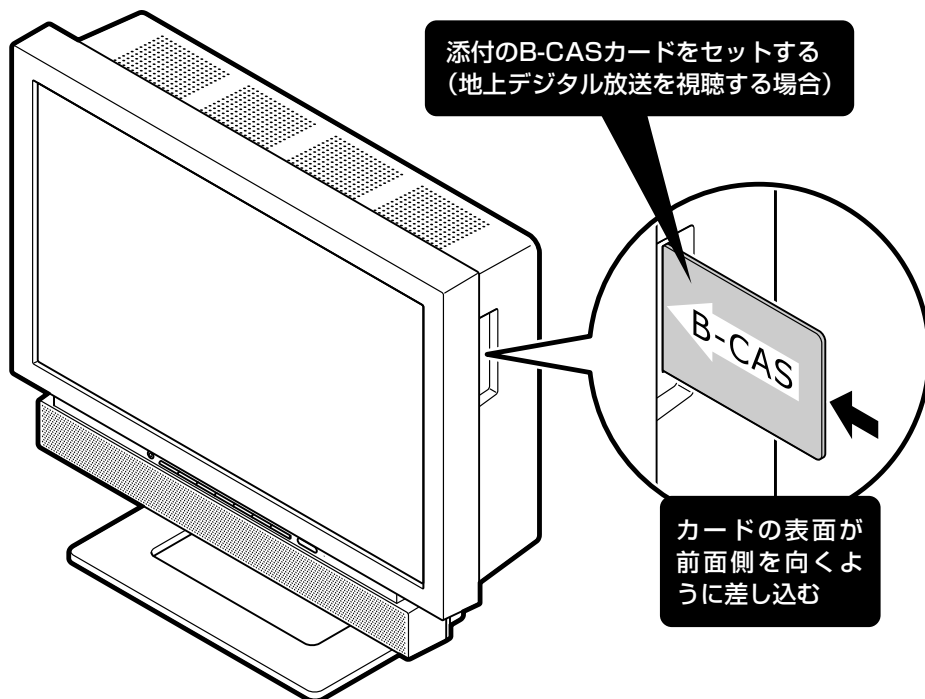
アンテナケーブルをつなぐ

接続例

パソコンのセットアップ作業が終わってからアンテナケーブルをつなぐ場合は、アンテナケーブルをつなぐ前にパソコン本体や周辺機器の電源を切り、電源ケーブルを取り外してください。

B-CASカードをセットする
(デジタルハイビジョンTV(地デジ/地アナ)モデルのみ)

ポイント
● B-CASカードは必ずセットする

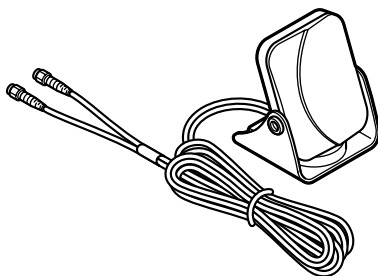
デジタル放送を受信するためには、本機に添付されている「B-CASカード(ビーキャスカード)」をセットする必要があります。B-CASカードをセットしないと、デジタル放送を受信できません。
B-CASカードについて詳しくは『テレビを楽しむ本』付録の「B-CASカードについて」をご覧ください。

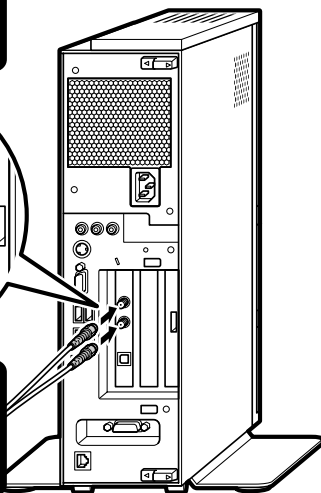
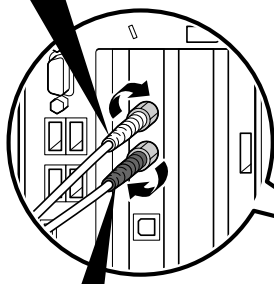
B-CASカードのセット方法

B-CASカードは、デジタル放送の各種サービスを利用するときに必要なカードです。サービスを受けられるようにするには、B-CASカードのユーザー登録が必要です。B-CASカードについて詳しくは、『テレビを楽しむ本』の付録をご覧ください。

ワイヤレスLANアンテナを接続する（トリプルワイヤレスLANモデルのみ）

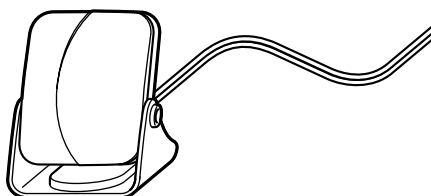
ポイント

● ワイヤレスLANを利用しない場合は、この項目を飛ばして次の「電源ケーブルを接続する」（26ページ）に進んでください。ワイヤレスLANアンテナは、第3章の作業が終わった後で接続しても問題ありません。

1 ワイヤレスLANアンテナをつなぐ

ワイヤレスLANアンテナ

本体背面の𝖸と書かれているコネクタにワイヤレスLANアンテナのコネクタプラグを差し込んでください。

パソコンのセットアップが終わってからアンテナケーブルをつなぐ場合は、アンテナケーブルをつなぐ前にパソコン本体の電源を切り（シャットダウン）、周辺機器の電源を切って、電源ケーブルを取り外してください。

2 ワイヤレスLANアンテナを設置する

ワイヤレス LAN アンテナは、見通しの良い安定した場所に置いてください。できるだけ高い位置に設置することをおすすめします。

次のような場所は、電波の影響が出やすいので、ワイヤレス LAN アンテナを置かないでください。

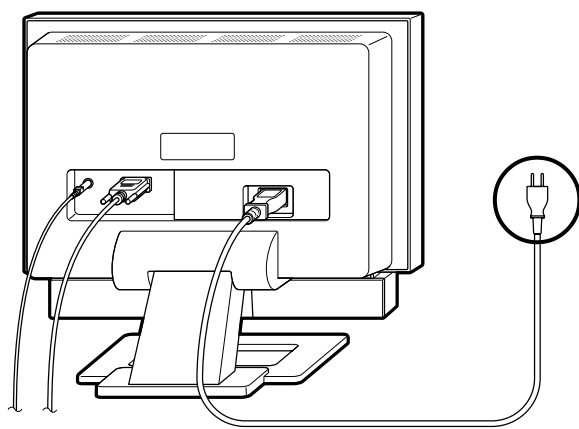
・スチール机やスチール棚など、金属製のもの

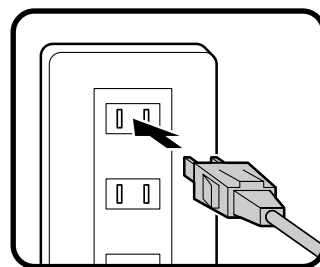
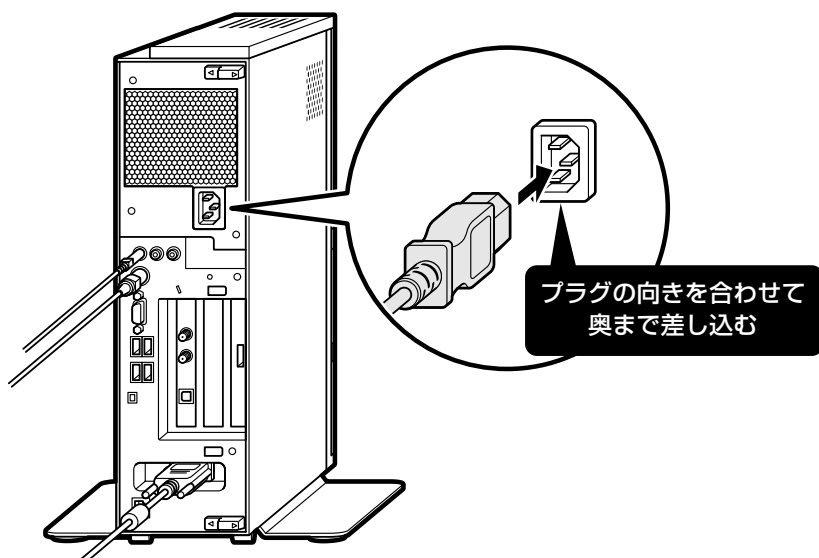
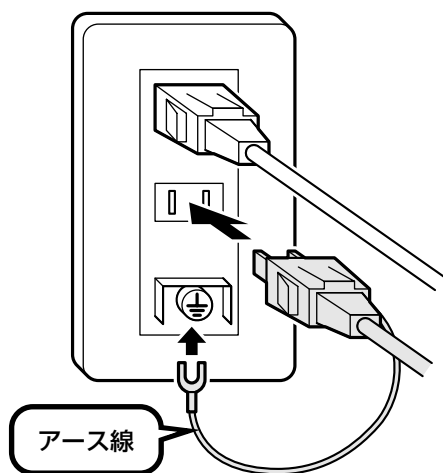
・Bluetooth 機器、携帯電話、コードレス電話、電子レンジなどの近く

電源ケーブルを接続する

ポイント

- ディスプレイ、パソコン本体の両方ともつなぐ
- プラグの向きを合わせる
- もう一度、全体の接続を見なおす

1 ディスプレイの電源ケーブルをコンセントに差し込む

・モデルによって、ディスプレイ背面の形状は異なります。

・F20WZ2 にはテレビ機能が内蔵されています。パソコン動作時、スリープ状態、休止状態の時はディスプレイの電源ケーブルを抜かないでください。パソコンとディスプレイ間の通信に失敗し、テレビ機能(視聴/録画など)が正常に動作しない場合があります。
ディスプレイの電源ケーブルを抜いてしまった場合は、電源ケーブルを接続しなおし、一度、パソコンの電源を切ってください。

2 パソコン本体背面に電源ケーブルを接続する

3 もう一方のプラグをコンセントに差し込む

先にアース線を接続してから、プラグを差し込んでください。

- アース線の端子部分にはキャップが付いています。接続するときに取り外してください。
- 電話線用のアース端子には接続しないでください。通話中に雑音が入るおそれがあります。
- アース端子付きのコンセントが利用できないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

電源ケーブルを取り外すときは、先にプラグを抜いてから、アース線を取り外してください。

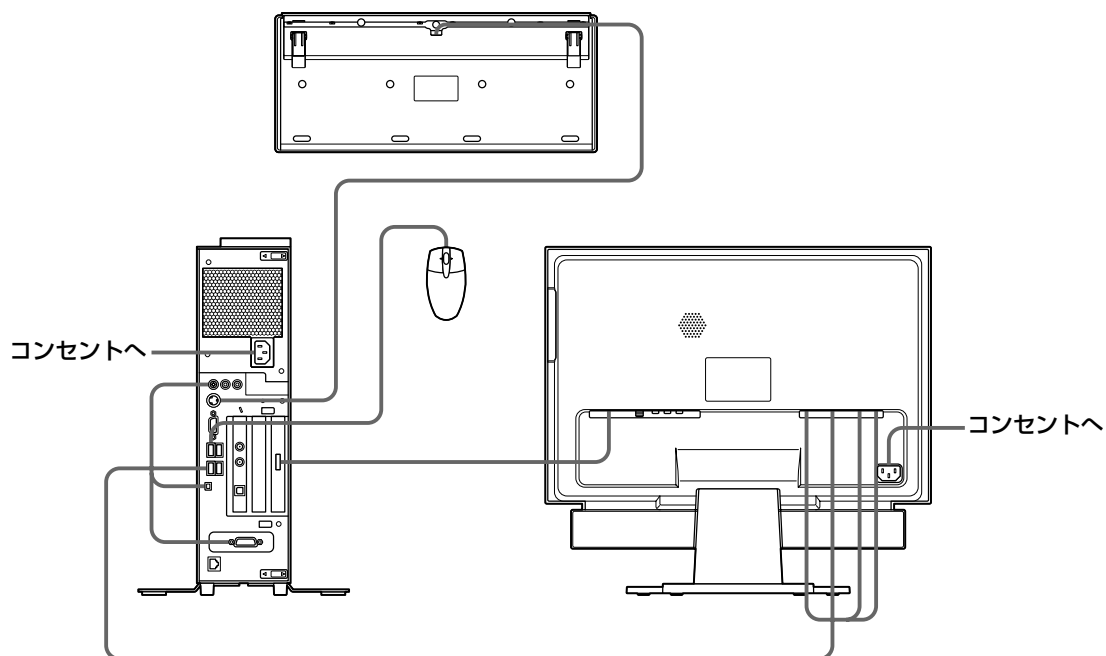
これで接続は完了です。

次ページからの接続完成図で確認してください。完成図は、お買い求めのディスプレイのモデルに合ったものをご覧ください。

F20WZ2

接続完成図（背面）

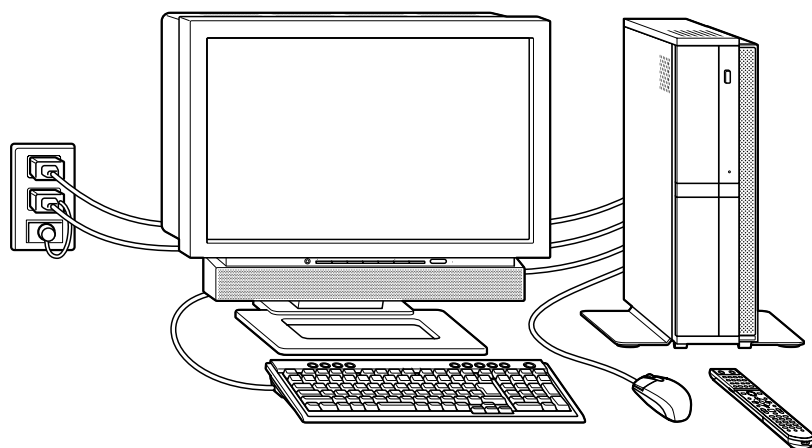
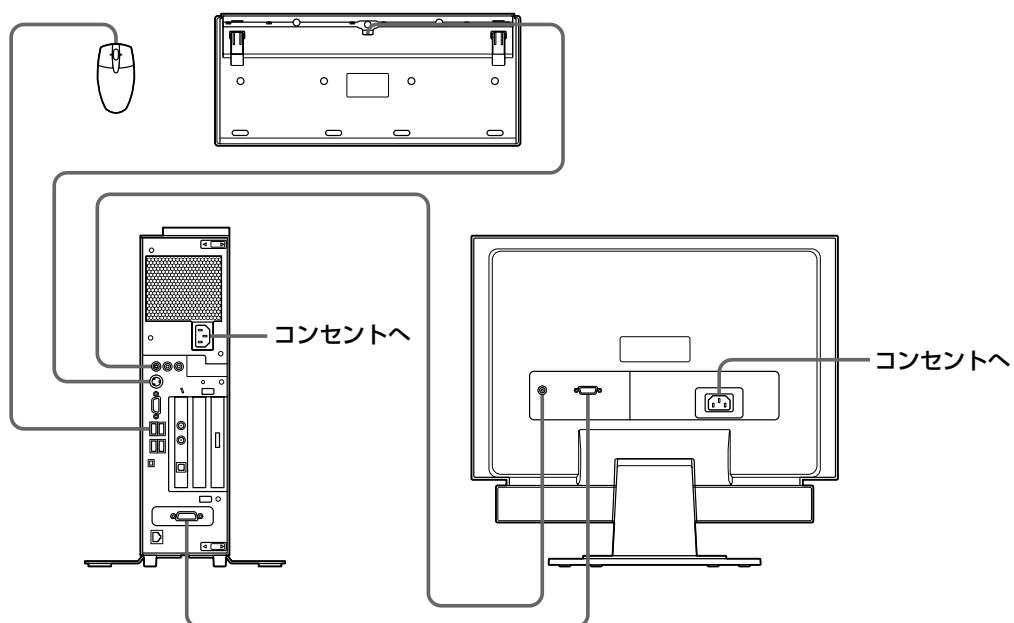
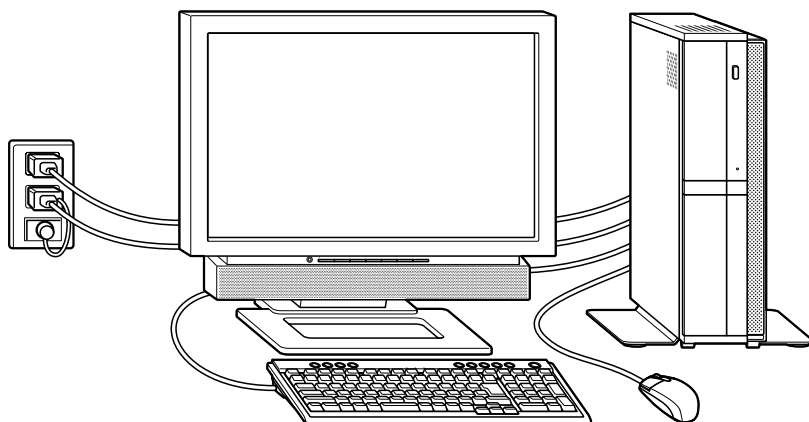
コンセントへ

コンセントへ

接続完成図（前面）

F20W31

接続完成図（背面）

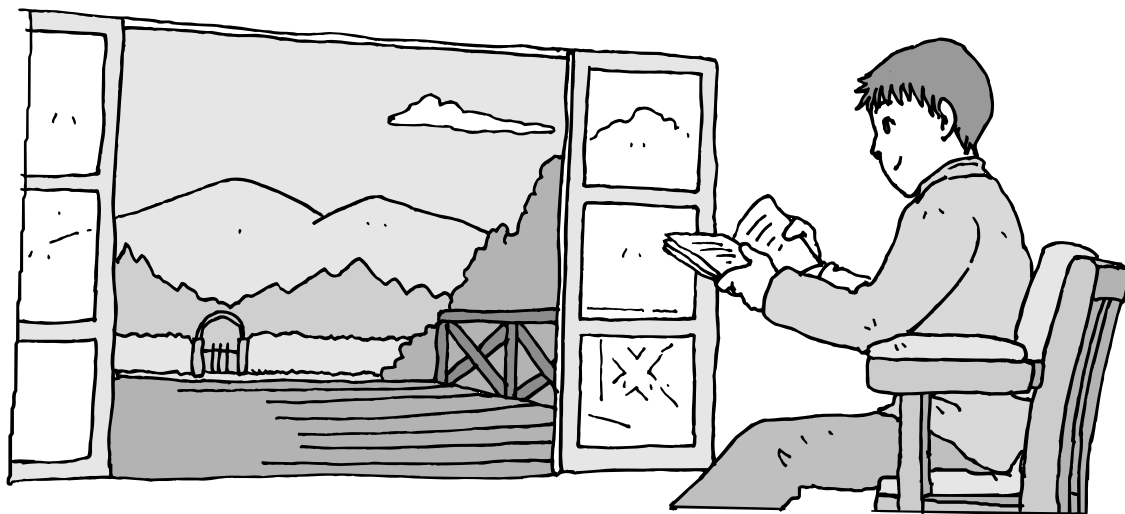
コンセントへ

コンセントへ

接続完成図（前面）

インターネット周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第３章　セットアップを始める」に進んでください。第３章で説明している作業が終わってからインターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源ケーブルなどが人の通る場所にないことを、もう一度確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

第3章

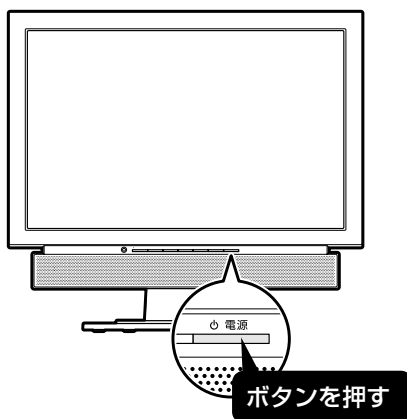
セットアップを始める

今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：約30分

電源を入れる

ポイント
● 電源スイッチの場所を確認しておく

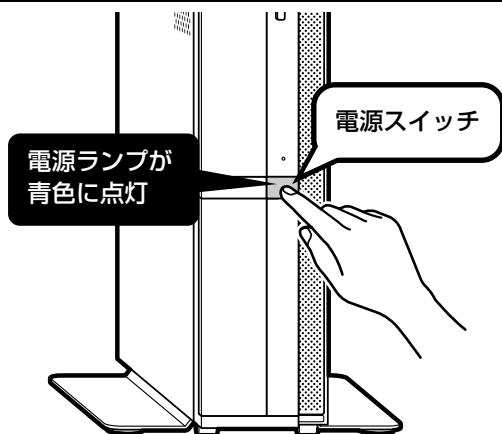
1 ディスプレイの電源を入れる

ディスプレイの形状は、モデルによって異なります。

F20WZ2をお使いのかたは、ディスプレイの電源を入れると自動的にパソコン本体の電源も入ります。ここでディスプレイの電源スイッチを押した場合、手順２へ進む必要はありません。

液晶ディスプレイのドット抜けについて

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※（ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点）が見えることがあります。
また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。
これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

※社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインに従い、ドット抜けの割合を「付録」の「仕様一覧」（191ページ）または『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」に記載しています。ガイドラインの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

2 パソコン本体の電源を入れる

・F20WZ2をお使いのかたは、ディスプレイの電源を入れると自動的にパソコン本体の電源も入ります。手順1でディスプレイの電源スイッチを押した場合、ここでパソコン本体の電源スイッチを押す必要はありません。

・電源スイッチを押しても、電源ランプが点灯しない場合、電源ケーブルが正しく接続されていないことが考えられます。「電源ケーブルを接続する」(26ページ)をご覧ください。

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）などが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない!

セットアップ作業がすべて終わるまでに、約30分かかります。「ここで一段落」（50ページ）までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源ケーブルをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源ケーブルをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121 コンタクトセンターにお問い合わせください。

パソコンの設定を始める

ポイント

- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

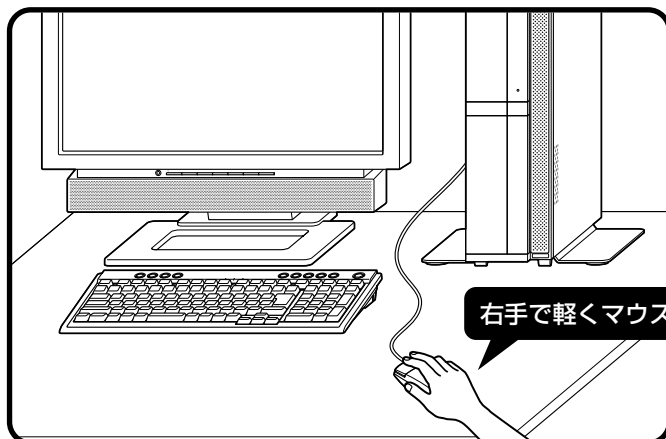
1 セットアップの最初の画面を確認する

「Windowsのセットアップ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

◯は、「何もしないで待ってて」の合図

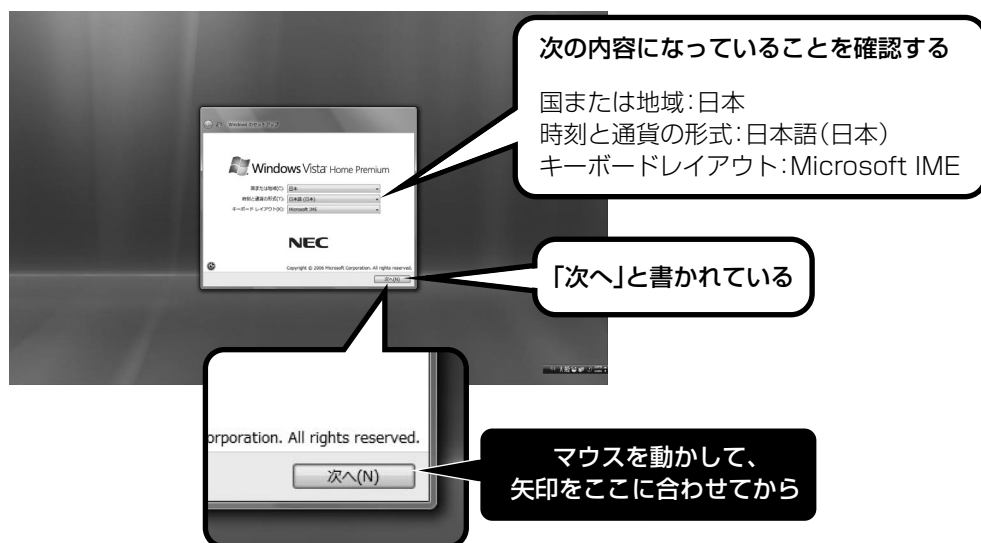
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面に◯のマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、マウスのボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2 マウスを動かす

このマウスは、マウス底面から出ている赤い光をセンサーが検知して、動きを判断します。濃淡のはっきりした模様や柄のないところ、光沢や反射のないところで使うと、センサーが光を検知しやすく、快適に動きます。

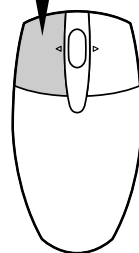
- マウス底面から出ている光を直接見ないでください。
- まだ、マウスのボタンを押さないでください。

マウスを動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。マウスを動かすときは、マウスの前後左右に 10cm 程度のスペースをあけるとよいでしょう。肩の力を抜き、手首だけで動かすことがコツです。

3 画面内の右下に矢印を動かす

何も設定を変えず、「次へ」に画面の矢印 （マウスポインタ）を合わせて左のクリックボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「ライセンス条項をお読みになってください」と書かれた画面になります。

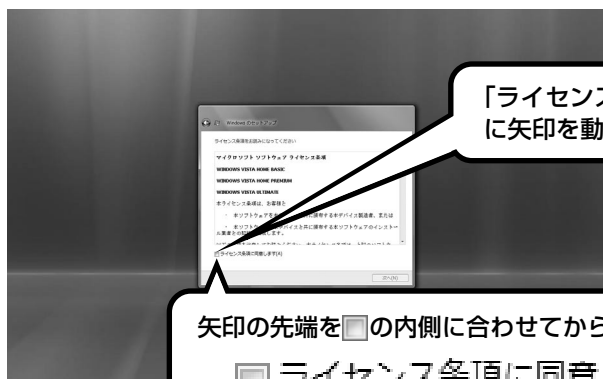
この画面では、設定を変えないでください。設定を変えると、画面表示が日本語にならないなどの問題が起こる場合があります。

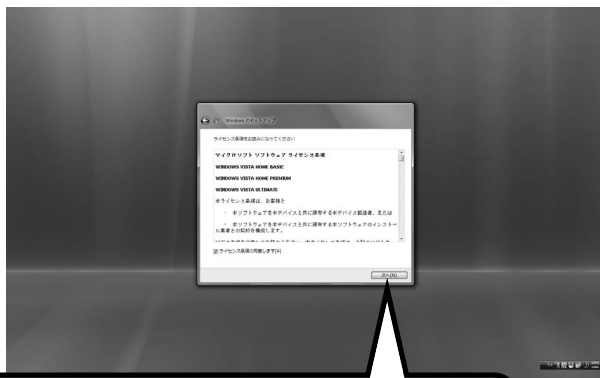
クリック

このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

画面を見ながら手順を進める

ポイント
- 画面に書かれたことを読みながら
- 指示にしたがってクリック

1 ライセンス条項に同意する

ライセンス条項に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。

これで、ライセンス条項に同意することになります。「ライセンス条項に同意します」の左が□から☑に変わらないときは、矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

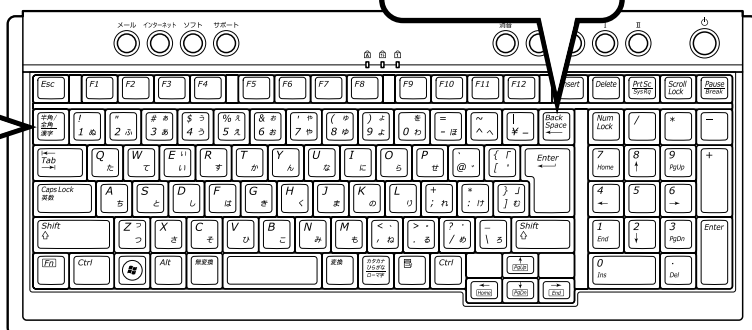
「ライセンス条項」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある▼をクリックします。

キーボードを使って名前を入れる

● ローマ字(アルファベット)で名前を入れる

1 自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(｜)が点滅しているのを見てから、キーボードで自分の名前をローマ字で入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー名を入力してください」の下の欄をクリックしてください。

・ユーザー名の追加や変更は、セットアップ作業が終わった後でできます。

・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

入力を間違えたら

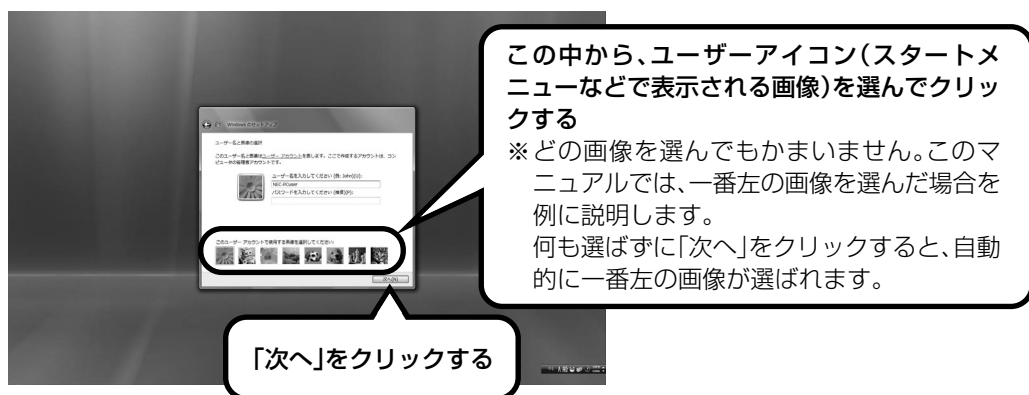
キーボードの【BackSpace】(バックスペース)を押してください。

ひらがなが表示されるときは

キーボードの【BackSpace】を押して、表示された文字をすべて消してください。次に、キーボードの【半角/全角】を押すと、アルファベットが表示されるようになります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名：

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす（再セットアップする）とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

パスワードは、ここでは設定しません。セットアップ作業が終わってから設定します。

2 次の画面に進む

・デスクトップの背景を選んでクリックすると、画面が選んだ背景に変わります。

・キーボードの操作に慣れていないかたは、表示された名前のまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「VALUESTAR」(バリュースター)とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・**次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。**

CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

・**すでに何台かパソコンをお使いの場合は、同じ名前を付けないでください。ネットワークで接続したときにエラーが表示されます。**

・**39 ページで入力した自分の名前と同じ名前は入力しないでください。**

3 コンピュータを保護する設定をする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。Windowsの更新について詳しくは、『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」をご覧ください。

4 さらにセットアップ作業を進める

「開始」をクリックすると、「しばらくお待ちください。コンピュータのパフォーマンスを確認しています。」と表示されます。その後、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。
次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

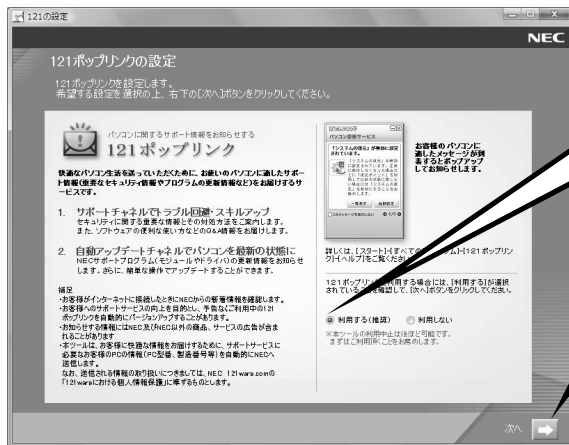
この後、再起動するたびに、「ウェルカムセンター」の画面が表示されますが、ここではまだ操作しないでください。「ウェルカムセンター」の説明は、「ここで一段落」（50ページ）でおこないます。

パソコンが再起動しても、
まだセットアップ作業が残っています。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

● NEC から新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 ➡ をクリックする

「利用する(推奨)」の左が◉になっていることを確認して、

➡ をクリックする

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報(危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ（修正プログラム）やアップデートプログラム）を、NEC からインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

画面右下に次のようなメッセージが表示されることがあります。

ここでこの画面が表示されても問題ありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

ソフトを使えるようにする

ポイント

● 目的に合わせて、パソコンに入れるソフトを選べる

1　次の画面に進む

「標準セットアップ」が◉になっていることを確認して、

「次へ」をクリックする

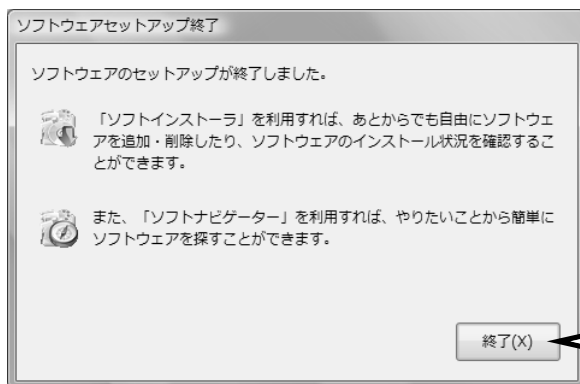
・通常は、「標準セットアップ」を選んでください。

・「ソフトウェア一覧から選択」の左にある□をクリックして☑にすると、一覧から使いたいソフトを選んでインストールできます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

・「最小セットアップ」を選ぶと、ソフトを追加せず、必要最小限のソフトだけでパソコンを使い始められます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

2 ソフトを追加する

画面に表示される予想時間は目安です。「ソフトウェアセットアップ終了」の画面が表示されれば、正しくソフトが追加されています。

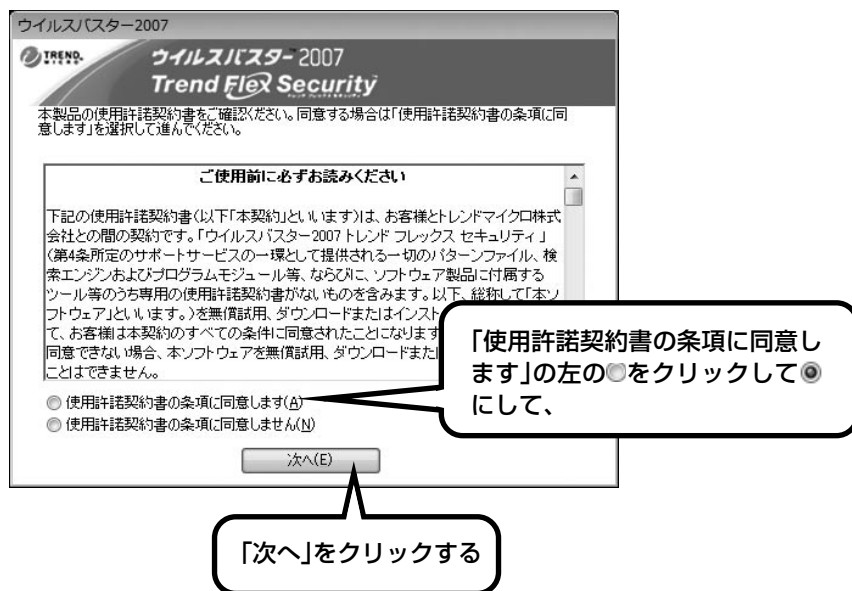
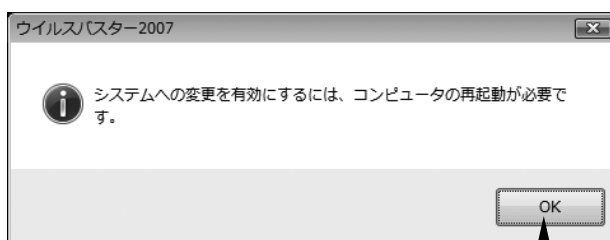
「インストール中」画面が表示され、ソフトの追加が始まります。ソフトの追加が終わると、次の画面が表示されます。

自動的に再起動します。次の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

3 ガジェットを登録する

再起動後、「復元ポイントを作成しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
しばらくすると、次の画面が表示されます。

画面右側に、NEC オリジナルガジェットが表示されます。

4 ウイルスバスターの使用許諾契約書を確認する

続けて、「ウイルスバスター 2007」の画面が表示されます。
表示された内容を読んで、同意できる場合は次の手順で操作してください。

- 同意できない場合は、「使用許諾契約書の条項に同意しません」を◉にして、「次へ」をクリックします。
  パソコンを安全に使うため、同意することをおすすめします。
  同意しなかった場合、パソコンに「ウイルスバスター2007」がインストールされていますが、使用することはできない状態になります。この場合、「ソフトインストーラ」から「ウイルスバスター 2007」を削除してください。「ソフトインストーラ」について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフトの追加と削除」をご覧ください。
- 「ウイルスバスター 2007」を削除した後で、再度、「ウイルスバスター 2007」をお使いになりたい場合は、「ソフトインストーラ」から「ウイルスバスター 2007」を追加してください。
  追加後、「スタート」-「すべてのプログラム」-「ウイルスバスター 2007」-「ウイルスバスターを起動」をクリックすると、使用許諾契約書の画面が表示されます。

自動的にパソコンが再起動します。次ページの画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

ここで一段落

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

しばらくすると、「ウェルカムセンター」が表示されます。今は、[x]をクリックして画面を閉じてください。

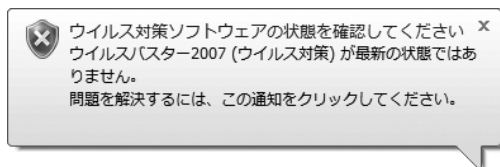
ウェルカムセンター

次に起動したときからは、ウェルカムセンターの画面に「起動時に実行します」のチェックが追加されます。「起動時に実行します」の左の☑をクリックして□にすると、次回からこの画面は表示されなくなります。

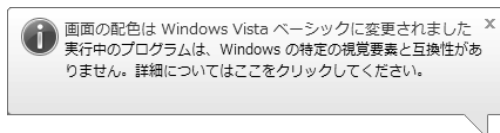
最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、パソコンの電源スイッチを押すと、いつもこの画面（デスクトップ画面と呼びます）が表示されるようになります。

デスクトップ画面

複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

これは、このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が最新の状態ではない可能性があることをお知らせするものです。この後、パソコンをインターネットにつなぐとソフトを最新の状態にできます。インターネットにつなぐまでは、このメッセージが表示されても、何もしなくてかまいません。
詳しくは、「パソコンを安全に使うための設定をおこなう」（126 ページ）をご覧ください。

画面の表示について

ソフトを使っているときに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

これは、ソフトを利用するために、Windows Vistaの画面表示が変わることをお知らせするものです。このメッセージが表示されたときは、ウィンドウの透明部分など一部の表示が変更されます。
変更された画面表示は、ソフトを終了するともとに戻ります。

日本語入力システムについて

このパソコンに、ご購入時の状態で設定されている日本語入力システムは、Windows Vistaに搭載されているMicrosoft IMEです。Office 2007モデルでは、Microsoft® IME 2007を使うこともできます。

日本語入力システムの変更方法については、「サポートナビゲーター」-「解決する」-「Q&A一覧」-「文字入力／キーボード」-「IME言語バー（日本語入力システム）」の「日本語入力システムを切り換えたい《Office 2007モデルの場合》」をご覧ください。

Windowsのパスワードを設定する

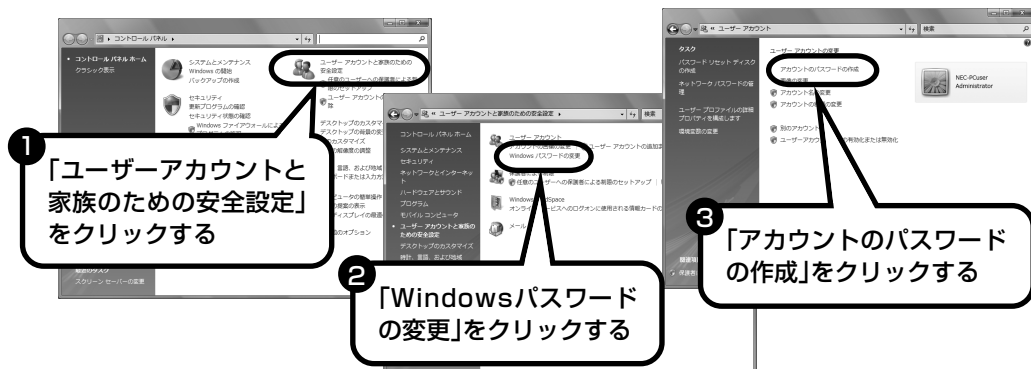
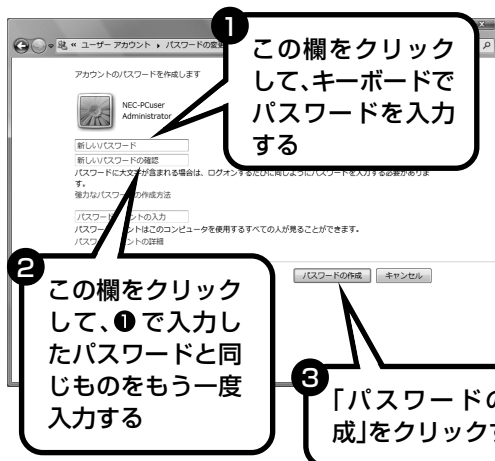
ポイント
- パソコンをより安全に使うために、パスワードを設定
- パスワードは覚えやすく、忘れないものを

パスワードの設定

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、次の手順でパソコンを使うときにパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。

テレビ初期設定が終わった後にパスワードを新たに設定、または変更したときは、「自動ログオン」の設定を変更してください。「自動ログオン」の設定方法については、『テレビを楽しむ本』付録の「自動ログオンの設定をする」をご覧ください。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 パスワードを設定する

- 入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。
- 覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。
- 「パスワードのヒントの入力」欄に、パスワードを思い出すためのヒントを入力しておくと、パスワード入力を間違えたときにヒントが表示されるようになります。

これで、Windowsのパスワードが設定されました。次回から、シャットダウン後にパソコンの電源を入れると、パスワードの入力画面が表示されます。

お客様登録のお願い

お客様登録はこれからパソコンを安心・快適にお使いいただく上で非常に重要です。NEC パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com（ワントゥワンウェア・ドット・コム)」では、お客様登録されたかたに充実したサポート・サービスを提供しております。この機会に是非ご登録ください。
※法人のお客様としてご使用の場合も、ご登録をおすすめします。
登録料・会費無料

ご登録の特典

特典１　電話サポート

商品についての電話相談窓口「121 コンタクトセンター」に優先的につながります。また、受付時間延長・予約サービス・リモートサポートなどもご利用いただけます。詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典２　メールサービス

ご利用製品のサポート情報やキャンペーンのご案内などをメールニュースにてお届けいたします。詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典３　インターネットサポート

121ware.com で「ログイン ID」を取得していただきますと、さまざまなサポート・サービスをご利用いただけます。詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。
ログインIDは、「121ware.com」（http://121ware.com/）およびNECショッピングサイト「NEC Direct」（http://www.necdirect.jp/）で共通にご利用いただける ID です。取得方法については『121ware ガイドブック』をご覧ください。

◆ 121ware.com でご利用いただけるサポート・サービス

ログインIDをご登録いただくと…	電話サポートがよりつながりやすくなる	使い方相談の受付時間が２時間延長される	インターネットから修理の申し込みができる	【買取サービス】の申し込みができる
ログインIDとE-mailアドレスをご登録いただくと…	オリジナルメールニュースをお届け	「NEC Direct」※でお得にお買い物	※日本電気(株)が運営するショッピングサイトです。	
ログインIDと保有商品をご登録いただくと…	保有商品の情報をすばやくGETできる	保有商品に関するQ&A情報をすばやくGETできる	保有商品に合うモジュールをすばやくGETできる	パソコンを最新の状態にできる【自動アップデート】
ほかにもいろいろなサービスが！	インターネットから電話サポート予約サービス	お役立ち情報【フォローアップメールサービス】		

最新情報・詳細につきましては、インターネットでご確認ください。

お客様登録の方法

お客様登録をして、電話の問い合わせのときに必要な「121wareお客様登録番号」と、インターネットサポート・サービスをご利用になる際に必要な「ログイン ID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様に合ったサポート・サービスをご提供させていただきます。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121ware お客様登録番号」と「ログイン ID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX 登録からでは「121ware お客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログイン ID」の取得をおすすめします。

インターネット登録（推奨）

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第５章または第６章をご覧ください。

インターネットに接続して、NEC パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイアカウント（http://121ware.com/my/）から登録します。詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

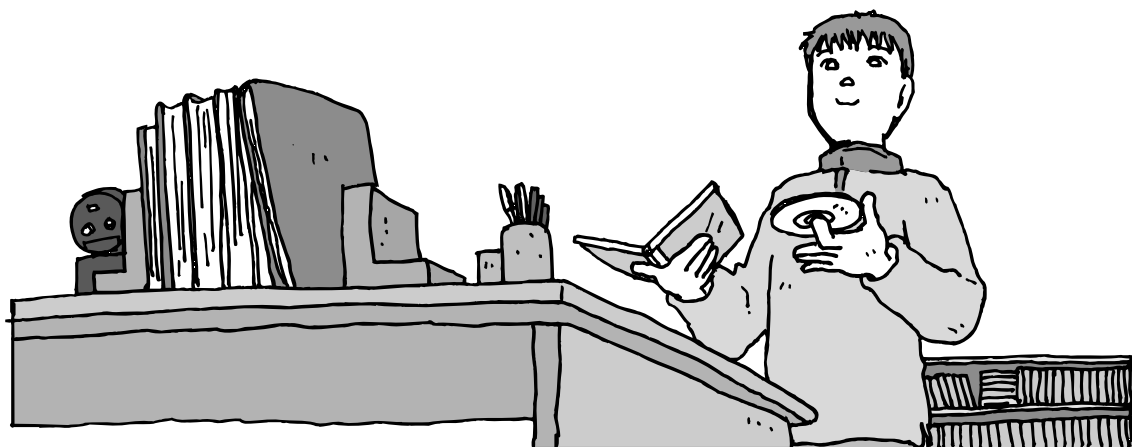
FAX 登録

FAX 用紙は NEC パソコン情報 FAX サービスから取り出してください。

お手持ちの FAX から「0120-977-121」（フリーコール）に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX 情報サービス窓口番号である９番を押します。
FAX 情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX 番号 3002 と＃を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAX でお送りください。

※番号をよくお確かめになり、おかけください。

第4章

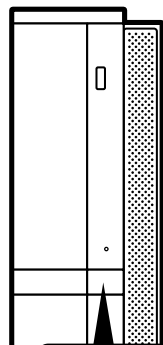
基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、メモリーカードやCD-ROM、DVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

パソコンを終了する

Windows Vistaでは、通常、パソコンを終了するときに電源を切らず（シャットダウンせず）、スリープ状態にします。スリープ状態は、電力の消費を抑えながら、すぐに作業を再開できるようにする省電力機能です。完全に電源を切りたい（シャットダウンしたい）場合は、「電源を切る（シャットダウンする）」（60ページ）をご覧ください。

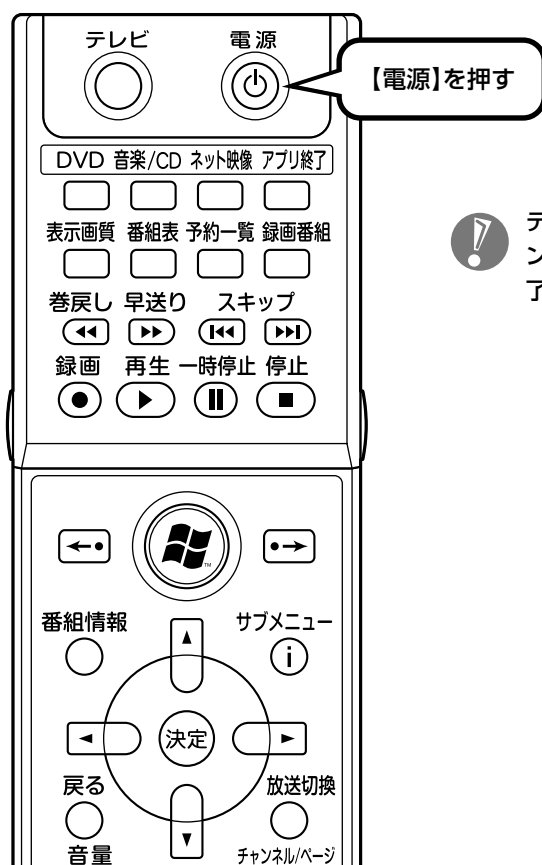
パソコンを終了するときは、マウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。いきなり電源ケーブルを抜いたりするのは、絶対ダメです。

1 画面を見ながら、マウスを操作してパソコンを終了する

Windows Updateなどが自動的におこなわれ、パソコンをいったん終了する必要があるときに、が のように変わることがあります。その場合も、そのままクリックしてください。このとき、パソコンはスリープ状態ではなく電源を切った（シャットダウンした）状態になるため、次回パソコンを使うときに、通常よりも時間がかかります。

2 電源ランプを確認する

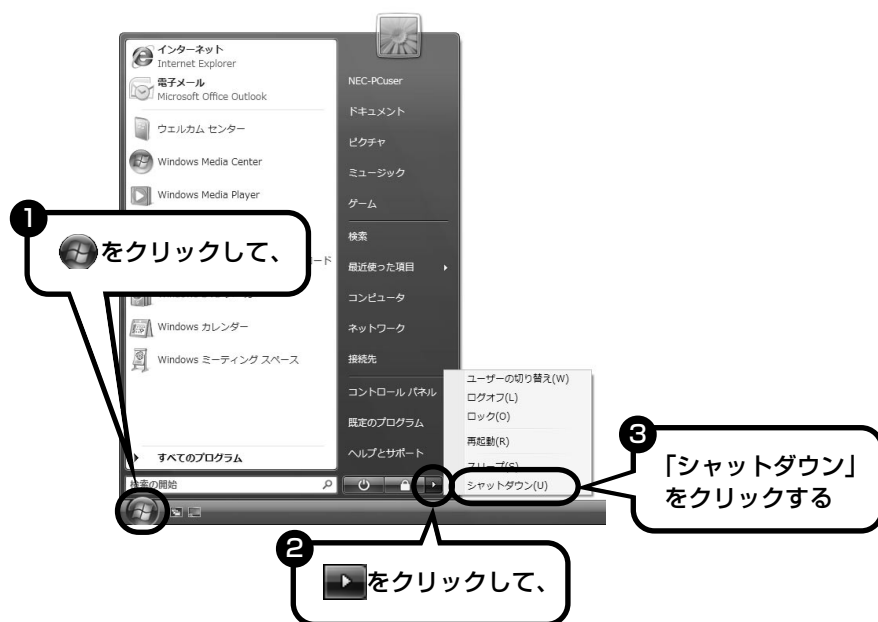
パソコン本体の電源ランプが点滅し、スリープ状態になります。

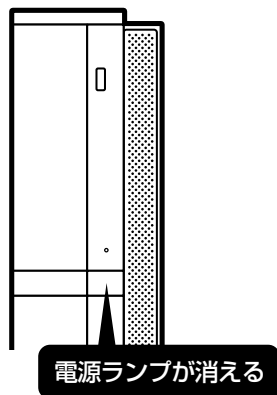
リモコンの⏻からパソコンを終了することもできる

リモコンの【電源】を押してもパソコンを終了することができます。
テレビの視聴中など、パソコンの画面から離れているときにリモコンで操作してください。
リモコンはデジタルハイビジョン TV（地デジ / 地アナ）モデルに添付されています。

テレビの視聴中や他のアプリケーションを起動しているときは、【アプリ終了】を押して、終了させてください。

電源を切る(シャットダウンする)

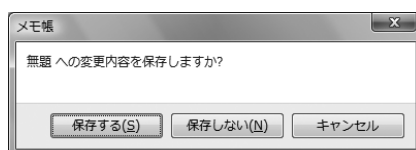
長期間パソコンを使わないときや、パソコンの置き場所を移動するとき、パソコン内部に機器を取り付けるときは、電源を切ります。電源を切ることを、「シャットダウン」と呼びます。

1 画面を見ながら操作して、「シャットダウン」をクリックする

2 電源が切れたことを確認する

数秒後に、画面が暗くなり、自動的に電源が切れます。

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「シャットダウン」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

ソフトを使って文書などを作成している場合、文書を保存しないで電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
そのままにしていると、数秒後、画面が暗くなり、メッセージが表示されます。
作成した文書などを保存したい場合、「次のプログラムが実行中です」の画面が表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。使用中のソフトで文書などを保存してから電源を切るようにしましょう。

続けて電源を入れるときは

いったん電源を切ってから電源を入れなおすときは、電源が切れてから５秒以上待って電源スイッチを押してください。F20WZ2をお使いの場合は、ディスプレイの電源ランプが消灯してから５秒以上待って電源スイッチを押してください。

マウスの操作で電源が切れないとき

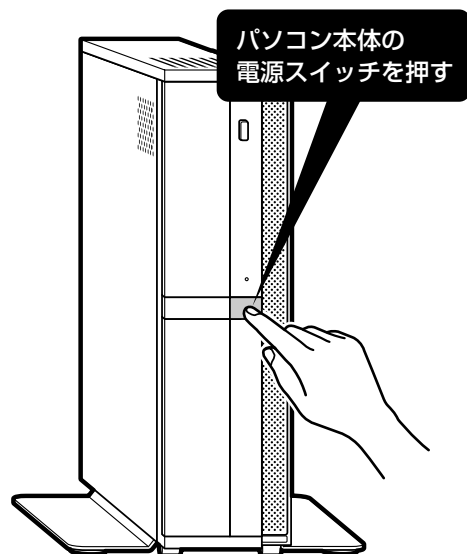
画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でマウスやキーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを４秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから5秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めてマウスの操作で電源を切ってください。

パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

パソコンを使い始める

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコンを使い始める前に周辺機器の電源を入れてください。

電源スイッチを押す

ディスプレイの電源スイッチの場所は、「電源を入れる」（32 ページ）をご覧ください。

・F20WZ2 以外のディスプレイをお使いで、パソコン本体の電源スイッチを押す前にディスプレイの電源ランプが点灯している場合、ディスプレイの電源スイッチを押す必要はありません。画面に何も表示されていなくても、すでにディスプレイに電源が入っています。パソコン本体の電源スイッチを押すと、自動的に画面が表示されます。

・電源スイッチを押してから、左の画面が表示されて、CD/ ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまで、パソコンを操作したり、電源スイッチを押したりしないでください。無理に電源を切ると、故障の原因になります。

・デジタルハイビジョンTV（地デジ/地アナ）モデルで、テレビの初期設定が終わっている場合は、リモコンの【電源】や、ディスプレイの電源ボタンを押すと、テレビ画面が表示されます。詳しくは『テレビを楽しむ本』をご覧ください。

・複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

・パソコンの電源を切った（シャットダウンした）ときや、パソコンが休止状態になっていたときは、左の画面が出て、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまでにすこし時間がかかります（長い場合5分、通常は１～２分程度）。

デスクトップ画面が表示されます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なる場合があります。

省電力機能について

パソコンを使わないと、自動的に省電力状態になるようになっています。

10分以上使わないと自動的に画面が消える(ご購入時)

ご購入時には、パソコンを操作していない時間が続くと、自動的にパソコンが省電力状態になるように設定されています。パソコンを使っていない時間によって、「ディスプレイの電源を切る」、「スリープ状態」、「休止状態」の３つの段階があります。

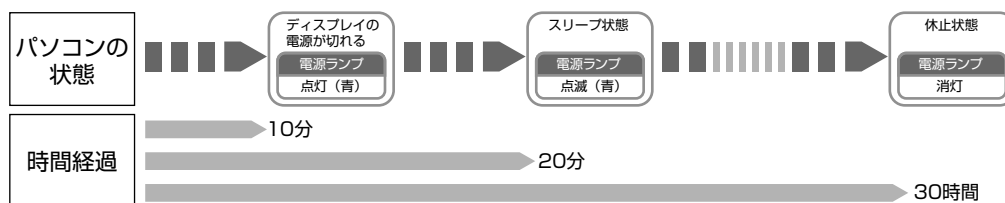
省電力状態について

それぞれの省電力状態は、次のように電力を節約します。

・ディスプレイの電源を切る
パソコンは起動したまま、ディスプレイの電源だけを切ります。通常よりも少し消費電力が下がります。

・スリープ状態
ハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スリープ状態を解除すると、すぐに作業の続きを始めることができます。

・休止状態
パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。消費電力は、シャットダウンしたときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態からもとの状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスリープ状態からもとの状態に戻すよりも時間がかかります。

パソコンを使っていない時間と省電力状態

ハイブリッドスリープについて

このパソコンでは、ご購入時の状態で「ハイブリッドスリープ」をおこなうように設定されています。「ハイブリッドスリープ」は、スリープ状態になるのと同時に、ハードディスクにも作業中のデータを保存します。これによって、スリープ状態のときに電源ケーブルが抜けるなどしても、作業内容を失わずに再開できます。

ハイブリッドスリープは、使用しないように設定することもできます。設定方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」をご覧ください。

暗くなった画面をもとに戻すには

スリープ状態などで、暗くなった画面は、次の方法でもとに戻せます。

・電源ランプが点灯していて、画面が暗い場合
ディスプレイが省電力状態になっていることが考えられます。この場合は、マウスを軽く動かしてください。また、デジタルハイビジョンTV（地デジ/地アナ）モデルで、ディスプレイ前面にある画質／消灯ボタンのランプが点滅しているときは、ナイトモードになっています。この場合は、画質／消灯ボタンを押してください。

・電源ランプが点滅していて、画面が暗い場合
スリープ状態になっています。この場合は、電源スイッチを軽く1回押してください。

・電源ランプが消灯していて、画面が暗い場合
休止状態、または電源が切れています。この場合は、電源スイッチを軽く1回押してください。

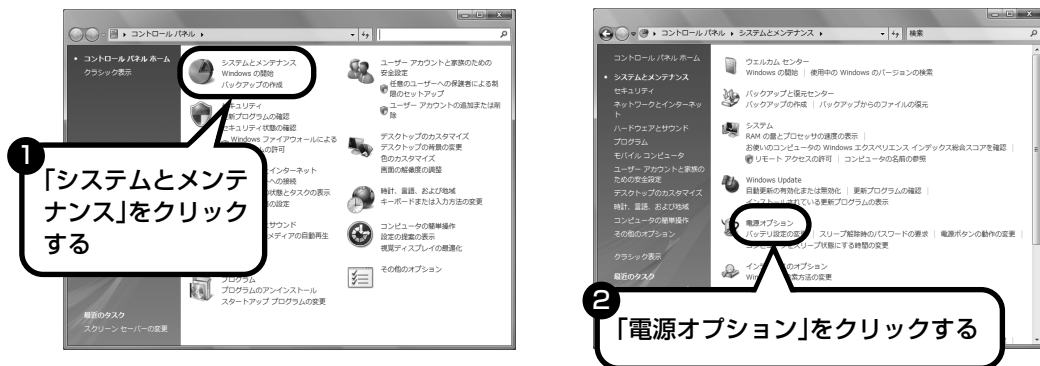
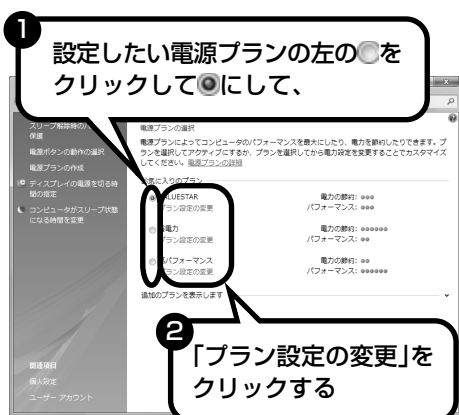
・デジタルハイビジョンTV（地デジ/地アナ）モデルで、「ぱっと観テレビ」機能が有効なときは、ディスプレイの電源スイッチおよびリモコンの【電源】を押すと、テレビが表示されます。テレビを消す方法については、『テレビを楽しむ本』PART2の「基本的な使い方」をご覧ください。

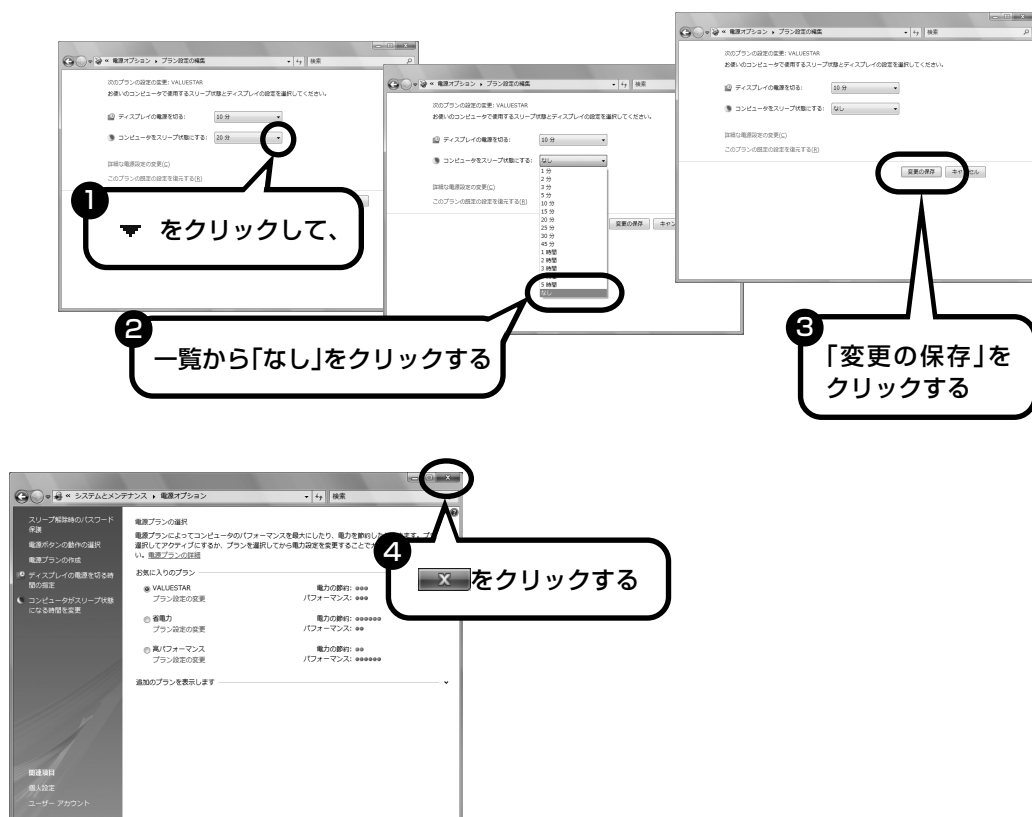
・電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

自動的にスリープ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスリープ状態にならないように設定を変えることができます。

1　コントロールパネルの画面を表示する

2 「システムとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリックする

3 設定したい電源プランをクリックし、電源プランの下の「プラン設定の変更」をクリックする

4「コンピュータをスリープ状態にする」で「なし」に変更する

この画面で「ディスプレイの電源を切る」までの時間も設定できます。

これで、設定の変更は終わりです。

省電力機能の詳しい説明は、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」で

スリープ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」に説明があります。

よく使うボタンなど

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。パソコン本体背面の端子類の説明など、詳しい情報を知りたいときは、巻末の「各部の名称」をご覧ください。

パソコン本体

DVD/CDドライブ

CD-ROMやDVD-Video、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。

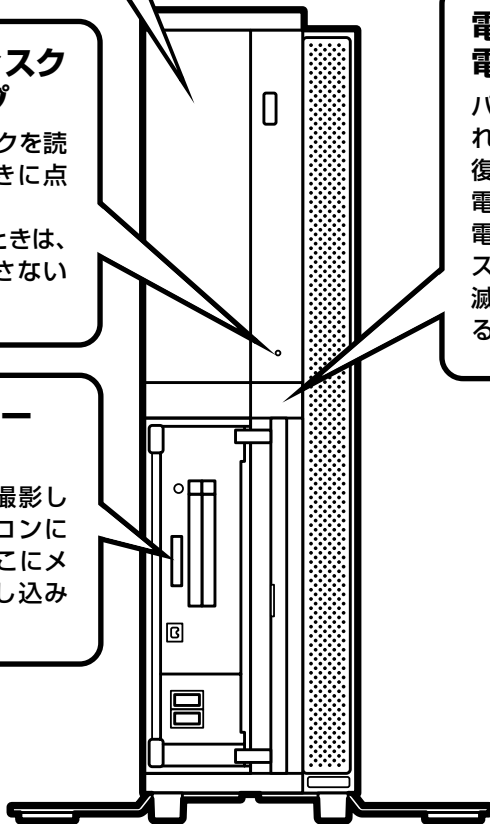
CD/ハードディスクアクセスランプ

CDやハードディスクを読み書きしているときに点滅・点灯します。
点滅・点灯しているときは、電源スイッチを押さないでください。

トリプルメモリースロット

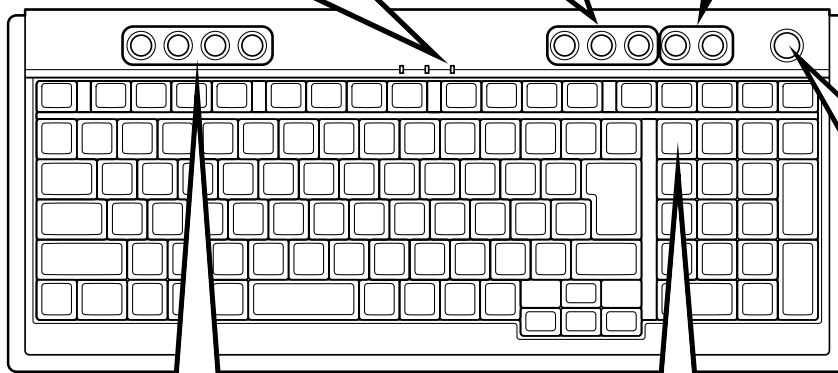
デジタルカメラで撮影した写真などをパソコンに取り込むときは、ここにメモリーカードを差し込みます。

電源スイッチ/電源ランプ

パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。電源が入っているときは、電源ランプが点灯します。スリープ状態のときは点滅します。電源が切れているときは、消灯しています。

キーボード

ニューメリックロックキーランプ(⚿)
このランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

ボリュームボタン
＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。消音を押すと音が消えます。

ワンタッチスタートボタン(Ⅰ・Ⅱ)
ご購入時の状態では、何も登録されていません。「ワンタッチスタートボタンの設定」で起動するソフトを登録できます。

電源スイッチ
パソコン本体の電源を入れるときや、省電力状態から復帰するときに押します。パソコン本体の電源スイッチと同じように働きます。

ワンタッチスタートボタン

メール
メールを利用するためのソフトが始まります。

インターネット
ホームページを見るためのソフトが始まります。

ソフト
このパソコンに入っているいろいろなソフトを利用するための「ソフトナビゲーター」が始まります。

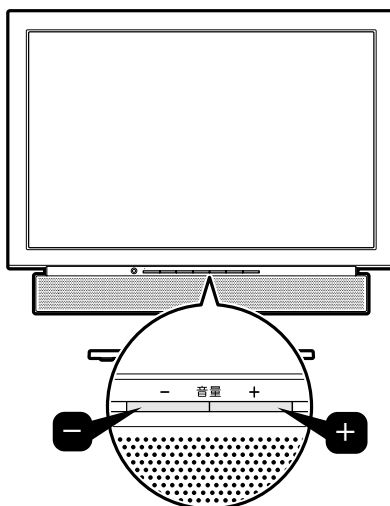
サポート
パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

【NumLock】
このキーを押すと、ニューメリックロックキーランプ(⚿)の点灯／消灯が切り換わります。
ランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

音量を調節する

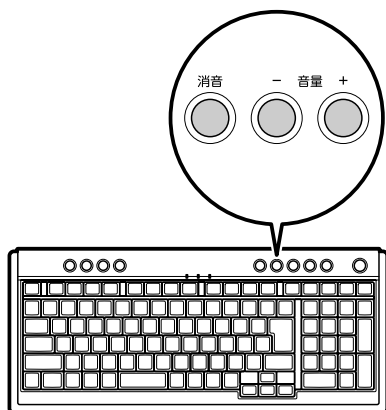
パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。ディスプレイからでも、キーボードやリモコンのボタンからでも、調節できます。

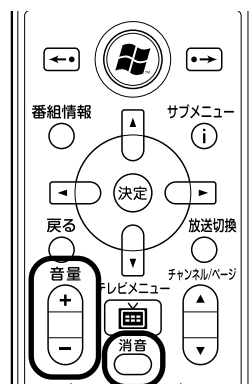
ディスプレイから音量を調節する

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。

ディスプレイの形状は、モデルによって異なります。

キーボード、リモコンから音量を調節する

＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。

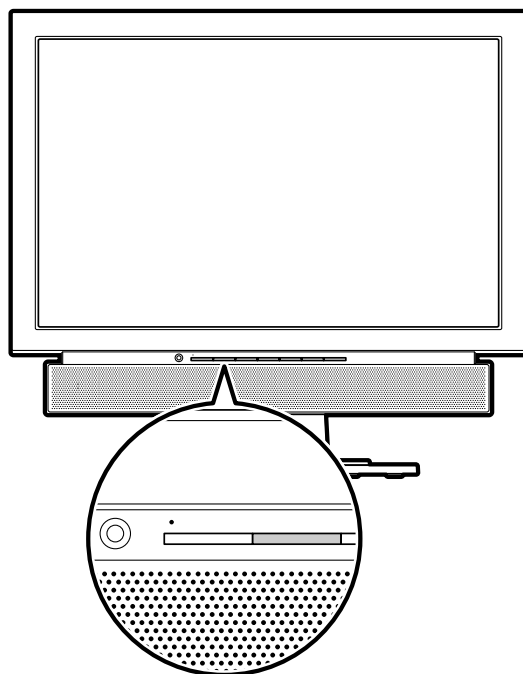
消音を押すと、音声のオン／オフが切り換えられます。画面右下の通知領域にが表示されているときは音声が消え、が表示されているときは音声が聞こえます。

キーボード

リモコン
（デジタルハイビジョンTV（地デジ/地アナ）モデルのみ）

キーボード、リモコンから音量を変更するとき、起動しているソフトによっては、音量の表示が変わらない場合があります。

画面の輝度を調節する

画面が明るすぎる、暗すぎると感じたときは、ディスプレイの輝度を調節できます。

輝度を調節する方法

輝度は、ディスプレイ下のSELECTボタン、または選択ボタンから調節します。ディスプレイによって設定方法が異なりますので、詳しくはディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの形状は、モデルによって異なります。

メモリーカードを使う

ここでは、メモリーカードを使うときの注意事項や、使用方法について説明します。

使用できるメモリーカードについて

このパソコンでは「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「メモリースティック」、「メモリースティックPRO」、および「xD-ピクチャーカード」を使うことができます。「miniSDカード」、「microSD カード」、「メモリースティック Duo」、「メモリースティック PRO Duo」も使用できます。ただし、市販のアダプタが必要になります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンにつなげる」-「トリプルメモリースロット」をご覧ください。

- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。メモリーカードの説明書をよく読んでから使用してください。
- 大切なデータはハードディスクなどにコピーして、バックアップを取っておくことをおすすめします。

取り扱い上の注意

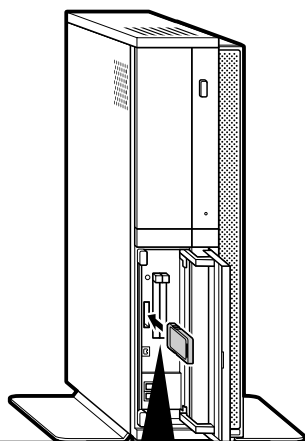
メモリーカードを取り扱う際は、次のことに気を付けてください。

・静電気による故障を防ぐため、静電気を放電してからメモリーカードを取り扱ってください。
・小型のメモリーカードなど、アダプタが必要なカードは、必ずアダプタを装着してください。
・メモリーカードは、方向を確認して取り付けてください。
・メモリーカードスロットには、対応以外のメモリーカードを挿入しないでください。
・メモリーカードの読み込み／書き込み中は、メモリーカードスロットからメモリーカードを取り出さないでください。
・メモリーカードやトリプルメモリースロットの金属端子部分を触らないでください。
・裏面に導通性がある金属が使用されているメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。
・汚れたメモリーカードは、汚れをとってからトリプルメモリースロットに取り付けてください。
・分解しないでください。
・上に重いものを載せたり、曲げたりしないでください。
・溶剤類、飲み物などを近づけないでください。
・クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。
・ゴミやホコリが多い場所での使用は避けてください。
・使わないときは収納箱に入れて保管してください。
・直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所、ゴミやホコリが多い所に置かないでください。
・長期期間使用しないときは、メモリーカードやアダプタを、トリプルメモリースロットに取り付けたままにしないでください。
・メモリーカードには、添付の指定ラベル以外を貼らないでください。
・メモリーカードには、指定の貼付箇所以外にラベルを貼らないでください。

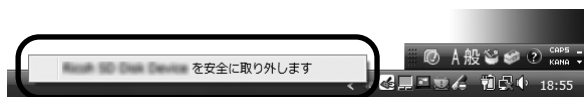
- **Windows上でメモリーカードのフォーマットやディスクデフラグをおこなわないでください。**
- **メモリーカードにデータを保存中または読み込み中にPCカードなどの周辺機器を接続しないでください。また、データの保存中はスリープ状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。**

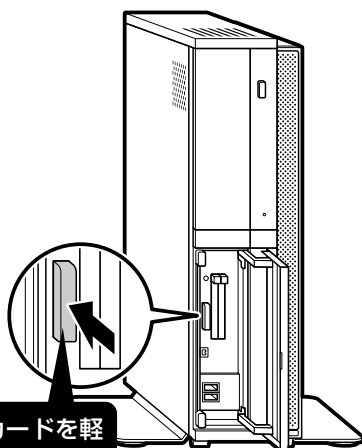
1 メモリーカードを差し込む

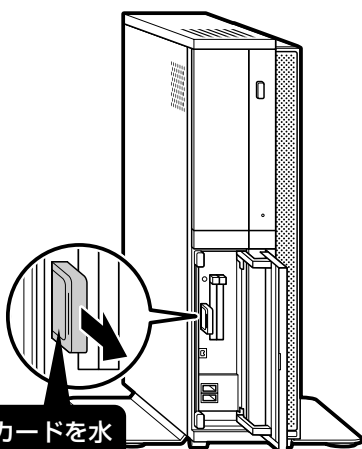
・「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティックDuo」、「メモリースティックPRO Duo」を使う場合は、アダプタに差し込んでおいてください。アダプタの装着方法について詳しくは、メモリーカードまたはアダプタの説明書をご覧ください。

・メモリーカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理に差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、メモリーカードの説明書をご覧ください。

メモリーカードをセットしたとき、「自動再生」の画面が表示されることがあります。表示された項目を選ぶと、フォルダを開いてファイルを表示したり、ソフトを使って画像を表示することができます。

2 メモリーカードを取り外す準備をする

画面右下の通知領域にあるをクリックすると表示される「××××を安全に取り外します」で、取り外す機器名をクリックします。

「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます」というメッセージが表示されたら「OK」をクリックしてください。

- **画面右下の通知領域にが表示されていないときは、をクリックしてください。**
- **トリプルメモリースロットアクセスランプ点灯中は、メモリーカードを絶対に取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因になります。**

3 メモリーカードを取り外す

メモリーカードが少し出てきます。

CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

- ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
- このパソコンにインストールされているOS以外のOSに対応したCDやDVDは、使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
- 使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。
- このパソコンで使えるディスクについて詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ブルーレイディスク/DVD/CDドライブ」をご覧ください。

ディスクを取り扱うときの注意

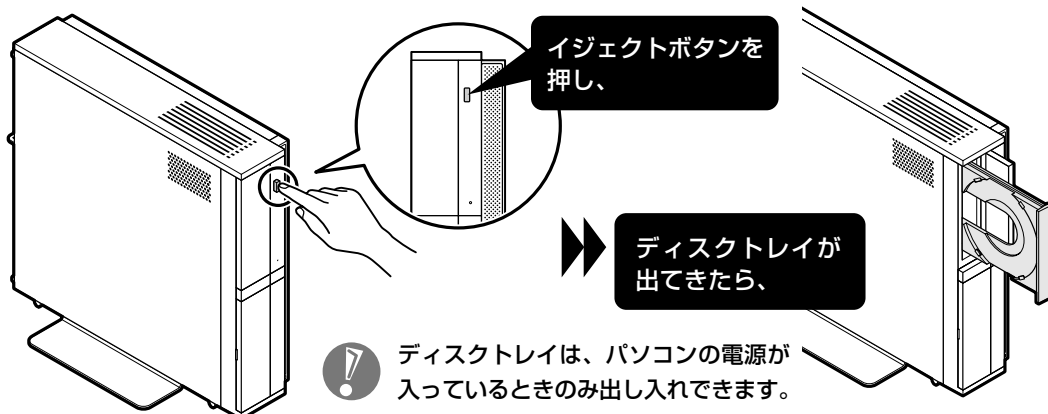
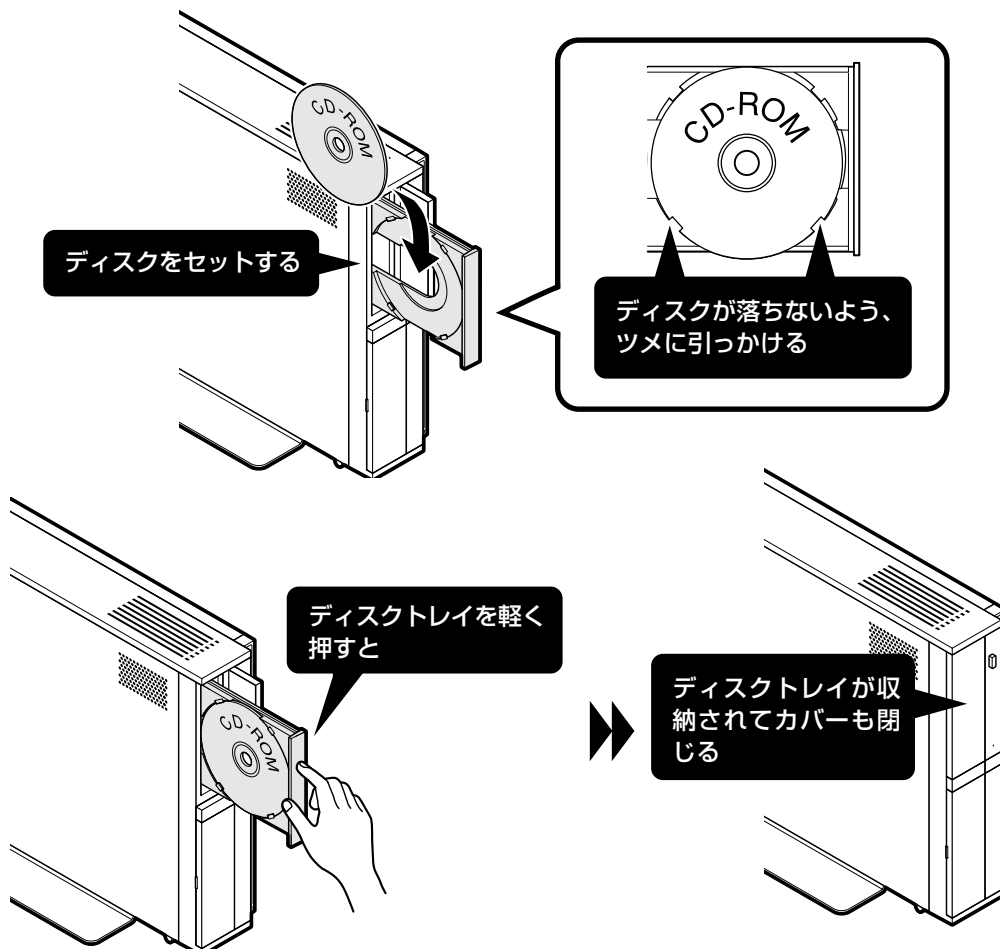
次の注意事項を守ってください。

- データ面（文字などが印刷されていない面）に手を触れない。
- ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
- ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
- ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
- 汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けてふく。
- 汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
- ベンジン、シンナーなどは使わない。
- ゴミやホコリの多い場所で使わない。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

1 イジェクトボタンを押してディスクトレイを出す

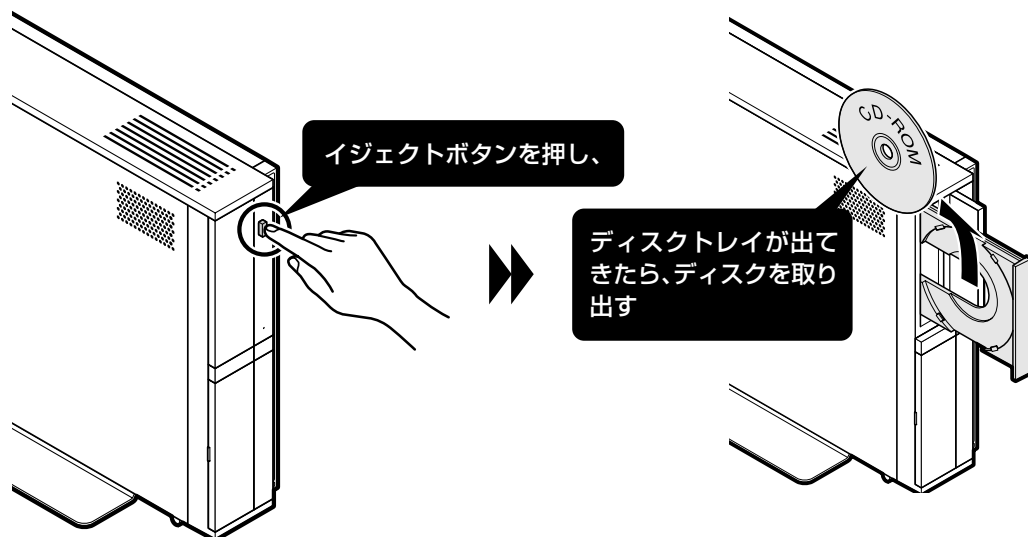
イジェクトボタンを押し、

ディスクトレイが出てきたら、

ディスクトレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出し入れできます。

2 ディスクを入れる

ディスクトレイを軽く押す代わりに、イジェクトボタンを押してディスクを収納することもできます。

・8cmDVD(CD)は使用できません。

・このパソコンを横置きで使うことはできません。

3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、ディスクトレイを軽く押すか、イジェクトボタンを押してください。ディスクトレイが収納されてカバーが閉じます。

パソコンがはじめてのかたへ

このパソコンに入っている「パソコンのいろは 3」を使って、基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

「パソコンのいろは3」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろは 3」が入っています。「パソコンのいろは 3」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンの基本操作を覚えたいかたは、次の手順にしたがって「パソコンのいろは 3」で学習を始めてみましょう。

ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろは3」を始める前にすべて終了させてください。

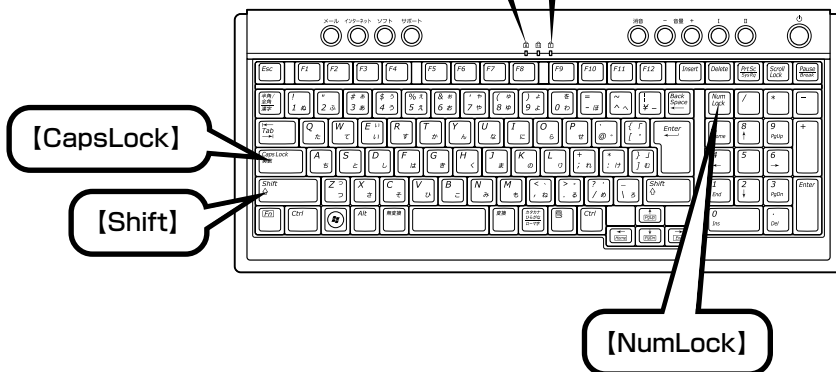
1 ランプを確認する

キーボードのランプを確認してください。

Ⓐランプが消えていること

【Shift】（シフト）を押したまま【CapsLock】（キャップスロック）を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。
【Shift】はキーボードに 2 つありますが、どちらか 1 つを押すだけでかまいません。

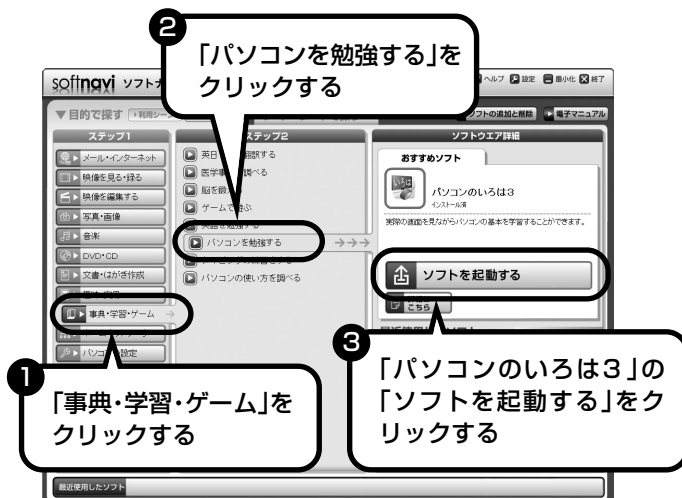
①ランプが点灯していること

【NumLock】（ニューメリックロック）を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。

2 ソフトナビゲーターを起動する

ソフトナビゲーターの最初の画面が表示されます。

ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。
「ソフトナビゲーター」では、画面左の「ステップ1」からやりたいことのジャンルをクリックして、「ステップ2」でやりたいことの内容をクリックすると、必要なソフトが自動的に選ばれます。選ばれたソフトの「ソフトを起動する」をクリックすると、ソフトを使い始められます。
「ソフトナビゲーター」について詳しくは、『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「基本編」をご覧ください。

3 「パソコンのいろは3」を始める

「パソコンのいろは3」が表示され、自動的に「1章 マウスで遊ぶ」の練習が始まります。

パソコンを使うのがはじめてのかたは、1章から順番に始めてください。章や項目のどこからでも始められ、1～2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろは3」を終了させることもできます。その場合、画面右下に表示されている「終了」をクリックしてください。画面中央に確認の画面が表示されるので、「終了します」をクリックすると「お疲れさまでした。」と表示され、終了します。

「終了」をクリックしても終了しないときは、キーボードの【Esc】を押してから、再度「終了」をクリックしてください。

途中から練習するときは

次回から、「パソコンのいろは3」を起動すると、目次が表示されるようになります。やりたい章や項目をクリックすると、練習を始められます。

パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」について

紙で見るマニュアルのほかに、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」があります。このパソコンのさらに詳しい使い方を知りたいとき、パソコンを使っていて困ったときに見てみましょう。

サポートナビゲーターを起動する

「サポートナビゲーターの使い方」のムービーが表示された後、「サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

ムービーは、終了をクリックして省略することもできます。

目的に応じて3つの入り口があります。これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、ボタンをクリックしてください。

▶安心安全に使う　インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。

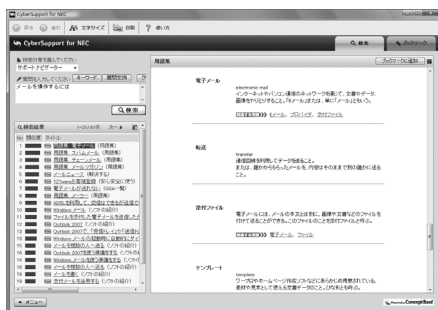
▶ 使いこなす　Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。

▶ 解決する　うまくいかないときや、故障かな?と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

「サポートナビゲーター」の詳しい内容については、付録の「「サポートナビゲーター」詳細目次」(201 ページ)をご覧ください。

パソコンの中を検索してみる

知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して検索してみましょう。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupportの「使用許諾契約書」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回からは、すぐに結果が出るようになります。

詳しい機能については「パソコン各部の説明」

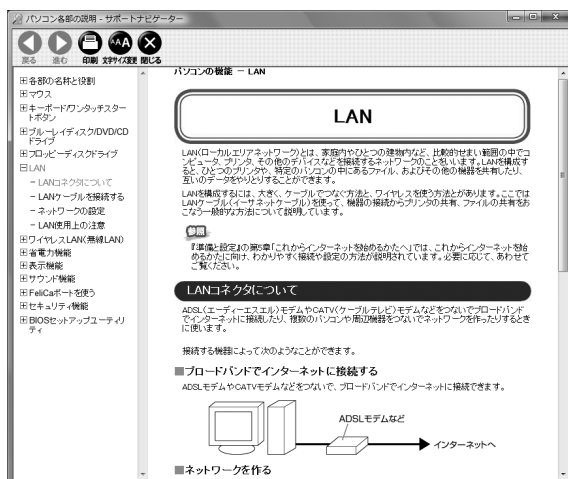
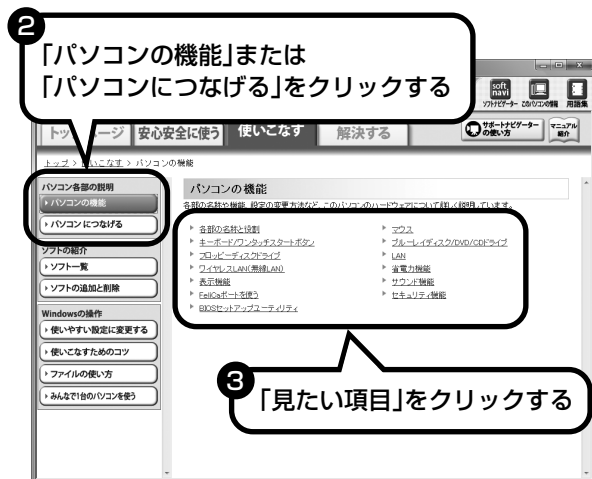
このパソコンのいろいろな部分の機能や使い方を知ろう

このパソコンのボタンやドライブについて、詳しく知りたいときには、「パソコン各部の説明」を見てみましょう。たとえば、次のような機能や使い方について知ることができます。

・トリプルメモリースロット
　「SDメモリーカード」「メモリースティック」「xD-ピクチャーカード」などが使えます。デジタルカメラで撮影した画像を見たり、音楽CDの曲を保存するのに便利です。

・IEEE1394（DV）コネクタ（4ピン）
　デジタルビデオカメラなどのデジタルビデオ機器を取り付けて、映像の取り込みや編集、ほかのデジタルビデオ機器への出力ができます。

ほかにも、「パソコン各部の説明」では、このパソコンの便利な設定の方法についても詳しく説明しています。

「パソコン各部の説明」を見るためには

「パソコン各部の説明」の画面が表示されます。画面左のしおりをクリックすると、ほかのページを見ることができます。

もしものときに備えて

● バックアップ、再セットアップディスク、パスワードでもしもに備える
● 「ユーザー アカウント制御」に注意

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-R や CD-R などにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ－NX（エヌエックス）」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。「バックアップ－ NX」の使い方について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップを始める前に」-「データのバックアップを取る」をご覧ください。

ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

・セキュリティ機能を使用してデータのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。

・セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照・復元する場合、ハードディスクに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、ハードディスクのいずれかのドライブに約0.9 ～ 50G バイト の空き容量が必要です。

ハードディスク全体のバックアップを取る

「Total Restore」というソフトを使うと、ハードディスク全体をDVDなどのディスクにバックアップしたり、復元したりできます。

インターネットやメールの設定や、ソフトの設定など、すべておこなった状態をバックアップ/復元できるので便利です。

トラブルが起きたときのために、色々な設定が終わった状態のハードディスクのバックアップを取っておくことをおすすめします。

「Total Restore」の使い方については『パソコンのトラブルを解決する本』の「ハードディスクをバックアップ/復元する」をご覧ください。

データを保存しておくだけでもバックアップになる

「バックアップ－NX」を利用するほかに、大切なデータを定期的にDVD-RやCD-R、外付けのハードディスクなどに保存しておくだけでもバックアップの効果があります。

再セットアップディスクを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。しかし、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップディスクを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップディスクを作成する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

再セットアップディスクは、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

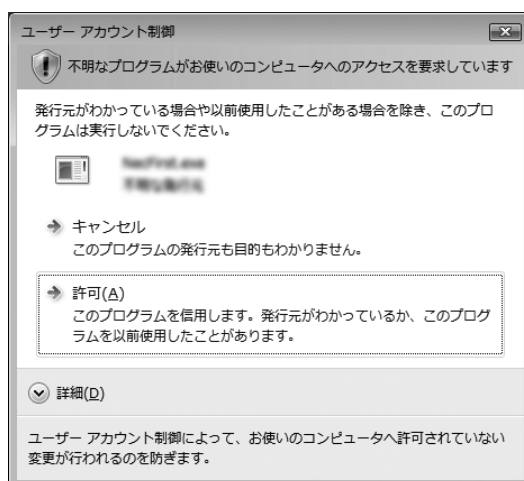
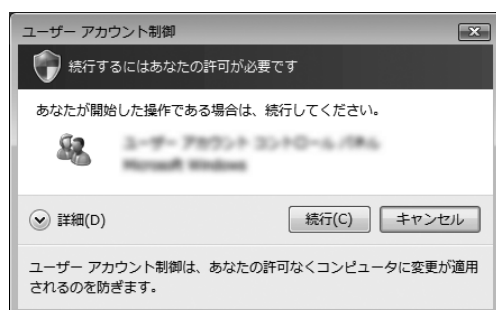
Windows起動時のパスワードを設定する

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows 起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。
手順については、「Windows のパスワードを設定する」（52 ページ）をご覧ください。

テレビ初期設定が終わった後にパスワードを新たに設定、または変更したときは、「自動ログオン」の設定を変更してください。「自動ログオン」の設定方法については、『テレビを楽しむ本』付録の「自動ログオンの設定をする」をご覧ください。

ユーザー アカウント制御について

ソフトを起動したり、操作しているときに、次のような「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。

「ユーザー アカウント制御」は、パソコンのシステムに影響を及ぼす可能性のある操作がおこなわれたときに、その操作がユーザーの意図したものかどうかを確認するためのものです。コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」からパソコンを守るために、「ユーザー アカウント制御」画面で表示された内容をよく読んで操作してください。

お使いの環境などによって、表示される内容は異なります。

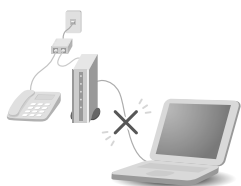
「ユーザー アカウント制御」画面で「管理者」ユーザーのパスワードが必要な場合があります。

ワイヤレスLAN機能について

ワイヤレスLAN機能を搭載しているモデルは、無線でネットワークに接続することができます。

ワイヤレスLANでブロードバンドを楽しむ（ワイヤレスLAN機能のあるモデルのみ）

ワイヤレスLANとは、LANケーブルを無線（ワイヤレス）にしたものです。ワイヤレスLANを活用すれば、たくさんのケーブルが必要だったインターネット接続が変わります。

家の中で

ブロードバンドを利用するときは、パソコンとネットワーク機器をLANケーブルで接続します。ワイヤレスLANを使うと、この部分のケーブル接続が不要になります。
ワイヤレスLANの規格や使用環境にもよりますが、ワイヤレスLANの電波は、建物の壁などもある程度越えて届きます。ワイヤレスLANを導入すれば、パソコンの設置場所や持ち運びがもっと自由になり、使い方が広がります。

ワイヤレスLANは便利ですが、セキュリティの対策をしっかりしないと、外部からネットワークに入られて無断で利用され、情報を読まれてしまう危険があります。そうならないように、ワイヤレスLANを使うときは暗号化など、セキュリティをしっかり設定してください。

ワイヤレスLANの種類はいろいろある

ワイヤレスLANには現在、IEEE802.11b 、IEEE802.11g、IEEE802.11a、およびDraft IEEE802.11nの4種類があり、組み合わせによっては接続できない場合もあるので注意が必要です。トリプルワイヤレスLANモデルでは、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11aに対応しています。
ワイヤレスLANそれぞれの種類には、次のような特徴があります。

	規格上の論理値（通信速度）※	周波数	特　徴
IEEE802.11b	11/5.5/2/1 Mbpsモード	2.4GHz	対応機器が多く、互換性が高い規格
IEEE802.11g	54/48/36/24/18/12/6Mbpsモード	2.4GHz	・IEEE802.11bよりも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b対応機器との通信も可能
IEEE802.11a		5GHz	・電波法により、屋内でのみ使用可能 ・電波干渉の問題が少ない
Draft IEEE802.11n	130/117/104/78/52/39/26/13Mbpsモード	2.4GHz/5GHz	・現在、もっとも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11a対応機器との通信も可能

※ 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記です。通信の実効速度はこの通信モードの50%以下になります。
通信速度は、パソコンと相手の機器の間の電波の状態や距離によっても変化します。

ワイヤレスLAN接続に必要な機器

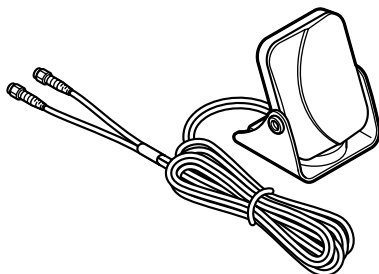
ワイヤレスLAN機能を利用してインターネットなどのネットワークにアクセスするには、次のようなネットワーク機器が必要になります。

◆ワイヤレスLANアクセスポイント（ブリッジタイプ）
ワイヤレスLAN機能のないルータを使って、すでにインターネットに接続している場合に使います。

◆ワイヤレスLANルータ（ルータタイプのワイヤレスLANアクセスポイント）
ブロードバンドでルータ機能のないモデムを使用している場合に使います。

機器を購入するときは、このパソコンと通信できるかどうかを確認してください。

ワイヤレスLANアンテナを接続する

トリプルワイヤレスLANモデルでワイヤレスLAN機能を使うには、あらかじめワイヤレスLANアンテナをパソコン本体に接続しておく必要があります。

ワイヤレスLANアンテナ

ワイヤレス LAN アンテナの接続方法については、「ワイヤレス LAN アンテナを接続する」(24 ページ)をご覧ください。

ワイヤレスLAN機能をオンにする

このパソコンでワイヤレスLANを使うには、Windows Vistaの標準機能を使ってオンにしてください。

- ワイヤレスLAN機能がオフになっていると接続できません。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1 画面右下の通知領域の（または）を右クリックする

右クリックする

2 「ネットワークと共有センター」をクリックする

3 左のメニューから「ネットワーク接続の管理」をクリックする

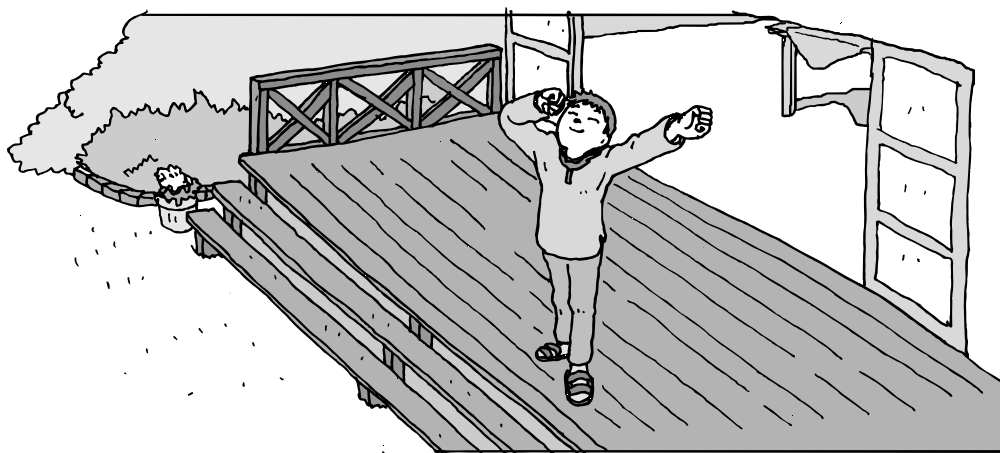
4 「ワイヤレスネットワーク接続」のアイコンを右クリックし、「有効にする」をクリックする

オフにする場合は、画面右下の通知領域の（または）を右クリックして、「ネットワークと共有センター」をクリック。左のメニューから「ネットワーク接続の管理」をクリック。「ワイヤレスネットワーク接続」のアイコンを右クリックし、「無効にする」をクリックします。

ワイヤレスLANでインターネットに接続する

第５章の「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」（103ページ）をご覧ください。

第 5 章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者（プロバイダ）に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第６章　パソコンを買い替えたかたへ」（131 ページ）へ進んでください。

インターネットの魅力

インターネットは、わずかの間にものすごい勢いで普及が進んで、私たちの生活に身近なものになりました。

ホームページ

インターネットは情報の宝庫です。役所などの公共機関や大きな企業だけでなく、近所の商店や小さな工場まで、本当にいろいろな人たちが、自分のホームページを持つようになりました。電車の乗り継ぎや発車時刻をホームページで調べたり、バーゲンセールの目玉商品をホームページでチェックするなど、インターネットがあれば、生活のちょっとしたことが便利になります。

メール

インターネットを利用したメール(「電子メール」とか「Eメール」ともいいます)を使うと、家族や友人、仕事や趣味の仲間たちと手軽に連絡することができます。日本全国どこでも、世界中のどこにいる人とでも、料金を気にせず用件を伝えられること。デジタルカメラで撮った写真などをメールと一緒に送信できること。相手が都合のよいときにメールを見ればよいので、時間帯を気にしなくてよいこと。このような便利さのために、いまでは、たくさんの人たちにとって、メールが欠かせない通信手段になっています。

まだまだある、インターネットの魅力

インターネットの通信回線を使って、格安の料金で市外電話や国際電話を利用することができる「IP電話」というサービスを利用することもできます。ホームページを経由して、買い物をしたり(「オンラインショッピング」といいます)、ソフトやデータを自分のパソコンに取り入れたり(「ダウンロード」といいます)、使う人それぞれにインターネットは活用されています。

いろいろある接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがありますが、高速なブロードバンド接続と、それ以外に大きく分けられます。

ブロードバンド接続

ADSL（エーディーエスエル）

家庭にあるアナログ回線（一般の電話回線）を使って、インターネット接続をする方法です。いくつかの回線事業者がサービスを提供していて、回線速度もサービスごとに異なります。
サービスの提供地域が広く、アナログ回線を利用するため、手軽にブロードバンドを利用できます。

FTTH（エフティーティーエイチ）

光ファイバーを使ってインターネット接続をする方法です。回線事業者によってサービスの名前が異なります（B フレッツなど）。
ほかのブロードバンド接続よりも高速な通信をおこなえます。また、受信だけではなく送信速度も高速なため、大きなデータのやりとりに向いています。
光ファイバーを家の中に引き込むための工事が必要になる場合があります。

CATV（ケーブルテレビ / シーエーティーブイ）

ケーブルテレビ会社の回線を使ってインターネット接続をする方法です。インターネットと同時に、ケーブルテレビ放送なども利用できます。回線速度やサービスは、各CATV業者によって異なります。

そのほかの接続

ダイヤルアップ接続

一般の電話回線を使ってインターネットに接続する方法です。電話回線があれば、電話回線ケーブル（モジュラケーブル）を用意するだけでインターネットに接続できます。
回線速度がほかの接続と比べてきわめて遅いため、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。また、インターネット利用中は電話を使用できません（電話をかけてきた相手には、話し中になります）。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続はご利用になれません。

ISDN（アイエスディーエヌ）

NTTのデジタル回線、ISDNでインターネットに接続する方法です。アナログ回線よりも少しだけ高速になります。また、電話とインターネットを同時に利用できます。ダイヤルアップ接続と同じように、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。

ブロードバンド接続の流れ

ADSL の場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。

1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。特に会社を決めていない場合、BIGLOBEに入会することをおすすめします。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(99 ページ)をご覧ください。

2 プロバイダに申し込む

入会するプロバイダとコース(料金プラン)を決めたら、電話または書面で入会を申し込みます。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(99 ページ)をご覧ください。

3 ADSL回線の開通を待つ

ADSLは、回線をNTT東日本またはNTT西日本が提供するもの(フレッツ・ADSL)と、別の回線事業者(イー・アクセスやアッカなどという会社があります)が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース(料金プラン)が分かれています。
ADSL を利用できるか適合チェックをおこなってから、必要に応じて ADSL 対応モデムの準備や電話回線の工事などをおこないます。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります。
申し込みから回線の開通までについて詳しくは、各回線事業者にお問い合わせください。

4 回線装置を接続して、パソコンの設定を変更する

ADSL モデムなどの回線装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。
回線や機器によって接続方法や設定が異なります。「入会手続きが完了したら」(101 ページ)をご覧ください。

プロバイダに入会する

BIGLOBEに入会する

インターネットプロバイダ BIGLOBE では、お電話で入会申し込みを受け付けております。
BIGLOBE 電話で入会センター（受付時間 9:00 ～ 21:00　365 日）
0120-15-0962

※電話番号はおかけ間違えのないようにご注意願います。
※携帯電話、PHS からもご利用になれます。

そのほかのプロバイダに入会する

BIGLOBE以外にもさまざまなプロバイダがあります。入会方法については、各プロバイダにお問い合わせください。

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに 24 時間つながっているコンピュータ（「サーバー」といいます）を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役となってくれるのです。プロバイダは、「ISP（インターネット・サービス・プロバイダの略）」と呼ばれることもあります。

申し込みたいコース（料金プラン）を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線事業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース（料金プラン）を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット（BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など）を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダにお問い合わせください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続はご利用になれません。

ADSL以外の接続の場合

FTTH

お住まいの地域や建物で光ファイバーの利用が可能か、回線事業者の担当者がコンサルティングをおこないます。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。
申し込む回線事業者や必要な工事によっても異なりますが、申し込みから開通まで、一般に数週間～2か月程度の時間がかかります。

CATV

ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。
開通までに必要な時間は、ケーブルテレビ局によって異なります。各ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「使いほーだい」コースが「フレッツ・ISDN」に対応しています。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り換え工事をおこない、TA（ターミナルアダプタ）などのISDN接続機器を設置する必要があります。

入会手続きが完了したら

ブロードバンド接続（ADSL、FTTH）でルータを利用しない場合

ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置とこのパソコンを直接接続してブロードバンド接続する場合は、「ブロードバンド接続の設定」（117ページ）をご覧になり、設定をおこなってください。

ブロードバンド接続（ADSL、FTTH）でルータを利用する場合

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用してブロードバンド接続する場合は、「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」（113ページ）をご覧になり、設定をおこなってください。ルータには、ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置を接続します。

集合住宅型のブロードバンド接続やCATVのブロードバンド接続を利用される場合、このパソコンに接続する機器の種類や設定については、回線事業者やケーブルテレビ局へお問い合わせください。

接続設定の進め方

入会手続きが終わったら、回線の種類やワイヤレスLAN/ルータの有無によって、どのページを見て設定すればよいか、このページで確認してください。

接続機器によっては、このマニュアルに記載の設定方法と異なる場合があります。インターネット接続機器やワイヤレス LAN 接続機器などに添付の設定マニュアルや CD-ROM ソフトがある場合は、そちらを使って設定するのが確実です。

回線の種類は？

ブロードバンドで接続する

↓

ワイヤレスLANを使う？

- ワイヤレスLANで接続する → 「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」（次ページ）
- ワイヤレスLANを使わない（ケーブルで接続する）

↓

ルータを使う？（使用する機器にルータ機能がある？）

- 使う（ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータなど） → 「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」（113ページ）
- 使わない（ブリッジタイプのADSLモデム、FTTHの回線終端装置に直接接続する） → 「ブロードバンド接続の設定」（117ページ）

↓

「インターネットに接続する」（120ページ）

↓

「メールソフトを設定する」（122ページ）

ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定

無線でインターネットに接続するためにワイヤレスLANの設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。お使いの機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROM などがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

モデムまたは回線終端装置

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSL モデム

・FTTH ：回線終端装置（回線工事で設置）

・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

ワイヤレス LAN アクセスポイントまたはワイヤレス LAN ルータ

お使いのブロードバンド回線の種類やモデムの種類によって次のような機器が必要です。

・ADSL モデムにワイヤレス LAN アクセスポイント機能が内蔵されているものもあります。

・機器を購入するときは、このパソコンと通信できるかどうかを確認してください。詳しくは、92 ページをご覧ください。

・機器を購入するときは、お使いのモデムや回線終端装置の種類を確認してください。

◆ワイヤレス LAN アクセスポイント（ブリッジタイプ）

次のような場合、ワイヤレス LAN アクセスポイント（ブリッジタイプ）が必要です。

・ルータ機能のあるモデムをお使いの場合

・ワイヤレス LAN 機能のないルータ（有線）を使って、インターネットに接続している場合

ワイヤレス LAN ルータでルータ機能を無効にして、ワイヤレス LAN アクセスポイント（ブリッジタイプ）として利用できる場合もあります。

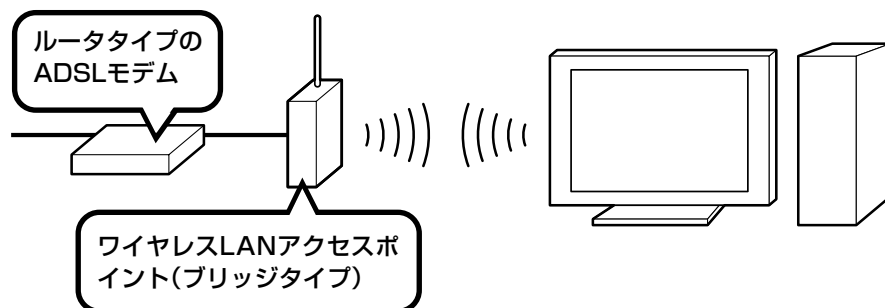
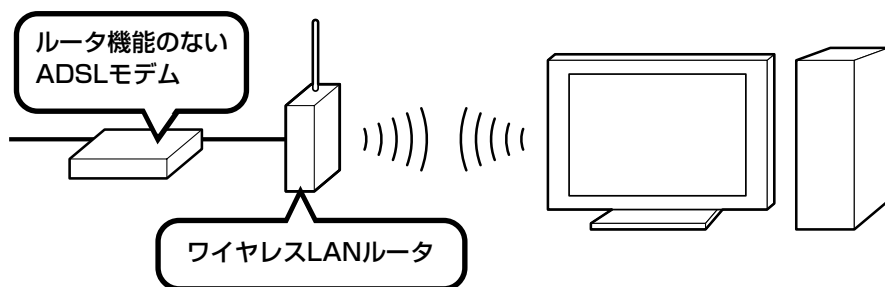
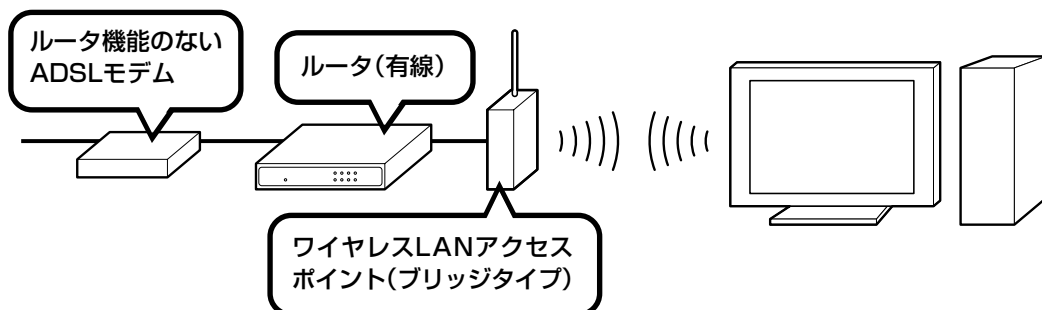
◆ワイヤレス LAN ルータ（ルータタイプのワイヤレス LAN アクセスポイント）

次のような場合、ワイヤレス LAN ルータ（ルータタイプのワイヤレス LAN アクセスポイント）が必要です。

・ルータ機能のないモデムをお使いで、複数のパソコンでインターネットに接続するなどルータ機能が必要な場合

1 機器を接続する

まず、このパソコンとネットワーク機器を接続してください。
詳しい接続方法については、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。
ADSL モデムをお使いの場合、次のように接続します。

ルータ機能のあるADSLモデムの場合

ルータ機能のないADSLモデムの場合

ルータ機能のないADSLモデムの場合(ルータ(有線)を利用する場合)

2 ワイヤレスLAN機能をオンにする

ワイヤレス LAN 機能がオンになっているか確認してください。

- ワイヤレス LAN 機能がオフになっていると接続できません。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1 画面右下の通知領域の（または）を右クリックする

2 「ネットワークと共有センター」をクリックする

3 左のメニューから「ネットワーク接続の管理」をクリックする

4 「ワイヤレスネットワーク接続」のアイコンを右クリックし、「有効にする」をクリックする

オフにする場合は、画面右下の通知領域の（または）を右クリックして、「ネットワークと共有センター」をクリック。左のメニューから「ネットワーク接続の管理」をクリック。「ワイヤレスネットワーク接続」のアイコンを右クリックし、「無効にする」をクリックします。

接続する機器の設定について

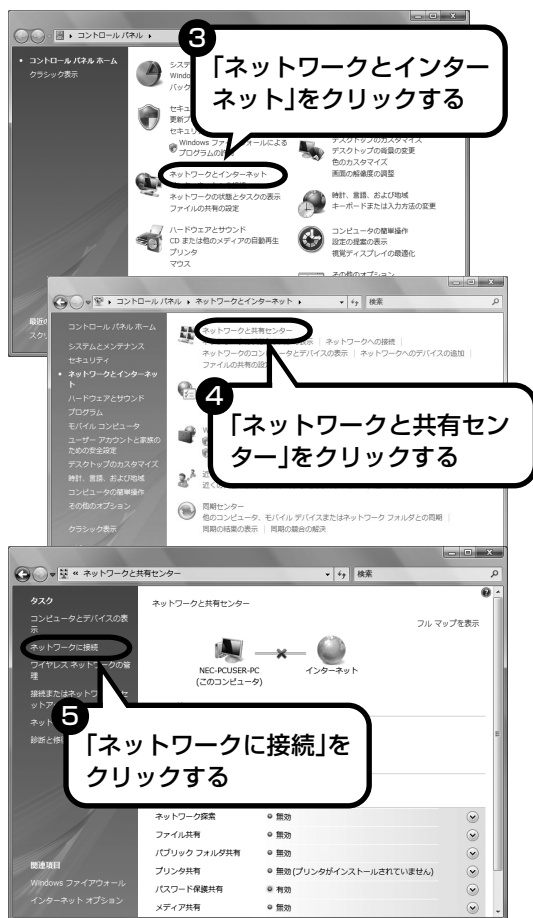
ワイヤレスLANの接続では、接続するワイヤレスLANアクセスポイントがネットワーク名(SSID)を通知する設定になっているか、通知しない設定になっているかでパソコンの設定が異なります。あらかじめお使いの機器のマニュアルをご覧になり、設定を確認しておいてください。

- **ネットワーク名(SSID)は、通知しない設定にする方が、不正アクセスなどへのセキュリティが高まります。**
- **手順中に出てくるネットワークキーやセキュリティの設定などについて、詳しい内容は「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」に説明があります。そちらも参照してください。**
- **機器によっては、パソコンの設定をする前に、ユーザー名やパスワードなどの接続情報を設定する場合もあります。機器に添付されている説明書などの記載にしたがってください。**

ここからの手順は、接続するワイヤレスLANアクセスポイントの設定によって異なります。

- **ネットワーク名(SSID)を通知するワイヤレスLANアクセスポイント**
  →次ページの「3 ネットワーク名(SSID)を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。
- **ネットワーク名(SSID)を通知しないワイヤレスLANアクセスポイント**
  →110ページの「4 ネットワーク名(SSID)を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。

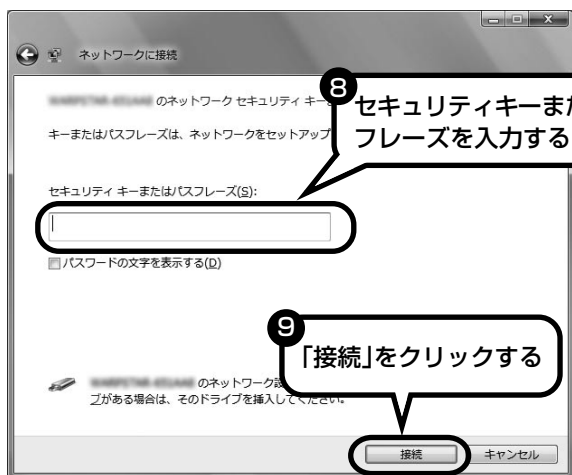
3 ネットワーク名(SSID)を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

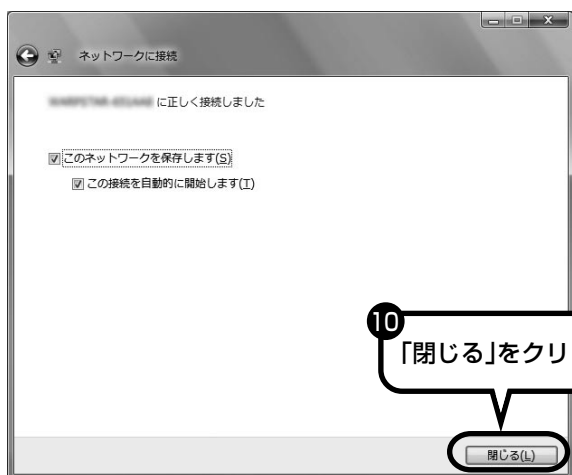
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ネットワークに接続」が表示されます。

「ネットワークに接続」は、「スタート」-「接続先」をクリックしても表示できます。

接続するネットワーク名が表示されていない場合は、画面右の をクリックしてください。それでもネットワーク名が表示されない場合は、通知領域の を右クリックし、「診断と修復」を選択してください。

ネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、次の理由が考えられます。

- **電波の状態が悪い。**
  電波が確実に届く範囲内に移動して作業してください。
- **ワイヤレスLANアクセスポイントが、ネットワーク名（SSID）を通知しない設定になっている。**
  ワイヤレスLANアクセスポイントのマニュアルなどを見て、設定を確認してください。ネットワーク名（SSID）を通知しない場合の設定については、110ページをご覧ください。

通信をおこなうワイヤレスLANアクセスポイントの設定と同じセキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号化キーやWepキーとも呼ばれます）を入力します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、警告画面が表示されます。説明をよく読んで、「接続します」をクリックしてください。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域にが表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に、が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号化キーやWepキーとも呼ばれます）が正しいか確認してください。

4 ネットワーク名(SSID)を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

ワイヤレス ネットワークに手動で接続します

どのような方法でネットワークを追加しますか?

このコンピュータの範囲にあるネットワークを追加します(A)
現在利用可能なネットワークの一覧が表示され、ネットワークの 1 つに接続できます。接続すると、ネットワークのプロファイルがコンピュータに保存されます。

ネットワーク プロファイルを手動で作成します(M)
新しいネットワーク プロファイルを作成したり、既存のネットワークを検索して、そのネットワークのプロファイルをコンピュータに保存することができます。ネットワーク名 (SSID) およびセキュリティ キー (該当する場合) がわかっている必要があります。

アドホック ネットワークを追加します(C)
ファイルまたはインターネット接続を共有するための一時的なネットワークを作成します。

キャンセル

❼「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックする

ワイヤレス ネットワークに手動で接続します

追加するワイヤレス ネットワークの情報を入力します

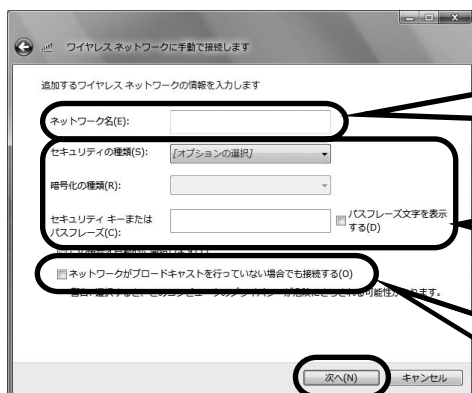
ネットワーク名(E):

セキュリティの種類(S): [オプションの選択]

暗号化の種類(R):

セキュリティ キーまたはパスフレーズ(C):　パスフレーズ文字を表示する(D)

ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する(O)

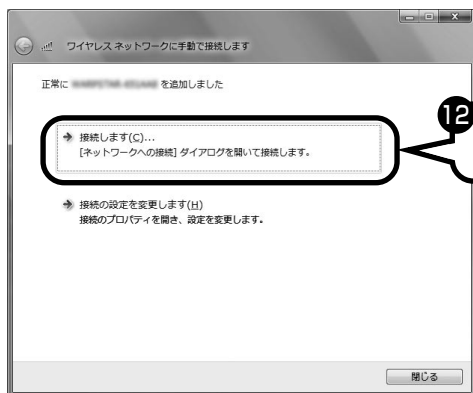
次へ(N)　キャンセル

❽「ネットワーク名」を入力する

❾セキュリティの設定をする

❿「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」をクリックして☑にする

⓫「次へ」をクリックする

通信をおこなうワイヤレス LAN アクセスポイントの設定と同じに設定します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、手順９の「セキュリティの種類」を「認証なし（オープンシステム)」にしてください。その場合、セキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号化キーや Wep キーとも呼ばれます）を入力する必要はありません。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域にが表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に、が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号化キーや Wep キーとも呼ばれます）が正しいか確認してください。

設定が完了したら

ワイヤレスLANルータ、ルータタイプのモデム、ルータ（有線）などを使用している場合は、接続情報を設定、登録してください。詳しくは、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。

その後、「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」（次ページ）の手順２～４をおこなってください。すべての設定が終わったら、「インターネットに接続する」（120ページ）へ進み、インターネットへの接続を試してください。

- **接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。**
- **ユーザー名、パスワードについては、119ページをご覧ください。**

ルータを利用したブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

・ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

・ワイヤレスLANで接続するかたは、手順2（114ページ）からお読みください。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSLモデム

・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

・FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）

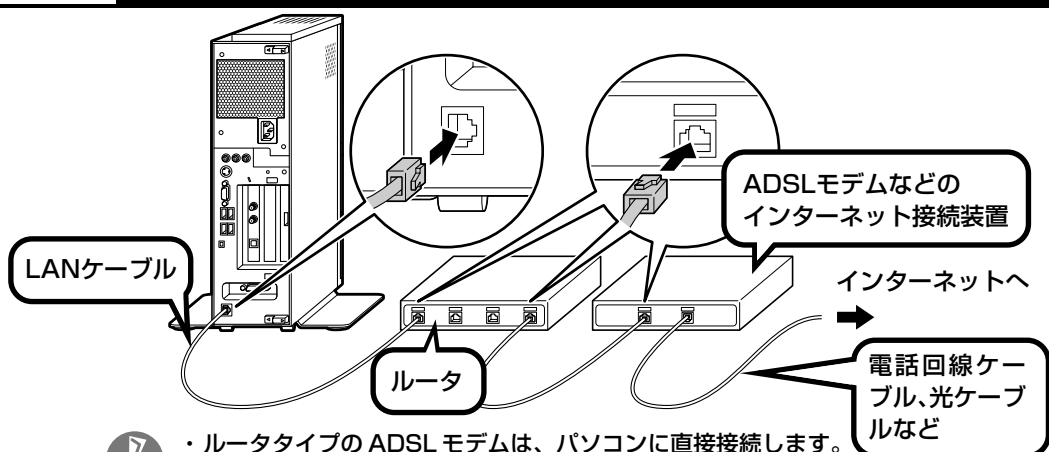
1 図のように接続する

LANケーブル

ルータ

ADSLモデムなどのインターネット接続装置

インターネットへ

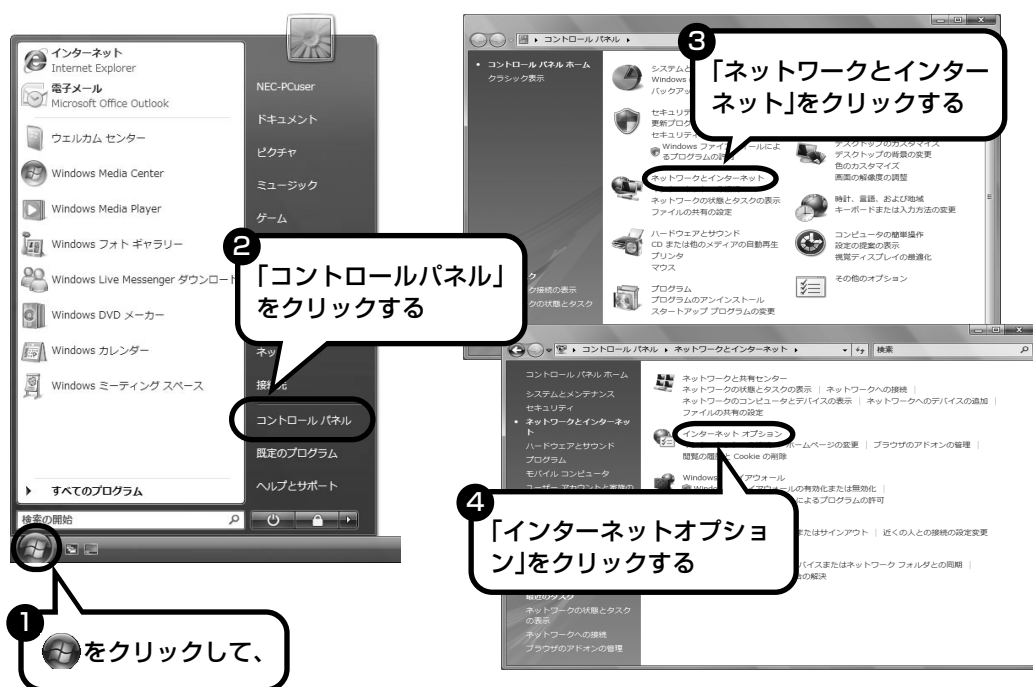
電話回線ケーブル、光ケーブルなど

・ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。

・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ルータとパソコンを接続したら

ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

- 接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。
- ユーザー名、パスワードについては、119ページをご覧ください。

2 インターネットのプロパティを表示する

❶ をクリックして、

❷「コントロールパネル」をクリックする

❸「ネットワークとインターネット」をクリックする

❹「インターネットオプション」をクリックする

3 「ダイヤルしない」に設定する

「ダイヤルしない」をクリックできないときは、そのまま「LANの設定」をクリックして、次の手順に進んでください。

☑になっている項目があるときは、クリックして□に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

4 パソコンを再起動する

しばらくすると、パソコンの電源が切れ、自動的にもう一度電源が入ります（再起動）。

これで、ルータを利用したブロードバンド接続の設定は完了です。
「インターネットに接続する」（120 ページ）へ進んでインターネットへの接続を試してください。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の２種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSLモデム

・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

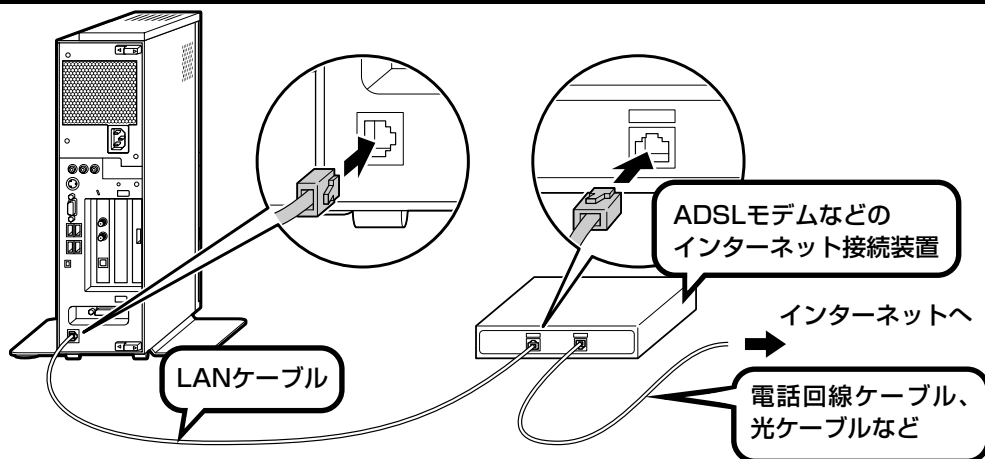
・FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）

1 図のように接続する

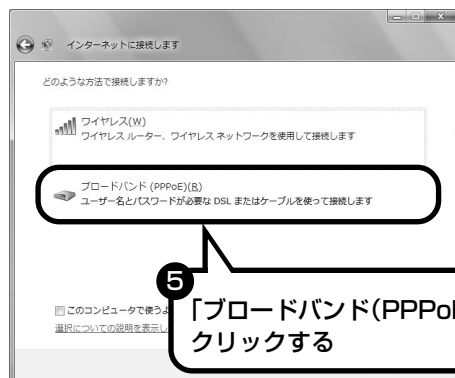
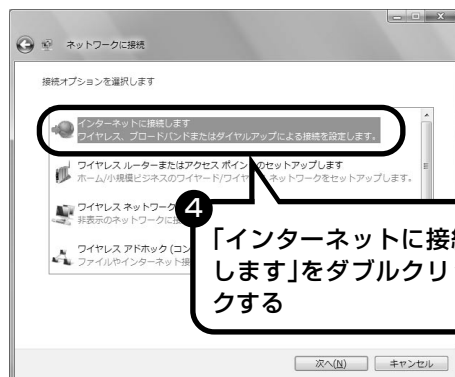
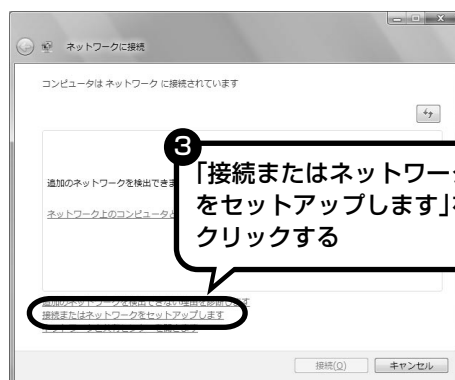
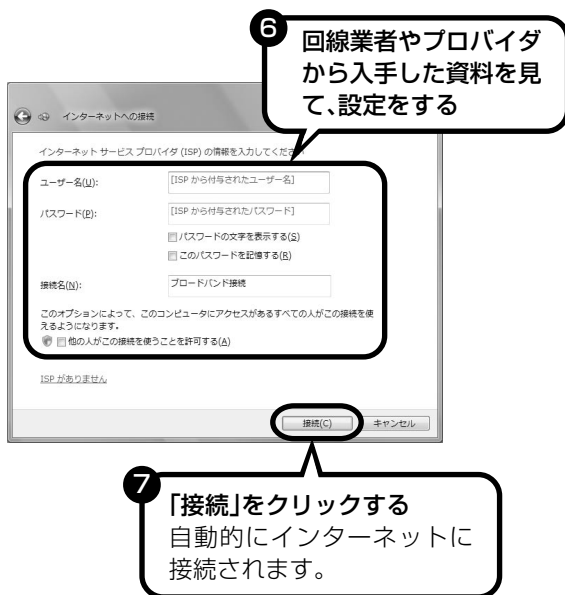
ADSLモデムなどのインターネット接続装置

インターネットへ

LANケーブル

電話回線ケーブル、光ケーブルなど

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

2 設定をする

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。詳しい設定方法については、回線業者またはプロバイダにお問い合わせください。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、BIGLOBEの場合は「ユーザID」と呼ばれます。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

これで、ルータを利用しないブロードバンド接続の設定は完了です。
次回からは、次ページの方法でインターネットに接続できます。

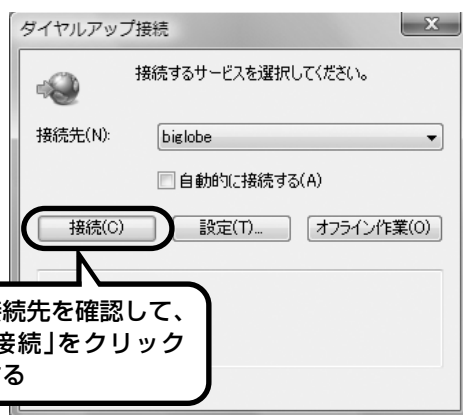
インターネットに接続する

インターネットに接続できるか確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。

「接続」をクリックすると、Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます（設定によっては、パスワードを入力する画面が表示されます）。

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

インターネットから切断するときは、次の方法で操作します。

・ルータを利用していない場合
画面右下の通知領域の を右クリックして表示されるメニューから、「切断」を選び、切断する接続をクリックします。

・ルータを利用している場合
利用しているネットワークを無効にします。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」の「ネットワークから切断する」をご覧ください。

・ワイヤレス LAN を利用している場合
利用しているワイヤレスLANから切断します。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレス LAN（無線LAN)」の「ネットワークから切断する」をご覧ください。

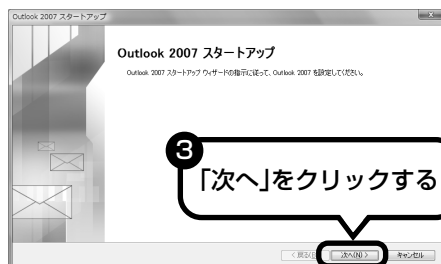
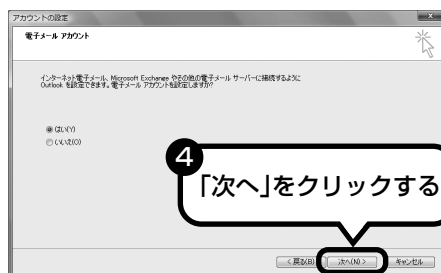
これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて次ページの「メールソフトを設定する」へ進んでください。

メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook(アウトルック)というソフトが用意されています。

・ADSLやFTTHで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらも併せてご覧になり、設定することをおすすめします。

・Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Windows® メール」というソフトでメールを利用できます。Windows® メールの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「Windows メール」をご覧ください。

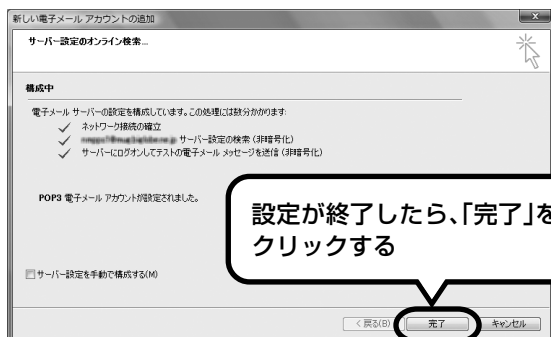
・Outlookのセットアップ、インストールについてのお問い合わせ先(Microsoft)
月～金曜日　午前9時30分～午前12時、午後1時～午後7時
土曜日・日曜日　午前10時～午後5時/指定休業日、年末年始、祝祭日除く
東京:03-5354-4500(有料)/大阪:06-6347-4400(有料)
インターネットでのお問い合わせは
URL:http://support.microsoft.com/select/?target=assistance
その他、基本操作などについてのお問い合わせ先は『パソコンのトラブルを解決する本』の「ソフトのサポート窓口一覧」をご覧ください。

1 Outlookを起動する

2 サーバーのアカウントを自動で設定する

サーバーの自動アカウント設定に失敗したときは、設定内容を確認し、「次へ」をクリックしてください。それでも設定できない場合は、「サーバーの自動アカウント設定に失敗したら」（125ページ）をご覧ください。

■ 次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。
パスワードの確認入力	確認のため、上記パスワードを再度入力します。

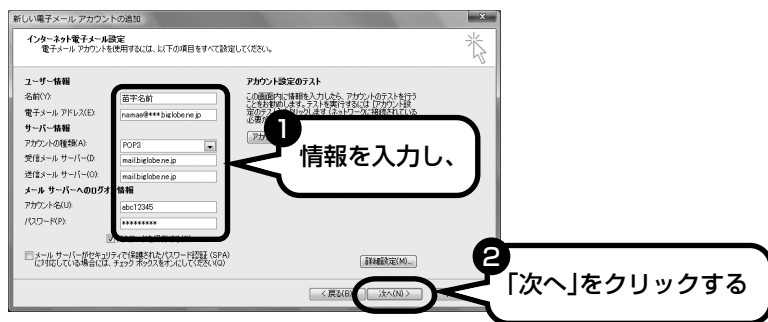
3 メールの設定を完了する

- セットアップが完了すると、「ユーザー名の指定」画面、「マイクロソフトソフトウェアライセンス条項」に同意する画面、プライバシーオプションを設定する画面やMicrosoft Updateを利用するための登録画面などが表示されます。説明をよく読んで、画面の指示にしたがって進めてください。
  Microsoft Updateについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「Windows を更新する」-「Microsoft Update とは」をご覧ください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「メール編」をご覧ください。

サーバーの自動アカウント設定に失敗したら

「メールソフトを設定する」の手順２（123ページ）で設定に失敗した場合は、サーバーの設定を手動でおこなうことができます。

手動でおこなうには、失敗した画面で「サーバー設定を手動で構成する」をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。その後、「電子メールサービスの選択」の画面で「インターネット電子メール」を◉にして「次へ」をクリックします。

次の画面が表示されたら、それぞれの情報を入力し、画面の説明を読んで設定してください。

■ この画面では、次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
アカウントの種類	ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は「IMAP」を選びます。詳しくはプロバイダに確認してください。
受信メールサーバー	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー	会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント

- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、ウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。
このほか、パソコンやインターネットを安心して使うために注意することを『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」で紹介しています。
このページと併せてご覧になり、セキュリティ対策をしてください。

『活用ブック』で紹介していること

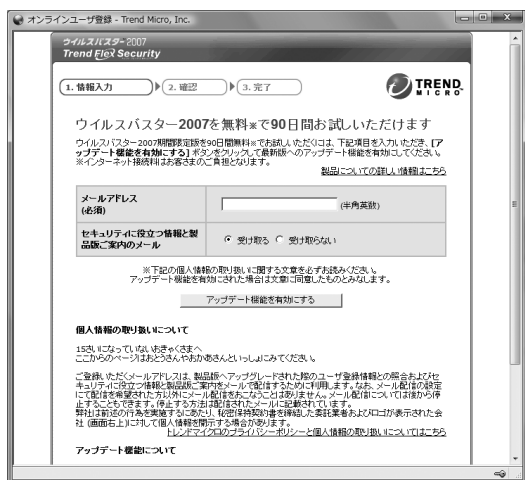
- Windows Update
  インターネットを通じて、Windowsの問題点を修復する「Windows Update」について説明しています。
- ウイルス対策ソフト
  このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」について説明しています。この後の「パソコンをウイルスから守るために」と併せてご覧ください。
- 個人情報を守るために
  クレジットカード番号などの大切な個人情報が流出するのを防ぐために、注意しなければいけないことを紹介しています。
- 無線LANを使うとき
  無線LANを使うときに、特に注意しなくてはいけないセキュリティの設定を説明しています。

パソコンをウイルスから守るために(1)

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CD や DVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「ウイルスバスター」を最新の状態に更新する

このパソコンには、ウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新（「アップデート」といいます）してウイルスチェックをしなければなりません。

このパソコンの「ウイルスバスター」では、はじめてアップデートを利用した日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎるとすべての機能が利用できなくなり、セキュリティ対策をおこなうことができません。無料期間終了後も継続してご利用いただくには、ダウンロード販売またはパッケージなどで製品版を購入し、ライセンスキーを入力していただく必要があります。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定について、これまでにパソコンを持っていなかったかたは第５章、パソコンを買い替えてインターネット接続をやりなおすかたは第６章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、はじめてアップデートする場合は、まずインターネットに接続をして、90日間無償サポートを受けるため、アップデート機能を有効にする必要があります。

インターネット接続の設定が終わった後、画面右下のを右クリックして、「アップデート開始」をクリックしてください。表示された画面の内容をよく読み、必要事項を記入してから、「アップデート機能を有効にする」をクリックしてください。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトを使い始める」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために(2)

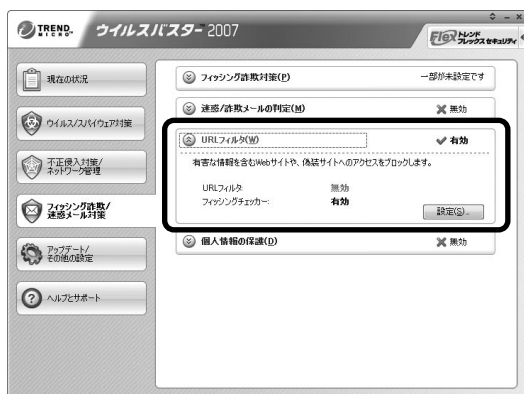
ウイルスの侵入を常にチェックする

「ウイルスバスター」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「リアルタイム検索」といいます。「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。
ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する（「リアルタイム検索」が有効）設定になっています。通常はこの状態でお使いください。画面右下のを右クリックして表示されるリストの「リアルタイム検索」右側にが付いていないときは「リアルタイム検索」は無効です。が付いているときは有効です。
「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「リアルタイム検索」を一時的に無効にすることができます。
また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「リアルタイム検索」を一時的に無効に設定してください。
「リアルタイム検索」の有効/無効設定について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

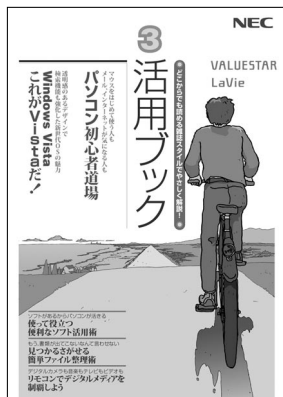
その他のウイルス対策ソフトを使う

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使うこともできます。

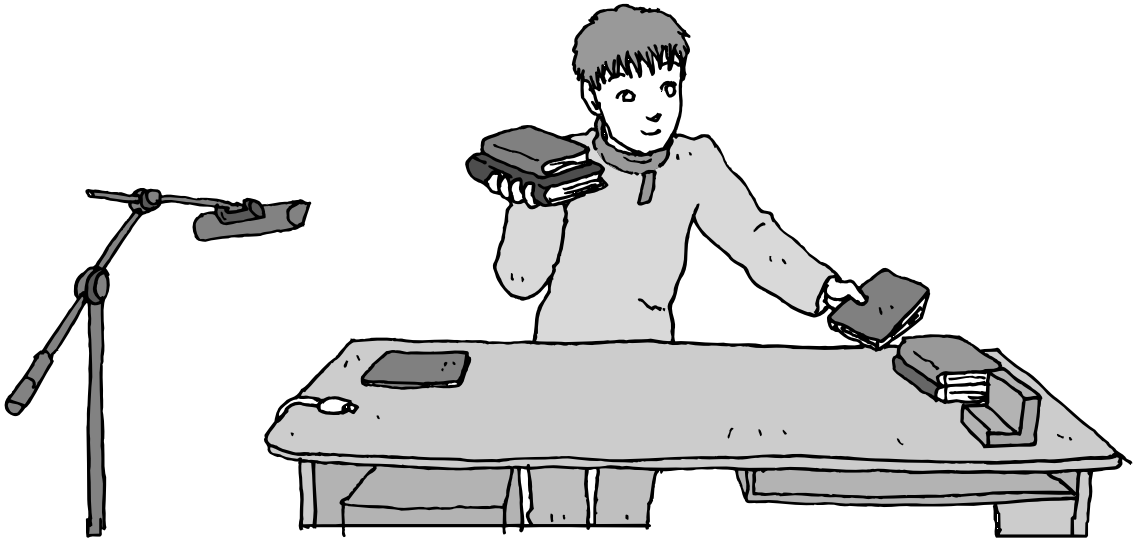
「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「ウイルスバスター」を削除（アンインストール）してください。削除方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「ウイルスバスター」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

お子様を有害ホームページから守るために

インターネットにアクセスすると、さまざまなホームページを閲覧できます。しかし、有害な情報や違法情報を含むホームページもあります。
このようなホームページへのアクセスを自動的に遮断してくれる「ウイルスバスター」のURLフィルタ機能を使うことをおすすめします。
利用者それぞれに適した設定ができるため、お子様も安心してインターネットを楽しめるようになります。

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。

インターネット・メールの楽しみ方を知るには

『活用ブック』では、セキュリティ対策のほかに、インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

第6章

パソコンを買い替えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする

これまでのパソコンで、インターネットを利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

今までダイヤルアップ接続を利用されていたかたは

このパソコンでは継続してダイヤルアップ接続を利用することはできません。引き続きインターネットを利用する場合は、ブロードバンド接続などにコースを変更する必要があります。コースの変更について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。

CATV のかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い替えたときの設定方法についてお問い合わせください。

ブロードバンドの接続、設定をおこなう

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、パソコンと通信回線の接続、インターネットの設定、メールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、第５章の該当するページをご覧ください。

ワイヤレスLANで接続する

「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」(103ページ)をご覧ください。

ルータを利用する場合の接続設定をおこなう

「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」(113ページ)をご覧ください。
ルータタイプの ADSL モデムを利用している場合も同じです。

ルータを利用しない場合の接続設定をおこなう

「ブロードバンド接続の設定」(117ページ)をご覧ください。

インターネットに接続する

「インターネットに接続する」(120ページ)をご覧ください。
設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(122ページ)をご覧ください。
インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

上記の設定を済ませてから、「古いパソコンからデータを移す」(133ページ) へ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

古いパソコンからデータを移す

「Windows 転送ツール」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

「Windows転送ツール」で移行できるデータ

次のデータを移行することができます。

・「Internet Explorer」の設定と「お気に入り」
・「Outlook」の予定表や連絡先、メールのアカウントや受信データなど
・電子メールのアカウント、アドレス帳や送受信データ
・ユーザーアカウントおよび設定
・フォルダとファイル（音楽、画像、ビデオなど）
・プログラムの設定

移行される内容について詳しくは、「ヘルプとサポート」で、「Windows 転送ツール」を検索して「ファイル設定を転送する：よく寄せられる質問」をご覧ください。

「Windows転送ツール」の利用条件

古いパソコンのOS（オーエス）が次のいずれかであること

・Windows Vista
・Windows XP
・Windows 2000 ※

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、「Windows転送ツール」は利用できません。

※ Windows 2000 をご利用の場合、プログラムの設定とシステムの設定は移行できません。

1 「Windows転送ツール」を使う準備をする

ご使用の状況によって、次のものが必要になる場合があります。

・書き込み可能なCDまたはDVD
・USBフラッシュメモリまたは外付けハードディスク
・LANケーブル
・転送ツールケーブル

・使用可能なディスクについて詳しくは、「ヘルプとサポート」をご覧ください。

・HUB（ハブ）を使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください（こちらの接続方法をおすすめします）。

・2台のパソコンをLANケーブルで直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。

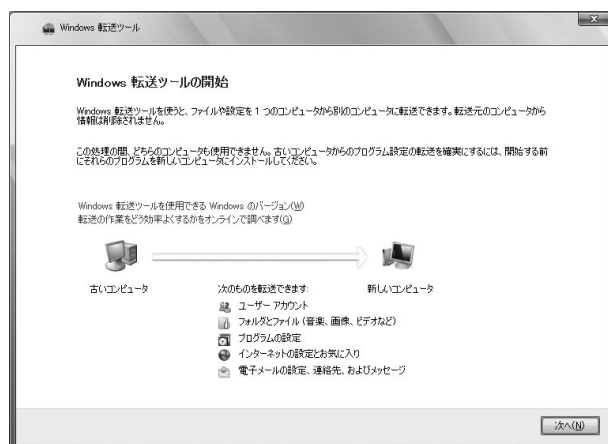
・複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。

2 「Windows転送ツール」を起動する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

3 画面の表示にしたがい操作する

画面の説明を読んで、「次へ」をクリックします。

その後は、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

周辺機器を使えるようにする

古いパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとはかぎりません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows Vistaに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows Vistaに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

古いパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、古いパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカにお問い合わせください。

ソフトを移す

古いパソコンで利用していたソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

ソフトを移行する前に

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows Vistaに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows Vistaに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンスキーなどが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

古いパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

第7章

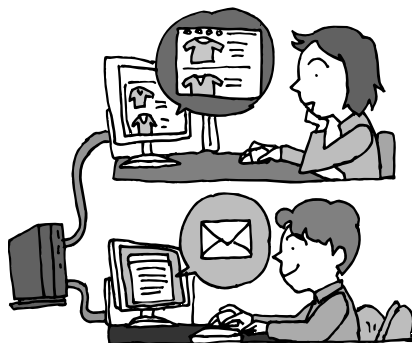
前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

このパソコンには、パソコンを接続してホームネットワークを作るためのソフト「ホームネットサポーター」が入っています。
家庭でネットワークを作ることの利点や、「ホームネットサポーター」の使い方を紹介します。

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

ADSLなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ替えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジタルカメラの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリーカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップ

ホームネットワークがあれば､「バックアップ−NX」というソフトを使ってこのパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップを取ることができます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使ってもとに戻すことができます。

１日１回、週に１回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは､「LAN（ラン)」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません｡「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

複数のパソコンを ホームネットワークでつなぐ

「ホームネットサポーター」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

「ホームネットサポーター」の利用条件

「ホームネットサポーター」を使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

接続したいパソコンのOSが次のいずれかに該当すること

- Windows Vista Ultimate
- Windows Vista Home Premium
- Windows Vista Home Basic
- Windows Vista Business
- Windows XP Professional Service Pack 2
- Windows XP Home Edition Service Pack 2
- Windows XP Media Center Edition 2005

接続したいパソコンのOSが上記以外の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。

ご利用の回線がADSLまたはFTTHであること

ISDN、CATVをご利用の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。
また、はじめてインターネットに接続する際のルータ設定機能は、FTTHをサポートしていません。あらかじめインターネットの接続設定を手動でおこなった後、ホームネットサポーターを利用してください。

「ホームネットサポーター」が利用できないとき

パソコンのOSや通信回線などが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定をおこなう必要があります。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

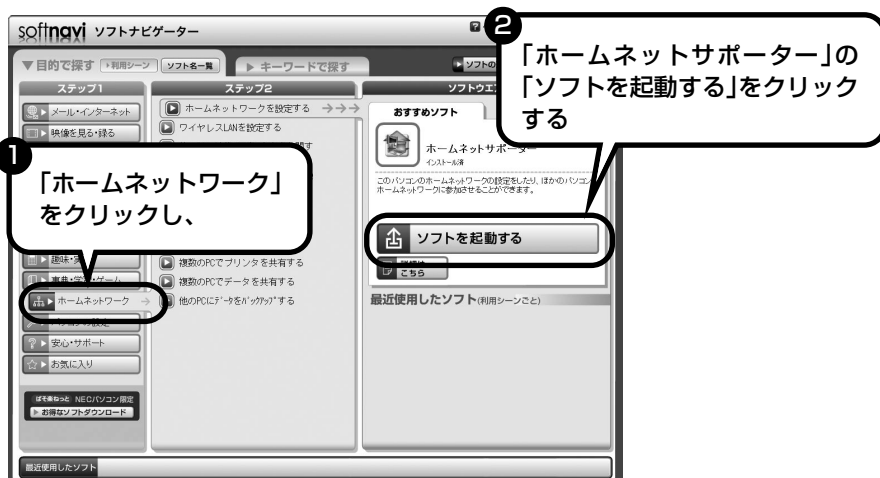
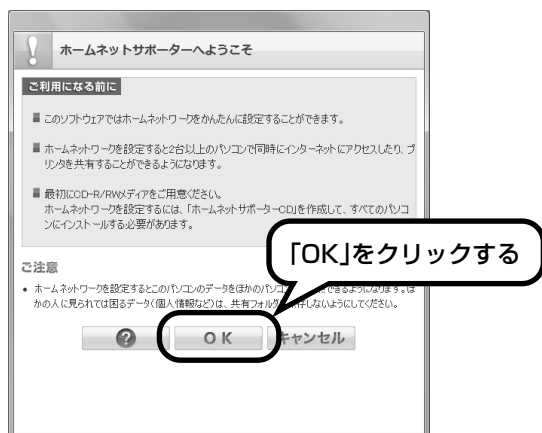
1 「ホームネットサポーター」を使う準備をする

未使用のディスク（CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM）を1枚用意します。
ホームネットワークに接続するほかのパソコンに、「ホームネットサポーター」をインストールするディスクを作成します。

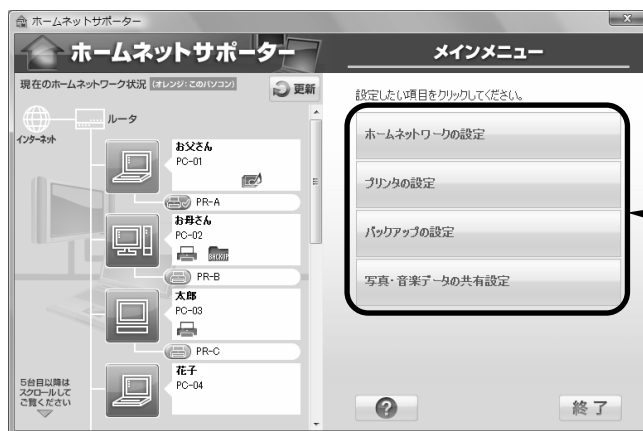
複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者のユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。

2 「ホームネットサポーター」を起動する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ホームネットサポーターへようこそ」の画面が表示されます。

「ホームネットサポーターCD」を作成する画面が表示されます。画面の説明を見て、ホームネットサポーターCDを作成し、ホームネットワークの初期設定をしてください。設定が終わると次の画面が表示されます。

3 ホームネットワークを設定する

メインメニューから設定したい項目をクリックし、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

メインメニューからは次の設定をおこなえます。
・ホームネットワークの設定
・プリンタの設定
・バックアップの設定
・写真・音楽データの共有設定

インストールされているソフトやその他の条件により、利用できる機能には違いがあります。また、パソコンのOSによっては、画面や設定手順が異なります。

第8章

パソコン内部に取り付ける

パソコンのカバーを開けて、内部にPCIボードやメモリなどの周辺機器（別売）を取り付けることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、PCIボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体をおおっているカバー）を外す作業が必要になります。ここでは、その作業について説明します。作業はあせらず、ゆっくりとおこなってください。

ルーフカバーの外し方

1 本体と、プリンタなど周辺機器の電源を切る

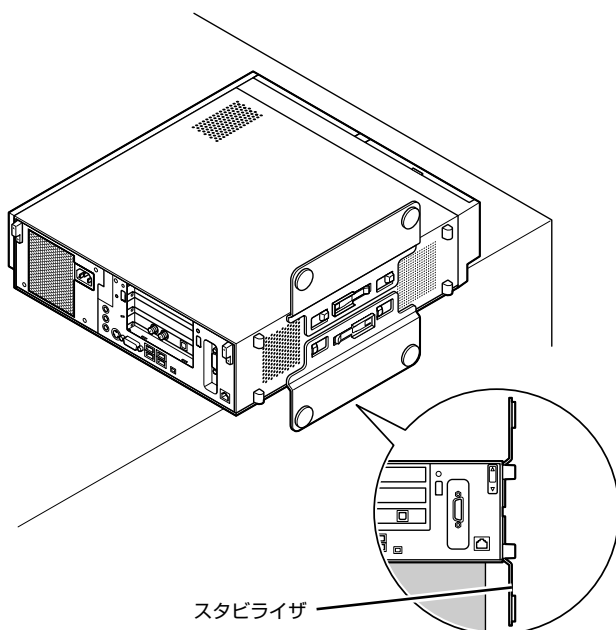
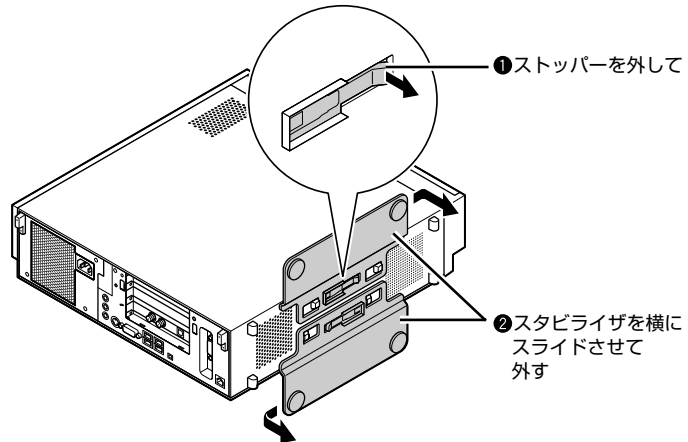
通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windows を起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（60 ページ）の手順で電源を切ってください。

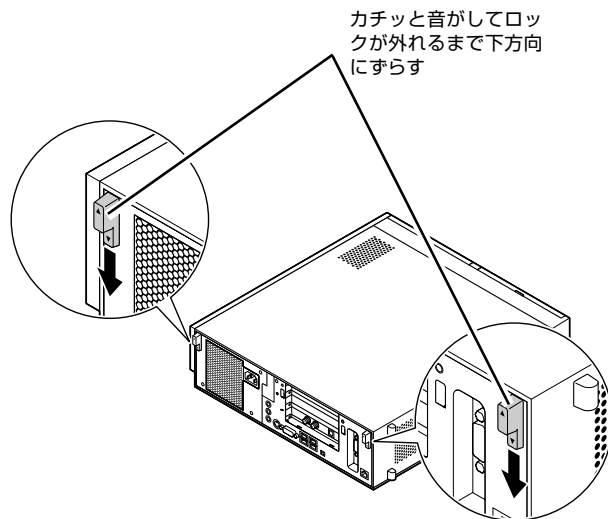
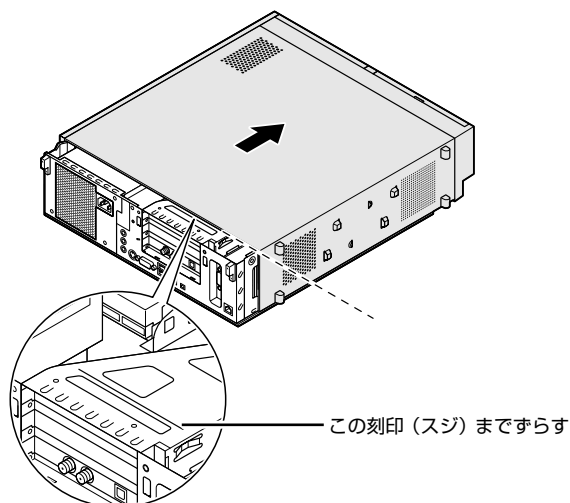
2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く

3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

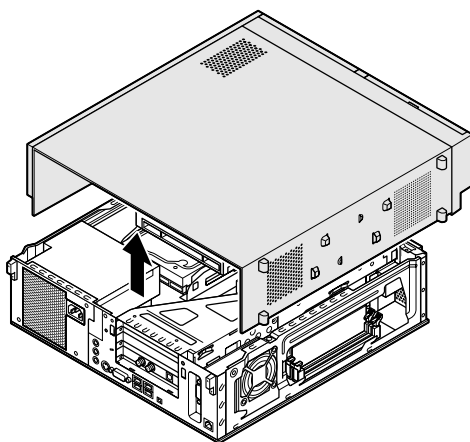
ここで取り外したケーブルは、メモリや PCI ボードの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けた後で、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

4 本体の左側面（正面から見て左側）を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く

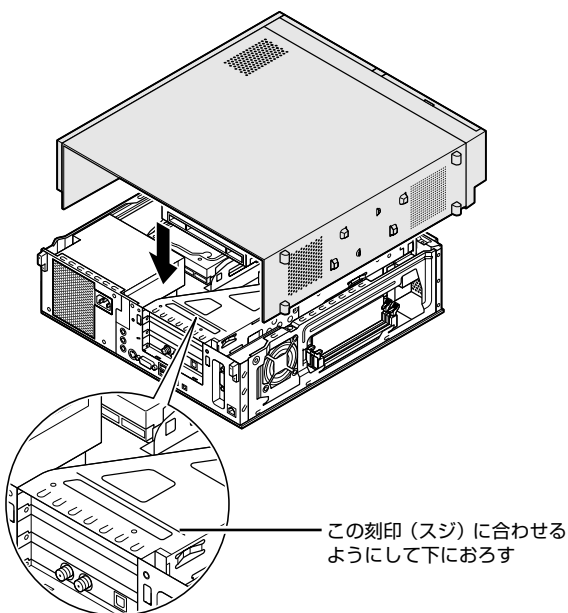
本体を横に倒すときは、本体を安定させるために、また机やテーブルなどを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

5 スタビライザを取り外す

スタビライザを落下させないよう、スタビライザを手に持って取り外してください。

6 本体背面のレバーを下方向にずらす

7 ルーフカバーを次の図のように少し前にずらす

・ルーフカバーを取り外すときは、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。

・ルーフカバーを取り外すときは、DVD/CDドライブのカバーを引っ張らないでください。カバーが破損することがあります。

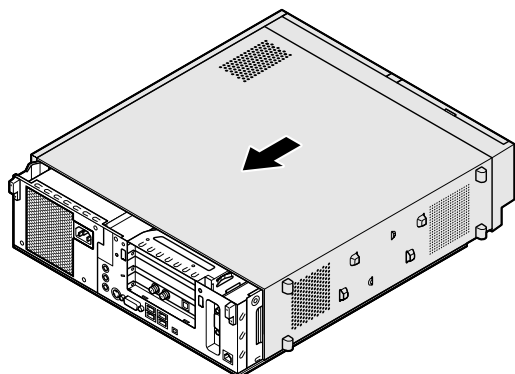
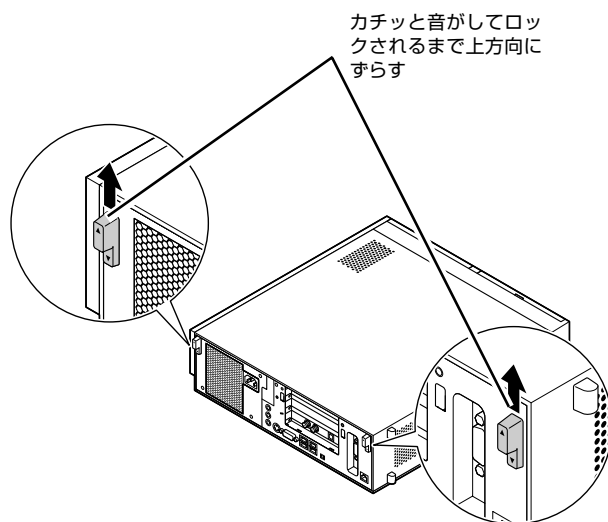
8 そのままゆっくり上方向に持ち上げて取り外す

ルーフカバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、カバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1 ルーフカバーの先端を次の図の位置に合わせるようにして下におろす

・このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気を付けてください。

・ルーフカバーを取り付けるときは、PCカードイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。

・ルーフカバーを取り付けるときは、DVD/CDドライブのカバーを押したりしないでください。カバーが破損することがあります。

2 ルーフカバーを本体背面側にスライドさせる

3 本体背面のレバーを上方向にずらして固定する

4 スタビライザをもとどおりに取り付ける

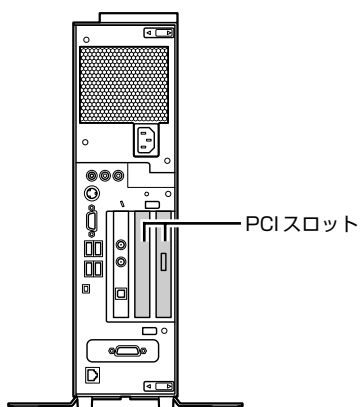
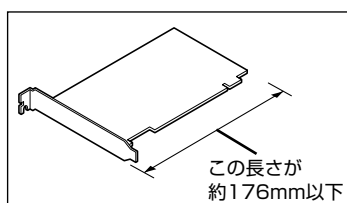
スタビライザの取り付けについては、「スタビライザ（台座）を取り付ける」（8 ページ）をご覧ください。

5 「ルーフカバーの外し方」の手順3で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

ケーブルの接続については、「第２章 電源を入れる前に接続しよう」をご覧ください。

PCIボード

PCIスロットについて

このパソコンでは、次の図のように、PCI スロットがあります（モデルによって使用できるスロットの数は異なります）。
PCI スロットにはハーフサイズの PCI ボードを取り付けることができます。

- このパソコンには、フルサイズの PCI ボードは取り付けられません。ハーフサイズのボードを取り付けてください。ハーフサイズのボードとは、次のような大きさのボードのことです。

- ハーフサイズのボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられないことがあります。

PCIボードの取り付けと取り外し

PCI ボードの取り付け／取り外しには、プラスドライバーが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

PCI ボードの取り付け方

⚠注意

●本体の金具を取り外すときは、手順にしたがってゆっくりと引き抜いてください。
指をぶつけたり、切ったりするおそれがあります。

●PCIボードを差し込むときは、強い力が必要になることがありますので指をぶつけたり、切ったりしないように、注意して作業してください。

- 以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。
- 電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- 机やテーブルを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- 標準で取り付けられているPCI ボードは、ご購入時に取り付けられていたスロットで使用してください。
- 標準で取り付けられているPCI ボードを取り外して、別のPCI ボード /PCI Express ボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。
- PCI ボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でPCI ボードを扱うと破損する原因になります。PCIボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。

市販のPCI ボードを取り付けるときには、必ずPCI ボードに添付のマニュアルもご覧ください。

1 **パソコンの電源を切る**

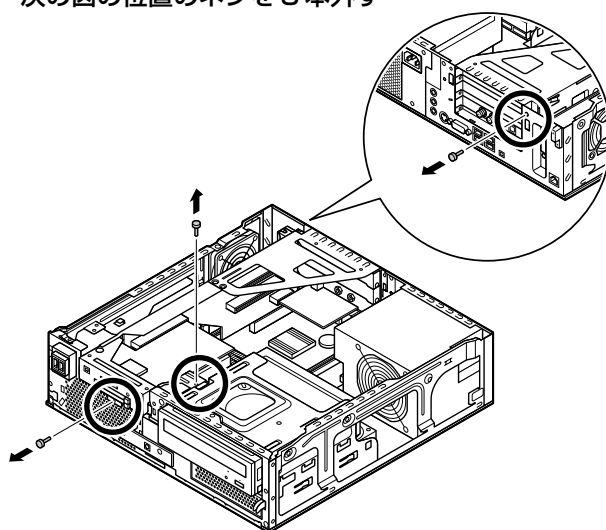
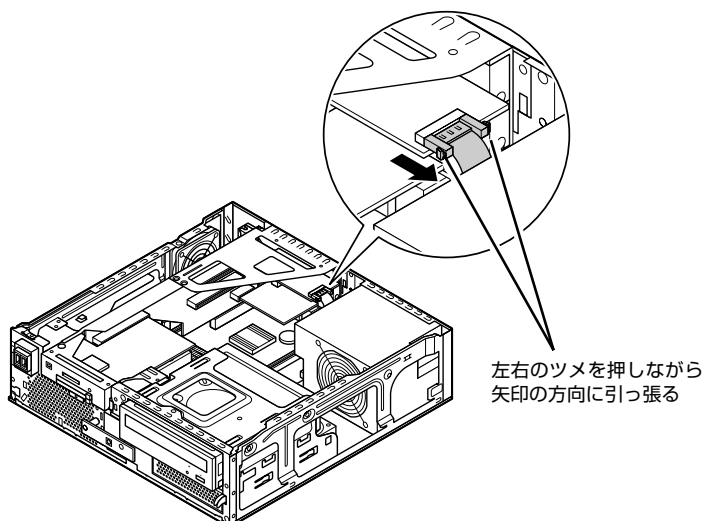
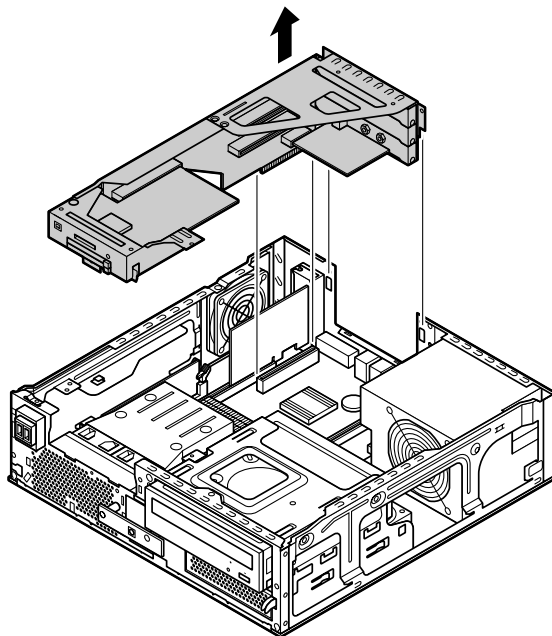
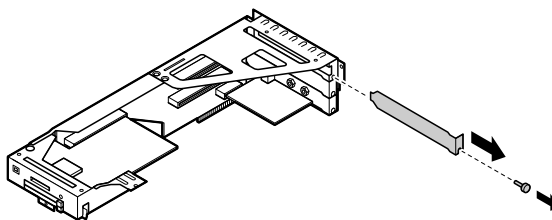
通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windows を起動してから、「電源を切る（シャットダウンする)」(60 ページ）の手順で電源を切ってください。

2 アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に触れて、静電気を取り除く

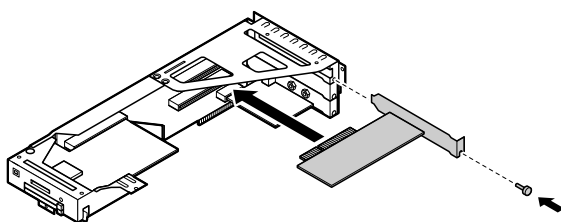
パソコン内部の部品や増設する部品には、静電気に弱いものがあります。身体に静電気を帯びた状態で扱うと破損する原因になります。

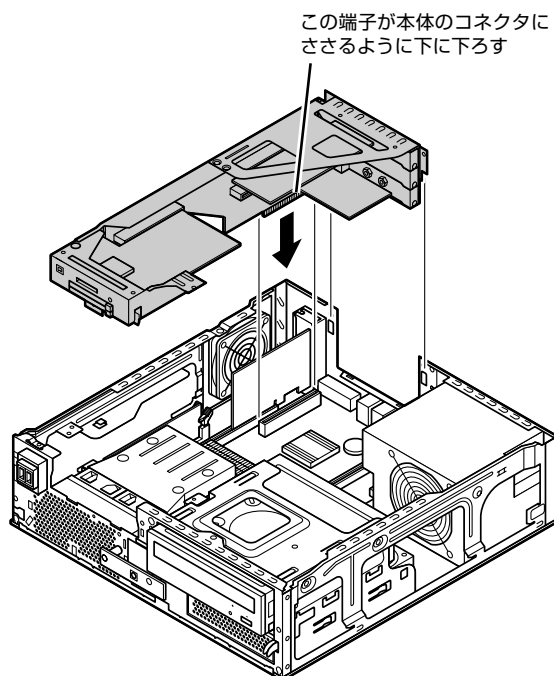
3 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

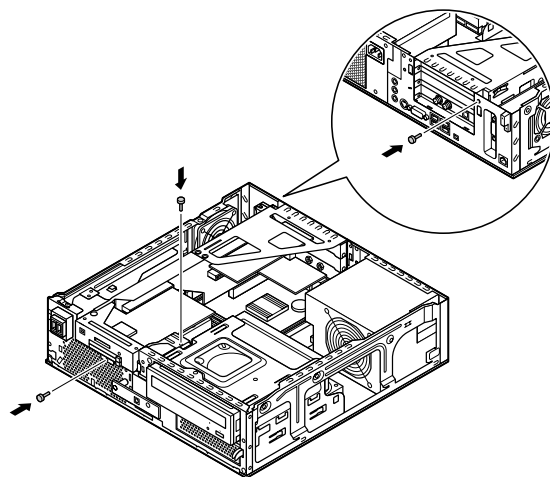
ルーフカバーの外し方については、「本体の開け方と閉め方」（146ページ）をご覧ください。

4 次の図の位置のネジを３本外す

5 デジタルハイビジョンTV（地デジ / 地アナ）モデルの場合、一番上のPCIボードに接続されているケーブルを取り外す

6 PCIスロット部分を上に持ち上げて取り外す

7 空いているスロットのネジを外し、スロットカバーを取り外す

スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要になりますが、なくさないように大切に保管してください。

8 PCI ボードをスロットに差し込み、外したネジで取り付ける

PCI ボードを持つときは、ボード上の部品やツメ（端子）部分に触れないように注意してください。

9 PCI スロット部分を本体コネクタに合わせて、上から押し込む

本体内部のケーブル類を傷つけないように注意してください。

10 デジタルハイビジョンTV（地デジ / 地アナ）モデルの場合、手順５で取り外したケーブルを接続しなおす

11 手順４で取り外したネジ３本を取り付ける

PCI ボードの取り外し方

PCI ボードの取り外しは、PCI ボードの取り付けと逆の手順でおこなってください。

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設 RAM（ラム）ボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める

このパソコンでは、最大2Gバイトまで増やせます。

必要なものを準備する

必要な増設RAMボードなどを準備します。

増設RAMボードを取り付ける

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設RAMボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらルーフカバーをもとに戻します。

メモリが増えたかどうか確認する

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

1 デスクトップの（サポートナビゲーター（電子マニュアル））をダブルクリックする

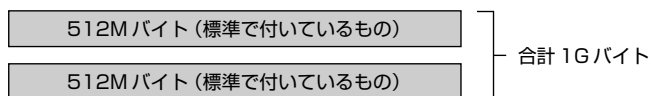
パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

2 をクリックする

メモリ容量が表示されます。

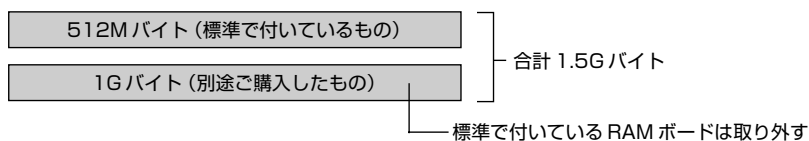
メモリ容量は実際より数Mバイト少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

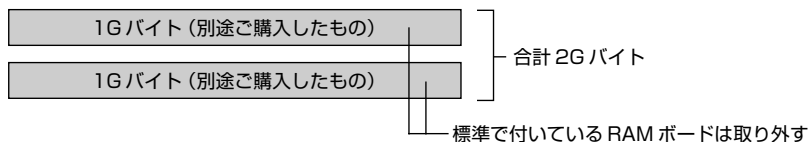
メモリの増やし方の例

このパソコンは、デュアルチャネルのメモリアクセスに対応しており、同容量のRAMボードが2枚取り付けられていると、より高速な動作が可能です。
ここでは、標準で512Mバイトのメモリが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

※標準で付いているメモリの数は、モデルによって異なります。

標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMボードに取り替えることもできます。メモリは、最大で2Gバイト（1Gバイトの増設RAMボード×2枚）まで増やすことができます。

例1：1.5Gバイトにする場合

標準で付いているRAMボードを1枚取り外し、1Gバイトの増設RAMボードを1枚追加します。

例2：2Gバイト（最大）にする場合

標準で付いているRAMボードを取り外し、1Gバイトの増設RAMボードを2枚取り付けます。

デュアルチャネルとは、同容量/同タイプの2枚のRAMボードに同時にアクセスすることで、メモリのデータ転送性能を約2倍に高速化する技術のことです。

- ご購入時に同容量のRAMボードが2枚取り付けられているモデルでは、デュアルチャネルでメモリアクセスがおこなわれます。
- このパソコンに別売の同容量の増設RAMボードを2枚取り付けると、デュアルチャネルでメモリアクセスがおこなわれるようになります。
- 実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。

このパソコンで使える増設RAMボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMボード」というボードを使います。
このパソコンでは、次の増設RAMボードを使うことをおすすめします。

型名	メモリ容量
PC-AC-ME023C	512Mバイト
PC-AC-ME024C	1Gバイト

(DDR2 SDRAM/DIMM、PC2-5300タイプ)

このパソコンでは、「SIMM(シム)」やDDR2が付かない「SDRAM DIMM」というタイプの増設RAMボード(メモリ)は使用できません。間違ってご購入しないように注意してください。
市販の増設RAMボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意

- 増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因になります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードの金属端子には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

増設RAMボードの取り付けと取り外し

増設 RAM ボードの取り付け方

⚠注意

RAM ボードを差し込むときは、強い力が必要になることがありますので指をぶつけたり、切ったりしないように、注意して作業してください。

増設RAMボードを取り付けるときは、本体のルーフカバーを開けて作業します。

1 パソコンの電源を切る

通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windows を起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（60 ページ）の手順で電源を切ってください。

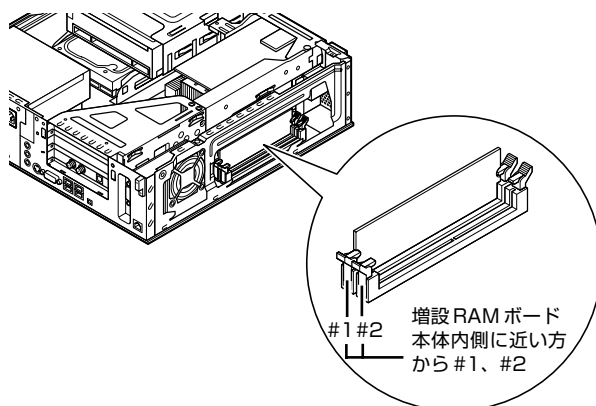
2 アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に触れて、静電気を取り除く

増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で扱うと破損する原因になります。

3 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

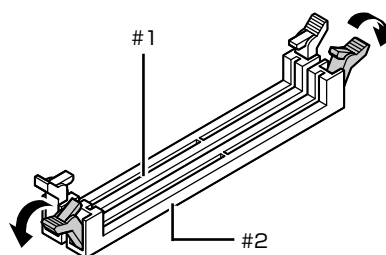
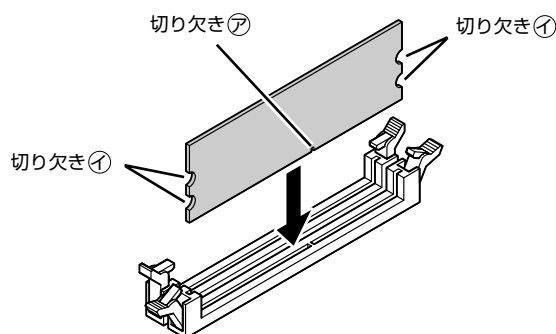
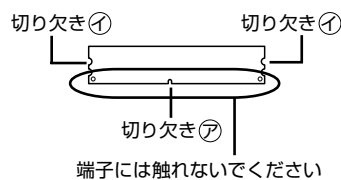
ルーフカバーの外し方については、「本体の開け方と閉め方」（146ページ）をご覧ください。

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

ここで、増設RAMボード用のメモリスロットの位置を確認しておいてください。

メモリスロット両方にメモリが取り付けられているときは、片方または両方のメモリを取り外してから、別途用意したメモリを取り付けます。

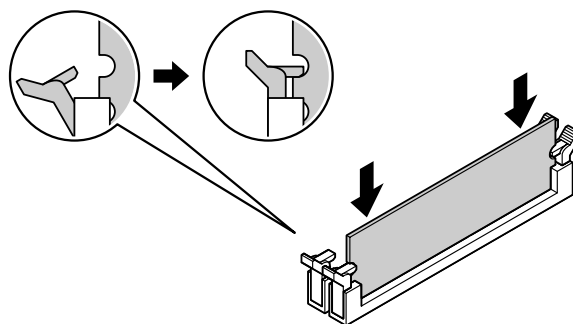
- フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。
- メモリは大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMボードおよび標準で付いていたRAMボードは、大切に保管してください。

4 ボードを差し込むメモリスロットの両側のフックを外側に開く

この図では、実際に差し込まれているRAMボードを省略しています。

5 切り欠き㋐の方向とメモリスロットにあるミゾの位置が合うように、空いているメモリスロットにボードを垂直に差し込む

増設RAMボードは、両手で持ってください。

メモリスロットのミゾとボードの切り欠き㋐の位置を確認してから差し込んでください。

6 **そのまま垂直方向に力を加え、ボードを奥まで押し込む**

差し込んだ後、メモリスロット両側のフックが切り欠き㋑にかかっているか確認してください。

かかっていない場合には、指でフックを切り欠き㋑に引っかけてロックしてください。指でロックさせる場合には、強い力は不要です。うまくロックできないときは、無理に押し込まずに、もう一度ボードを差しなおしてください。

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

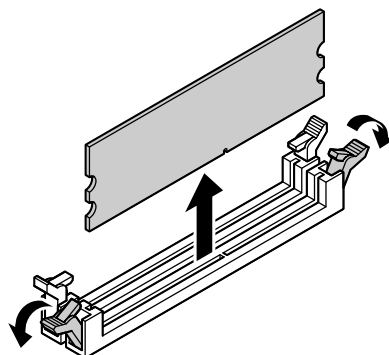
7 **正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける**

ルーフカバーの取り付け方については、「本体の開け方と閉め方」（146ページ）をご覧ください。

RAM ボードの取り外し方

1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す

ルーフカバーの外し方については、「本体の開け方と閉め方」（146ページ）をご覧ください。

2 メモリスロットの両側のフックを外側に開き、ゆっくりとボードを垂直に引き抜く

- 電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。
- メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAM ボードおよび標準で付いているRAM ボードは、大切に保管してください。

3 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

ルーフカバーの取り付け方については、「本体の開け方と閉め方」（146ページ）をご覧ください。

増やしたメモリの容量を確認する

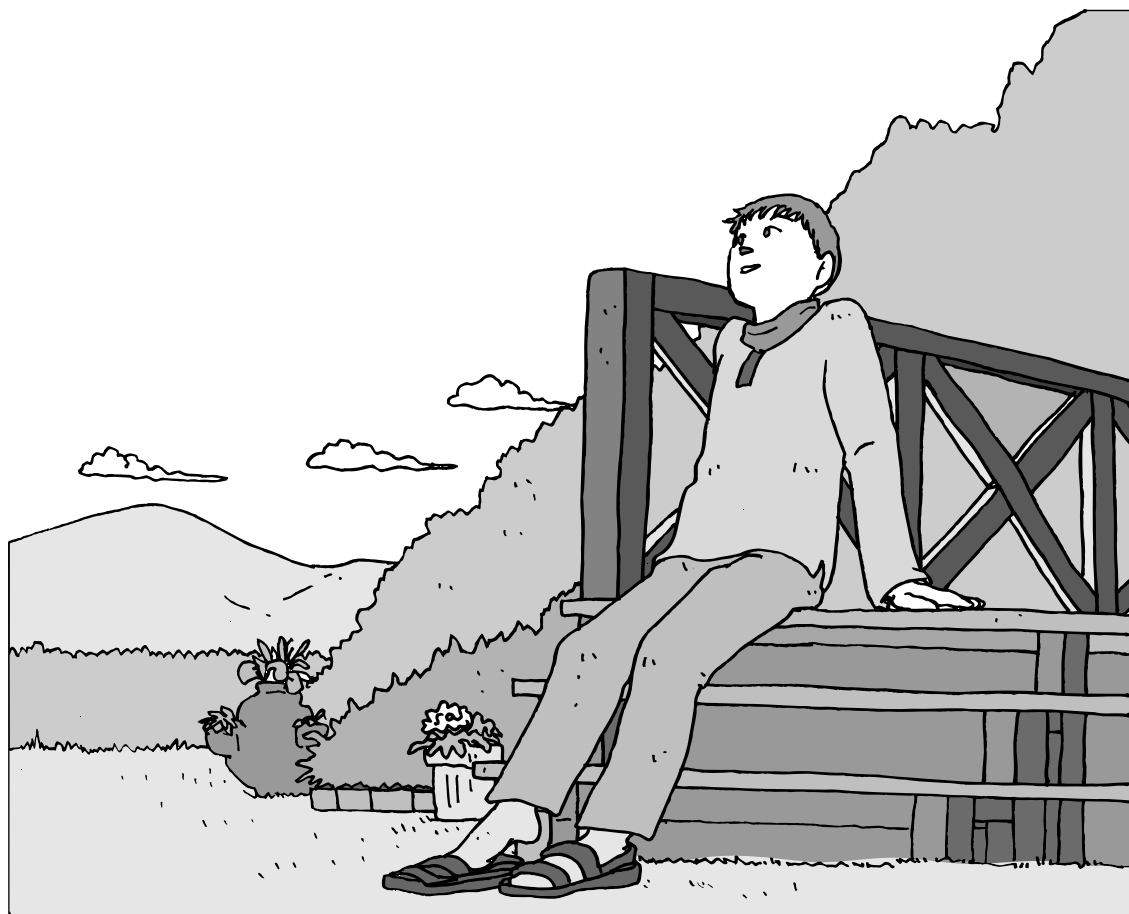
パソコンの電源を入れ、「メモリを確認する」（158ページ）の手順で増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設RAMボードを取り付けているか？**

付　録

FeliCaポートを使う

このパソコンには、FeliCa を利用した非接触 IC カードを読み書きできる「FeliCaポート」が添付されています。

FeliCa プラットフォームマークは、本製品が FeliCa を利用したマルチアプリケーションプラットフォームに対応していることを表しています。

FeliCaとは

非接触 IC カード技術方式“FeliCa”とは、電子マネー、交通機関のプリペイドカード、各社のポイントカードなどに採用されている IC カード規格のひとつです。非接触型なのでこのパソコンの FeliCa ポートやお店の読取装置、改札機にかざすだけで使えます。
このパソコンで使えるのは「FeliCa 対応カード」と「FeliCa 対応携帯電話」です。

- このマニュアルでは、「FeliCa 対応カード」と「FeliCa 対応携帯電話」をあわせて「FeliCa 対応カード」と呼びます。
- このパソコンに添付されている FeliCa ポートでご利用できる FeliCa 対応カードについては、(http://www.justsystem.co.jp/atlife/kazasu/card/) をご覧ください。
- 「FeliCaポート」は、無線機器の一種です。取り扱いの注意事項について、『安全にお使いいただくために』もご覧ください。

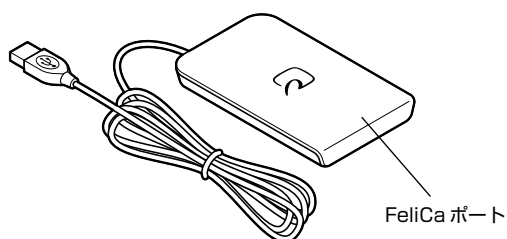
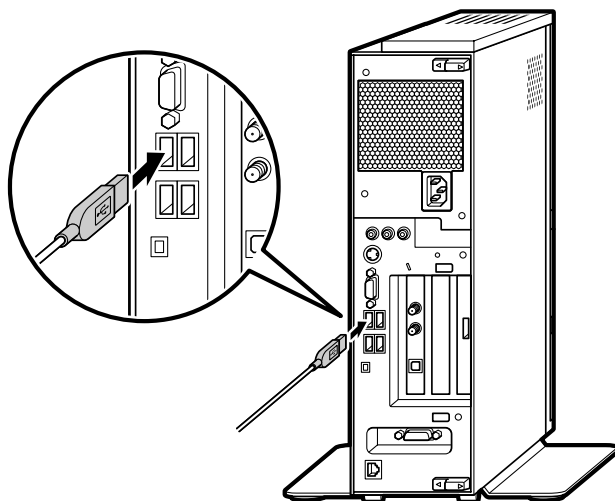
「FeliCaポート」利用上の注意

- ・本製品は、日本国内での電波法に基づく型式指定を受けた誘導式読み書き通信設備です。
- ・本製品を分解、改造したり、型式番号を消したりすると法律により罰せられることがあります。
- ・心臓ペースメーカ装着部位から 30 センチ以上離して使用してください。
  電波によりペースメーカの作動に影響をあたえる場合があります。
- ・医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品のポーリングをオフにしてください。

● **パスワードの扱いにご注意ください**

FeliCa対応カードやおサイフケータイは、現金やクレジットカードなどと同等の価値を持っています。サービスをご利用の際に必要となる暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。
暗証番号の不正使用により生じた損害については弊社では保証いたしかねます。

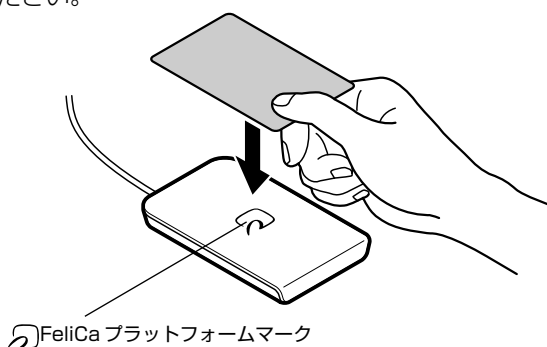
FeliCaポートの取り付け

このパソコンに添付の「FeliCaポート」を使って、FeliCa対応カードの情報を読み取ったり書き込んだりできます。

1 「FeliCa ポート」のプラグをパソコンのUSB コネクタに取り付ける

- 「FeliCaポート」は、パソコン本体のUSBコネクタに取り付けてください。市販のUSBハブなどに取り付けると正常に動作しないことがあります。
- パソコン本体にはUSBコネクタが複数あります。どのUSBコネクタに差し込んでもかまいません。USBコネクタについて詳しくは、「各部の名称」(巻末)をご覧ください。

FeliCa対応カードを使う

1 FeliCa 対応カードのかざし方

FeliCa対応カードの中心を「FeliCaポート」の「FeliCaプラットフォームマーク」に合わせて置きます。カードの裏表は問いませんが、携帯電話の場合は電話側のFeliCaプラットフォームマークが付いている面と合わせて置いてください。

FeliCa プラットフォームマーク

FeliCa対応カードを「FeliCaポート」にかざすと、FeliCa対応ソフト「かざしてナビ」が表示されます。

- **カードは必ず1枚のみセットしてください。複数枚のカードをかざすと、正しく読み取れません。**
- **「FeliCaポート」からはみ出したり、傾けたりしてカードをかざすと、正しく認識できないことがあります。**
- **「FeliCa ポート」を置く机などの材質が鉄などの金属の場合は、「FeliCa ポート」が正常に動作しないことがあります。**

2 「かざしてナビ」を使う

FeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話をかざすと、FeliCa対応カードをパソコンで活用するためのソフト「かざしてナビ」が自動的に表示されます。

この画面から対応するソフトを起動してください。

- 各ソフトについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」または、各ソフトのヘルプをご覧ください。
- FeliCa 対応カードをかざすタイミングは、各ソフトにより異なります。各ソフトの画面表示を見ながら操作してください。

「スクリーンセーバーロック2」について

スクリーンセーバーロック２を登録したが、登録したFeliCa対応カードや携帯電話、またはパスワードを両方なくしてしまったときは、次の方法でスクリーンセーバーを解除してください。

【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Delete】を１回押してください。Windowsのログオン画面が表示された場合は、ログオン中のアカウントをクリックしてログオンしてください。ロックが解除されます。

メニュー画面が表示された場合は、「ユーザーの切り替え」をクリックすると、Windowsのログオン画面が表示されます。

ロックが解除されたら、スクリーンセーバーロック２に、別のFeliCa対応カードや携帯電話と、新しいパスワードを登録してください。

- **上記の方法でのスクリーンセーバーロック２の解除はFeliCa対応カードや携帯電話、パスワードを必要としません。より安全にお使いいただくためには、Windowsログオンパスワードを設定し、ロック解除時にパスワードを入力するように設定することをおすすめします。**
- **手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。**

1. 「スタート」-「コントロール パネル」-「ユーザー アカウントと家族のための安全設定」-「ユーザー アカウントの追加または削除」をクリックする
2. 「変更するアカウントを選択してください」欄で、パスワードを設定するアカウントをクリックする
3. 「パスワードの作成」をクリックする
4. 「新しいパスワード」欄と「新しいパスワードの確認」欄に新しく設定するパスワードを入力し、必要に応じて「パスワードのヒントの入力」を入力する
5. 「パスワードの作成」をクリックする
6. 画面右上の［×］をクリックする
7. 「スタート」-「コントロールパネル」-「デスクトップのカスタマイズ」-「スクリーンセーバーの変更」をクリックする
8. 「再開時にログオン画面に戻る」の☐をクリックして☑にする
9. 「OK」をクリックする

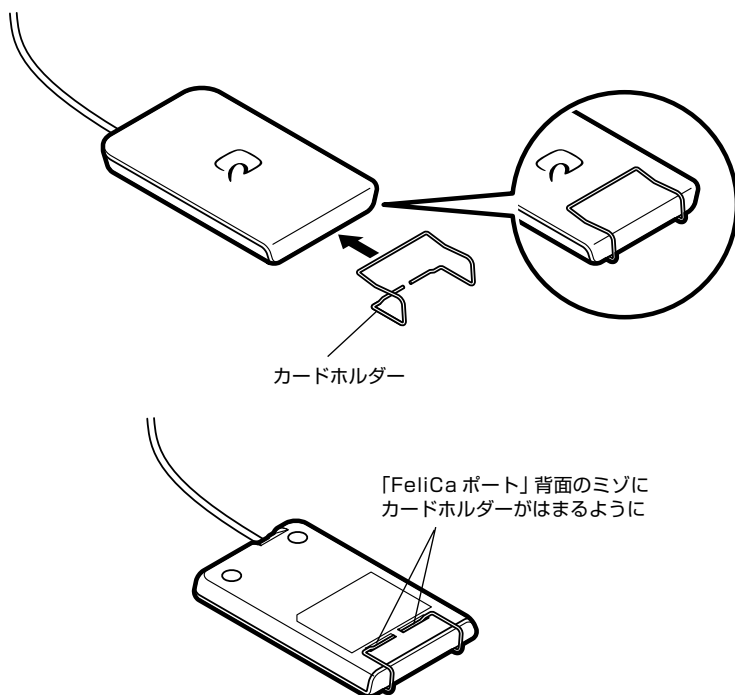
この設定をおこなうと、スクリーンセーバーのロックを解除するときだけでなく、パソコンを起動するときや省電力状態から復帰するときにもWindowsのログオンパスワードの入力が必要になります。
また、パスワード入力の手間を省くためには、FeliCa対応ソフト「シンプルログオン」の併用をおすすめします。
登録したFeliCa対応カードをかざすことで、Windowsにログオンできるようになります。
詳しい操作方法については、シンプルログオンのヘルプを参照してください。

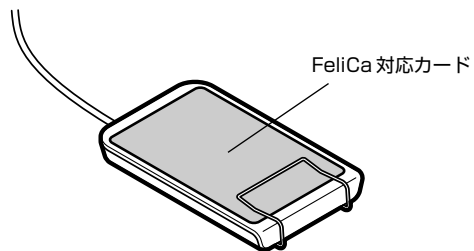
カードホルダーを使う

同じ FeliCa 対応カードを続けて読み書きするときは、カードホルダーを使って、カードを固定しておくと便利です。

⚠注意

カードホルダーの取り付け、取り外しをおこなうときは、カードホルダーのとがった部分で指を切ったりしないように、注意して作業してください。

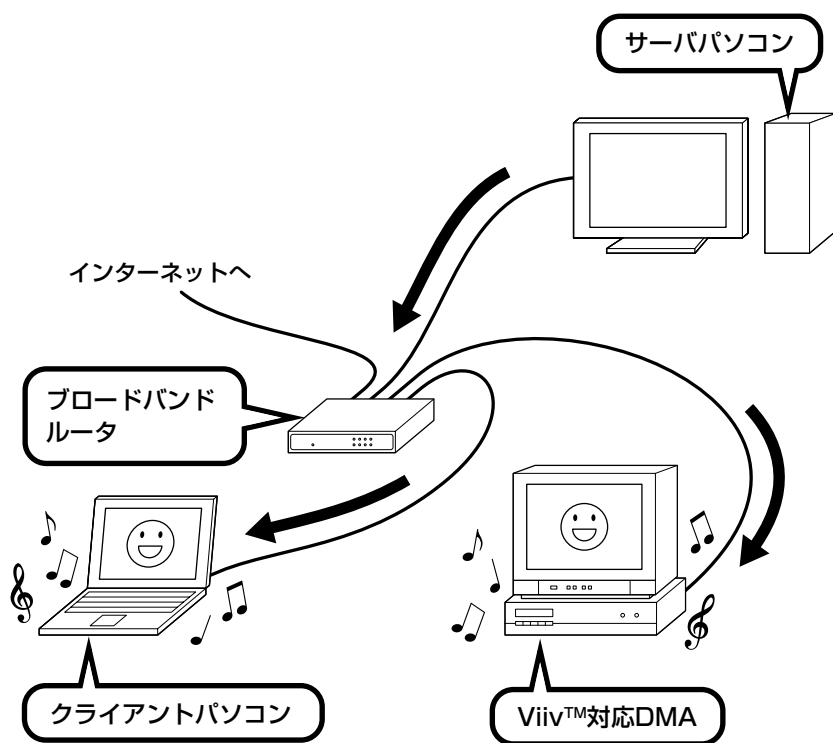
● カードホルダーの取り付け方

● カードホルダーの使い方

図のようにFeliCa対応カードを、「FeliCaポート」に取り付けます。

FeliCa対応カードを「FeliCaポート」に固定せず、かざして利用する際は、カードホルダーを取り外してください。

Viiv™デジタルメディアサーバを使う

Intel® Viiv™テクノロジーモデルでは、デジタルメディアサーバを設定してコンテンツの配信ができます。

Viiv™デジタルメディアサーバについて

インテル® Viiv™ テクノロジーを使うと、インテル® Viiv™ テクノロジーモデルのパソコンに蓄えられた動画/音楽/静止画を別のパソコンで楽しむことができます。インテル® Viiv™ テクノロジーモデルのパソコンをサーバパソコンとし、クライアントパソコンとネットワークで接続します。

ネットワークの設定について詳しくは、画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

サーバパソコンからクライアントパソコンに配信できるコンテンツは、次のとおりです。

ファイルの種類	配信可能なファイルの形式
動画	MPEG1/MPEG2/MPEG4/DivX3/DivX4/DivX5/WMV/WMV(DRM)/DV-Type1/DV-Type2
静止画	JPEG/GIF/BMP/TIF/PNG
音楽	MP3/WMA/WMA(DRM)/AAC-LC

クライアントパソコンが表中の形式に対応したコーデックを持っていない場合は、動画はMPEG2、音楽はLPCM形式にそれぞれ変換して配信します。静止画の場合は、変換はおこないません。

クライアントパソコンについて

クライアントパソコンには、DLNA（Digital Living Network Alliance）対応ソフトウェアがインストールされている必要があります。
DLNA対応ソフトウェアの情報について詳しくは、Intel®のホームページをご覧ください。

NEC製パソコン（VALUESTAR、LaVie）では、2006年4月発表の製品から2006年8月発表の製品にインストールされている「MediaGarage」がDLNAに準拠しています。また、それ以前に発売された製品でも、2005年9月以降に発表された製品であれば、http://121ware.com/ から「MediaGarage」のアップデートモジュールを入手し、適用すればDLNAに対応します。

サーバパソコンを設定する

このパソコン（インテル® Viiv™ テクノロジーモデル）で、サーバの設定（配信先のクライアントパソコンの承認、配信用コンテンツの設定）をおこないます。配信したいコンテンツをパブリックフォルダに置いてから、次の手順で設定をしてください。

1 **「スタート」-「Windows Media Center」をクリックする**

Windows Media Center が起動し、メニュー画面が表示されます。

> ここで「ようこそ」の画面が表示された場合は、Windows Media Center のセットアップをおこなってください。

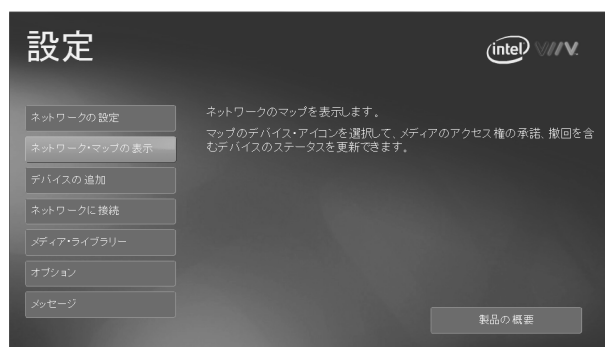
2 **「メディア オンライン」をクリックして、「プログラム ライブラリ」をクリックする**

3 **「インテル(R) Viiv(TM) セッティング」をクリックする**

「インテル® Viiv™ ソフトウェア使用許諾契約」の画面が表示されます。

> この画面は、はじめて起動するときのみ表示されます。次回からこの画面は表示されず、手順５の画面が表示されます。

4 **内容を確認し、「同意する」をクリックする**

5 **メニュー画面が表示されたら、［ネットワークマップの表示］をクリックする**

6 **「ネットワークマップ」の画面が表示されたらDLNA 対応のパソコン（クライアントパソコン）が表示されていることを確認する**

また、このときDLNA 対応のパソコンの表示の右上に「？」が表示されていることを確認してください。

7 **DLNA 対応のパソコンの表示をクリックする**

8 **「デバイスの詳細」の画面が表示されたら、［次へ］をクリックする**

9 **「デバイスの状態」の画面が表示されたら、「承認」を選択して、[次へ]をクリックする**

10 「デバイスの種類を選択」の画面が表示されたら、「コンピューター」を選択して、[次へ]をクリックする

11 「デバイスの場所を選択」の画面が表示されたら、DLNA対応のパソコンが設置してある場所を一覧から選択して、「次へ」をクリックする

12 「インテル® Viiv™ メディアサーバーへのアクセスを許可する」の画面が表示されたら、「はい」を選択して、「次へ」をクリックする

13 「ネットワークマップ」の画面が表示されたら、DLNA対応のパソコンの表示の右上に「？」が表示されていないことを確認する

これでサーバパソコンからクライアントパソコンへのコンテンツ配信許可の設定が終了しました。

クライアントパソコンや再生機器を複数設定する場合は、必要に応じて手順５～１３の操作をおこなってください。

続いて配信用コンテンツの設定をおこないます。

14 「戻る」をクリックする

15 メニュー画面が表示されたら、「メディア・ライブラリー」をクリックする

16 「準備」の画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

17 「メディア・ライブラリーに関する注意事項」の画面が表示されたら、内容を確認し、「同意する」をクリックする

18 「設定を選択して実行」の画面が表示されたら、一番上の「パブリック設定…」を選択して、「次へ」をクリックする

この設定を使い分けることで、外部に公開するフォルダを変更することができます。パブリックフォルダに加え、マイドキュメントフォルダも公開したい場合は真ん中の標準設定を選択してください。その他、フォルダを自由に決めて公開したい場合は一番下のカスタム設定を選択してください。

「設定の進行中」の画面が表示され、公開設定をしたフォルダ内の配信可能なファイルをスキャンします。

19 「設定が完了しました」の画面が表示されたらサーバパソコンのコンピューター名が表示されていることを確認して、[完了]をクリックする

これで配信用コンテンツの設定が終了しました。

Viiv™デジタルメディアサーバを起動する

サーバパソコンの設定が終了したときには、デジタルメディアサーバは起動しています。

1 **サーバパソコンのデスクトップ画面右下の通知領域にある を右クリックする**

2 **表示されたメニューで、「メディアサーバーをスタートします」をクリックする**

デジタルメディアサーバが起動し、クライアントパソコンへコンテンツが配信されます。

クライアントパソコンで視聴する

クライアントパソコンで配信されたコンテンツを視聴する方法は、ご使用のDLNA対応ソフトウェアによって異なります。
詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書等をご覧ください。

Viiv™デジタルメディアサーバを停止する

1 **サーバパソコンのデスクトップ画面右下の通知領域にある を右クリックする**

2 **表示されたメニューで、「メディアサーバーを停止します」をクリックする**

デジタルメディアサーバが停止し、クライアントパソコンへコンテンツ配信が終了します。

Viiv™デジタルメディアサーバ使用上の注意

・Viiv™デジタルメディアサーバのインストール、アンインストール、およびアップデート作業は、管理者ユーザーでログインしておこなってください。標準ユーザー権限ではインストール、アンインストール、およびアップデートできません。

・Viiv™デジタルメディアサーバを起動しているときは、別のメディアサーバを同時に起動しないでください。

・Viiv™セッティング画面で、右クリックで表示されるメニューの上でさらに右クリックすると、左クリックでもメニューが表示されます。
この状態を解除するには【Esc】キーを押してください。

・Viiv™セッティング画面で、全画面表示以外のサイズでマウス操作をおこなうとWindows Media Centerツールバーでメニューが一部隠れることがあります。

・お使いのファイアウォールソフトによってはViiv™の配信機能がブロックされることがあります。その場合、配信がブロックされないよう、ファイアウォールソフトの設定を手動でおこなう必要があります。ブロック解除の方法については、ご使用になられているファイアウォールソフトのマニュアル等をご参照ください。(ウィルスバスター2007をご使用の場合はインターネットに接続しアップデートすることで解決する場合があります。)

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

こんなものもあると便利

・OA 用クリーニングキット
・中性洗剤
・掃除機など

パソコンの電源を切って、電源ケーブルを抜いてから

お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（60ページ）の手順で電源を切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

DVD/CD ドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

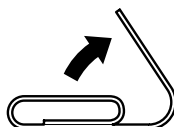
パソコンの電源が入っていないと、DVD/CDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

- この方法でディスクを取り出す前に、『パソコンのトラブルを解決する本』第2章の「その他のトラブルがおきたとき」-「DVD/CD ドライブからディスクを取り出せなくなった」をご覧になり、ディスクが取り出せないか試してください。
- この方法でディスクを取り出すときは、ディスクにアクセスしていない(CD/ハードディスクアクセスランプが点灯、点滅していない)ことを確認してください。アクセス中に取り出そうとすると、データが失われたり、ディスクが使えなくなる場合があります。
- DVD/CD ドライブのカバーは、イジェクトボタンを押すと、自動的に開くようになっています。イジェクトボタンを押してもカバーが開かないときは、必ずこの手順でディスクを取り出してください。カバーを無理に開こうとすると、カバーが壊れる場合があります。

⚠注意

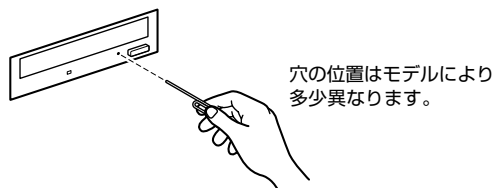
ペーパークリップを使うときは、ペーパークリップのとがった部分で指を切ったりしないように、注意して作業してください。

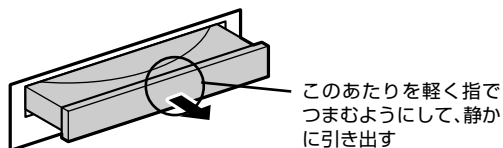
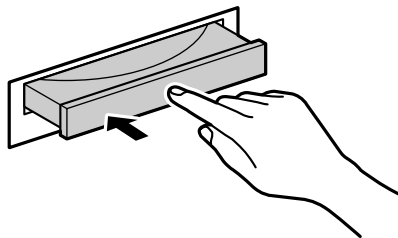
1 太さが 1.3mm 程度、まっすぐな部分の長さが 45mm 程度（指でつまむ部分を除く）の針金を用意する

大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

2 パソコン本体の電源を切る

3 正しい手順で、ルーフカバーを外す

ルーフカバーの外し方は、「本体の開け方と閉め方」（146 ページ）をご覧ください。

4 ディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に、手順1で作った針金を差し込み、強く押し込む

ディスクトレイが5～15mmほど飛び出します。

5 ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

6 ディスクトレイの前面を、イジェクトボタンを押さないように注意しながら、ディスクトレイがもとどおりに収納されるまで押し込む

7 パソコン本体のルーフカバーを取り付ける

ルーフカバーの取り付け方は、「本体の開け方と閉め方」（146ページ）をご覧ください。

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121 コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121ware ガイドブック』をご覧ください。

NEC 121 コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、SDメモリーカード、メモリースティック、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC　121コンタクトセンターの故障診断・修理受付窓口にご相談ください。	ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン

- **記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、「仕様一覧」をご覧ください。**
- **有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。**
  また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。
- **本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後６年です。**

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄するときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイアカウント（http://121ware.com/my/）の保有商品情報で削除いただくか、またはEメールアドレス webmaster@121ware.com 宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

●はじめて登録するかた

「新規登録はこちら」をクリックして登録

●以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた

「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録

●すでにログインIDをお持ちのかた

「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
（本体背面／側面または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）
2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日
3. 121ware お客様登録番号
（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先
〒 143-8691　東京都大森郵便局 私書箱５号
NEC121ware 登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PC リサイクルマークが銘板（パソコン本体の左側面または背面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収・再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NEC パーソナル商品総合情報サイト
「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）
をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121 コンタクトセンター
回収リサイクルのお問い合わせ　受付時間：9:00 ～ 17:00（年中無休）
0120-977-121
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

携帯電話、PHSなどフリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。
03-6670-6000（東京）（通話料金はお客様負担になります）
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化（フォーマット）」、「メモリーカードの初期化（フォーマット）」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。
このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際に、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊（メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ）して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NECフィールディング株式会社にご依頼ください。

NECフィールディングホームページURL：http://www.fielding.co.jp/

このパソコンでは、再セットアップディスクを作成して、ハードディスクのデータ消去ができます。詳しくは『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

地上デジタル放送で使用する個人情報の消去に関するご注意

地上デジタル放送のデータ放送で使用する個人情報の消去はSmartVisionを使用します。詳しくは、『テレビを楽しむ本』付録の「個人情報を消去する」をご覧ください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

VL770/JG、VL570/JG

型名			VL770/JG	VL570/JG
型番			PC-VL770JG	PC-VL570JG
インストールOS・サポートOS			Windows Vista™ Home Premium 日本語版※1※2	
CPU			インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー E4300 (1.80GHz)	HTテクノロジー※3インテル® Pentium® 4 プロセッサー 531 (3GHz)
	キャッシュメモリ	1次	インストラクション用32KB×2/データ用32KB×2	12Kμ命令実行トレース/16KBデータ
		2次	2MB	1MB
バスクロック	システムバス		800MHz	
	メモリバス		667MHz	
チップセット			Intel社製 82G965 / 82801DH	
メインメモリ	標準容量／最大容量※4		標準1GB※5(512MB×2:デュアルチャネル対応)／最大2GB※6[DDR2 SDRAM、PC2-5300対応]	
	スロット数		DIMMスロット×2[空き0]	
表示機能	ディスプレイ[型番](詳細は別表をご覧ください)		20型ワイド(スーパーシャインビューEX2液晶)[F20WZ2]	20型ワイド(スーパーシャインビューEX2液晶)[F20W31]
	グラフィックアクセラレータ		Intel社製 82G965に内蔵	
	グラフィックスメモリ		最大256MB※5	
	表示色(解像度)	本体添付ディスプレイ	最大約1,619万色※8 (1,680×1,050ドット、1,280×1,024ドット※9、1,024×768ドット※7※9、800×600ドット※7※9)	
	表示色(解像度) 本機のサポートする表示モード※10	デジタルディスプレイ	最大約1,677万色 (1,600×1,200ドット、1,680×1,050ドット、1,280×1,024ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)	
		アナログディスプレイ	最大約1,677万色 (1,600×1,200ドット、1,280×1,024ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)	
ドライブ	ハードディスクドライブ※11		約500GB(Serial ATA、高速7,200回転/分)	
	Windows®システムから認識される容量※35	Cドライブ／空き容量	約46.5GB／約26.8GB	約46.5GB／約27.4GB
		Dドライブ／空き容量	約404GB／約404GB	
	DVD/CDドライブ(詳細は別表をご覧ください)		DVDスーパーマルチドライブ[DVD-R/+R 2層書込み]	
	フロッピーディスクドライブ		－【別売、専用オプション(型番：PC-AC-DU001C)※12】	
サウンド機能	スピーカ		添付の液晶ディスプレイに内蔵(AuthenSoundLinear®(3W+3W))	
	音源／サラウンド機能		インテル® High Definition Audio 準拠(最大192kHz/24ビット※26ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能[OS標準])、3Dオーディオ(Direct Sound 3D対応)、マイク機能(ノイズ抑制、音響エコーキャンセル、ビームフォーミング)	
	サウンドチップ		RealTek社製 ALC262搭載	
通信機能	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応	
	ワイヤレスLAN		トリプルワイヤレスLAN本体内蔵※33 (IEEE802.11a/b/g準拠)	－
拡張スロット			PCI Express×16スロット(ロープロファイル/ハーフ)×1[空き0] PCIスロット(ハーフ)×2[空き1]	PCI Express×16スロット(ロープロファイル/ハーフ)×1[空き0] PCIスロット(ハーフ)×2[空き2]
ベイ			5型ベイ：1スロット(DVD/CDドライブで占有済)[空き0]、内蔵3.5型ベイ：1スロット(ハードディスクドライブで占有済)[空き0]	
TV機能(詳細は別表をご覧ください)			<ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ、地上デジタル放送対応>※28※29	－
入力装置	キーボード		PS/2小型キーボード(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き)	
	マウス		光センサーUSBマウス(スクロール機能付き)	
	リモコン		赤外線リモコン※13※28	－

<table>
<tr><th colspan="3">型名</th><th>VL770/JG</th><th>VL570/JG</th></tr>
<tr><td rowspan="14">外部インターフェイス</td><td colspan="2">USB※31</td><td colspan="2">コネクタ4ピン×6※14※15[USB 2.0]</td></tr>
<tr><td colspan="2">IEEE1394(DV)</td><td colspan="2">4ピン×1</td></tr>
<tr><td colspan="2">ディスプレイ</td><td>DVI-D(24ピン、HDCP対応※34)×1※16、
ミニD-sub15ピン、専用ビデオ通信×1</td><td>DVI-D(24ピン、HDCP対応※34)×1※16、
ミニD-sub15ピン</td></tr>
<tr><td colspan="2">PS/2</td><td colspan="2">ミニDIN6ピン×1※17</td></tr>
<tr><td colspan="2">LAN</td><td colspan="2">RJ45コネクタ×1</td></tr>
<tr><td colspan="2">ワイヤレスLAN</td><td>外付アンテナ端子×2</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">リモコン</td><td colspan="2">リモコン端子×1</td></tr>
<tr><td rowspan="5">サウンド関連</td><td>光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力</td><td>角形×1※18</td><td>角形×1</td></tr>
<tr><td>ライン入力</td><td colspan="2">ステレオミニジャック×1(入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 1Vrms)</td></tr>
<tr><td>ライン出力</td><td colspan="2">ステレオミニジャック×1※19(出力インピーダンス 22kΩ、出力レベル 1Vrms)</td></tr>
<tr><td>マイク入力</td><td colspan="2">ステレオミニジャック×1※30(マイク入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル100mVrms(マイクブースト有効時は 5mVrms)、バイアス電圧 2.5V)</td></tr>
<tr><td>ヘッドフォン出力</td><td colspan="2">ライン出力と共用(ヘッドフォン出力インピーダンス　16Ω-100Ω「推奨32Ω」※32、出力電力　5mW/32Ω)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">カードスロット</td><td>メモリーカード</td><td colspan="2">トリプルメモリースロット※20×1[SDメモリーカード(SDHCメモリーカード)※21、メモリースティック(メモリースティックPRO)※22、xD-ピクチャーカード※27]</td></tr>
<tr><td>PCカード</td><td colspan="2">TypeⅡ×2(TypeⅢ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応</td></tr>
<tr><td colspan="3">FeliCaポート</td><td colspan="2">FeliCaポート(外付け)(USB接続)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外形寸法</td><td colspan="2">本体(突起部除く)</td><td colspan="2">99(W)×388(D)×372(H)mm※23
220(W)×388(D)×372(H)mm(スタビライザ設置時)</td></tr>
<tr><td colspan="2">キーボード</td><td colspan="2">396(W)×172(D)×33(H)mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">リモコン</td><td>53(W)×225(D)×29(H)mm</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">質量</td><td colspan="2">本体</td><td colspan="2">約11kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">キーボード／マウス／リモコン</td><td>約800g／約93g／約130g※24</td><td>約800g／約93g／－</td></tr>
<tr><td colspan="3">電源</td><td colspan="2">AC100V±10%、50/60Hz</td></tr>
<tr><td>消費電力</td><td colspan="2">標準／最大／スリープ状態時</td><td>約57W／約150W／約4W</td><td>約75W／約227W／約4W</td></tr>
<tr><td colspan="3">エネルギー消費効率(2007年度省エネ基準達成率)※25</td><td>j区分 0.0010(AA)</td><td>j区分 0.0032(A)</td></tr>
<tr><td colspan="3">電波障害対策</td><td colspan="2">VCCI ClassB</td></tr>
<tr><td colspan="3">温湿度条件</td><td colspan="2">10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)</td></tr>
<tr><td colspan="3">主な添付品</td><td>マニュアル、B-CASカード、ワイヤレスLANアンテナ、
電源ケーブル、リモコン、乾電池(単四マンガン：2本)</td><td>マニュアル、電源ケーブル</td></tr>
</table>

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：32ビット版です。添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。別売のOSをインストールおよび利用することはできません。
※　2：ネットワークでドメインに参加する機能はありません。
※　3：ソフトウェアやドライバがHT テクノロジーに対応している必要があります。各ソフトウェアメーカ、周辺機器メーカにお問い合わせください。
※　4：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。増設メモリは、PC-AC-ME023C(512MB)、PC-AC-ME024C(1GB)を推奨します。
※　5：グラフィックスメモリは、メインメモリを使用します。パソコンの動作状況によりグラフィックスメモリ容量が最大値まで変化します。搭載するメインメモリの容量によって利用可能なグラフィックスメモリの総容量は異なります。利用可能なグラフィックスメモリの総容量とは、Windows Vista上で一時的に使用する共有メモリやシステムメモリを含んだ最大の容量を意味します。
※　6：最大メモリ容量にする場合、本体に実装されているメモリを取り外して、増設メモリ(PC2-5300対応、DDR2-667MHzメモリ)[1GB]を２枚実装する必要があります。
※　7：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。
※　8：本体添付ディスプレイでのディザリングにより実現。
※　9：1,680 × 1,050 ドット以外の解像度ではアスペクト比(画面縦横比)を保つために画面の左右または上下左右が黒表示となる場合があります。
※ 10：グラフィックアクセラレータのサポートする表示モードです。実際に表示できるモードは接続するディスプレイにより異なります。なお、デジタルディスプレイでの 1,680 × 1,050 ドットの解像度については当社製ワイドモニタでのみ動作検証を行っております。
※ 11：1GB を 10 億バイトで計算した場合の数値です。
※ 12：2 モード(720KB/1.44MB)に対応しています(ただし、720KB モードのフォーマットは不可です)。
※ 13：使用可能な距離は約 3m です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります)。
※ 14：1 ポートは光センサー USB マウスを接続します。
※ 15：1 ポートは液晶ディスプレイに接続します。
※ 16：本機の DVI 端子は添付のディスプレイのみ動作確認を行っております。
※ 17：本機の PS/2 端子は添付のキーボードのみ動作確認を行っております。
※ 18：地上アナログ放送、地上デジタル放送における音声は出力できません。
※ 19：ディスプレイに添付のオーディオケーブルを接続します。
※ 20：メモリースティック、SD メモリーカード、xD- ピクチャーカードは各々同時に使用することはできません。マルチメディアカード(MMC)には対応しておりません。「SDIO カード」には対応しておりません。
※ 21：添付ソフト「SD-Jukebox Ver.6.5 Standard Edition」では、SD-Audio 規格に準拠した「SD メモリーカード」、「SDHC メモリーカード」の著作権保護機能に対応しています。「miniSD™カード」、「microSD™カード」をご使用の場合には、必ず専用のカードアダプタをご利用ください。microSD → miniSD アダプタ → SD アダプタの２サイズ変換には対応しておりません。詳しくは「miniSD™ カード」、「microSD™ カード」の取扱説明書をご参照ください。
※ 22：メモリースティックの「マジックゲート」(著作権保護)機能には対応しておりません。「メモリースティック Duo」をご使用の場合には、必ずメモリースティック Duo アダプタをご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご参照ください。
※ 23：本機を横置きにしてのご使用はサポートしておりません。
※ 24：乾電池の質量は含まれておりません。
※ 25：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語 A は達成率 100%以上 200%未満、AA は達成率 200%以上 500%未満、AAA は達成率 500%以上を示します。
※ 26：使用可能な量子化ビットやサンプリングレートは、OS や使用するアプリケーションなどのソフトウェアによって異なります。
※ 27：xD- ピクチャーカードの著作権保護機能には対応しておりません。
※ 28：添付ディスプレイでのみ利用可能。
※ 29：出荷時の解像度以外では TV 機能を利用できません。
※ 30：パソコン用マイクとして市販されているコンデンサマイクやヘッドセットを推奨します。
※ 31：USB ポートの電源供給能力は、1 ポートあたり動作時は最大 500mA、スリープ時は数十 mA 程度です。これ以上の電流を消費するバスパワードの USB 機器は電源の寿命を低下させるおそれがありますので接続しないでください。
※ 32：周波数特性を保証する値ではありません。
※ 33：IEEE802.11a/b/g 準拠、WEP（64/128bit）対応、WPA-PSK（TKIP/AES）対応、WPA2-PSK（AES）対応。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーションソフトウェア、ＯＳ などによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。IEEE802.11b/g(2.4GHz)とIEEE802.11a(5GHz)は互換性がありません。IEEE802.11a(5GHz)ワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。5GHz 帯ワイヤレス LAN は、IEEE802.11a 準拠(J52/W52/W53)です。J52/W52/W53 は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。詳細は http://121ware.com/navigate/support/info/ieee802.html をご参照ください。
※ 34：HDCP とは "High-bandwidth Digital Content Protection" の略称で、DVI を経由して送信されるデジタルコンテンツの不正コピー防止を目的とする著作権保護用システムのことをいいます。HDCP の規格は、Digital Content Protection, LLC という団体によって、策定・管理されています。本製品のDVIは、HDCP技術を用いてコピープロテクトされているパーソナルコンピュータからのデジタルコンテンツを表示することができます。ただし、HDCP の規格変更等が行われた場合、本製品が故障していなくても、DVI の映像が表示されないことがあります。
※ 35：右記以外の容量は再セットアップ用領域として占有されます。

DVD/CDドライブ仕様一覧

ドライブ※1	DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵 (バッファアンダーランエラー防止機能付き) [DVD-R/+R 2層書込み]
DVD-RAM読出し※2※3	最大12倍速
DVD-RAM書換え※2※3	最大12倍速※11
DVD+R(1層)書込み	最大16倍速
DVD+R (2層)書込み※4	最大8倍速
DVD+RW書換え	最大8倍速
DVD-R(1層)書込み※5	最大16倍速
DVD-R(2層)書込み※6※7	最大4倍速
DVD-RW書換え※8	最大6倍速
DVD読出し	最大16倍速
CD読出し※9	最大40倍速
CD-R書込み	最大40倍速
CD-RW書換え※10	最大10倍速

※　1：使用するディスクによっては、一部の書込み／読み出し速度に対応していない場合があります。
※　2：DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2 (片面4.7GB)に準拠したメディアに対応しています。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
※　3：DVD-RAM Ver.1 (片面2.6GB)の読出し / 書換えはサポートしておりません。
※　4：DVD+R 2層書込みはDVD+R (2層) ディスクのみに対応しています。
※　5：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0/2.1に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※　6：DVD-R 2層書込みは、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※　7：作成したDVD-R(2層)ディスクについては、当社製パソコンに搭載されているDVD-R(2層)対応ドライブでのみ読み出しが可能です。
※　8：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1/1.2に準拠したメディアの書き換えに対応しています。
※　9：Super Audio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読み出し可能です。
※ 10：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
※ 11：DVD-RAM12倍速書込みには、DVD-RAM12倍速書込みに対応したDVD-RAMメディアが必要です。

TV機能仕様一覧

VL770/JG

型名			VL770/JG
型番			PC-VL770JG
映像関連機能	TVチューナ		地上デジタル放送※1、地上アナログ放送(音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1〜12ch)、UHF(13〜62ch)、CATV(C13〜C38)※2)
	データ放送受信		地上デジタル放送、地上アナログデータ放送(ADAMS-EPG)、字幕放送
	TV録画機能	地上デジタル放送	独自形式(デジタルハイビジョンTV放送(約15Mbps)、デジタル標準TV放送(約8Mbps))の録画可能 または、以下のアナログ放送画質への画質変換録画が可能 MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、 長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード：352×240ドット(1.2Mbps VBR))
		地上アナログ放送	MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、 長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード：352×240ドット(1.2Mbps VBR))の録画可能
	同時録画機能		地上アナログ放送と地上デジタル放送の組み合わせで2番組までの同時録画可能※3
	高画質機能		VISITAL(3次元Y/C分離、10bit ADコンバート、タイムベースコレクタ、デジタルノイズリダクション)、高画質スケーラ
映像・ サウンド関連 インターフェイス	ビデオ入力		Sビデオ入力端子×1(背面×1)※4※5、コンポジットビデオ入力端子×1(背面×1)※4※5
	ビデオオーディオ入力端子(L/R)		1系統(背面×1)※5
	地上アナログ・デジタル放送アンテナ入力		F型同軸×1※5
	B-CASカードスロット		専用×1※5
最長録画時間※6	地上デジタル放送	デジタルハイビジョンTV放送	約66時間
		デジタル標準TV放送	約124時間
		アナログ画質(超長時間モード)	約713時間
	地上アナログ放送	高画質モード	約123時間
		標準画質モード	約240時間
		長時間モード	約457時間
		超長時間モード	約713時間

※　1：ケーブルテレビ会社経由で地上デジタル放送を受信する場合、再配信されている地上デジタル放送信号が同一パススルー方式および周波数変換パススルー方式の場合は地上デジタル放送を視聴可能です。その他の方式(トランスモジュレーション方式など)では視聴できません。再配信されている地上デジタル放送の方式に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。

※　2：ケーブルテレビの受信チャンネル表記は、(社)電子情報技術産業協会規格(CPR-4103)の表記に基づきます。実際のケーブルテレビ受信チャンネル番号は、ケーブルテレビ会社により異なりますので、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。
本製品をケーブルテレビ回線に接続する場合、ケーブルテレビ会社との受信契約が必要となります。
また、本製品は、記載されたケーブルテレビ周波数の受信に対応しておりますが、大半のチャンネルはケーブルテレビ会社により視聴制限(スクランブル)を施されているため、本製品で直接受信することはできません。
この場合は、ケーブルテレビ会社より貸与されるターミナルアダプタにより、受信する必要があります。
ケーブルテレビ会社により再送信を行っている地上アナログ放送は、VHFおよびUHFの周波数で送信されていますので、特別な受信装置がなくとも、受信可能です。
詳細は、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。

※　3：デジタル放送をアナログ放送画質へ変換して録画している時は同時録画できません。

※　4：Sビデオ入力端子、コンポジットビデオ入力端子の利用は排他になります。また、表示の優先順位はSビデオ入力端子→コンポジットビデオ入力端子の順になります。

※　5：添付ディスプレイに搭載。

※　6：CドライブとDドライブに録画した場合の合計の目安です。ご購入時の録画先ドライブはDドライブになります。ハードディスクのご使用状況に応じ、録画保存先の切換が必要になる場合があります。

ディスプレイ仕様一覧

VL770/JG、VL570/JG

型名	VL770/JG	VL570/JG
型番	PC-VL770JG	PC-VL570JG
画面サイズ	20型ワイド(スーパーシャインビューEX2液晶)	
ディスプレイ型番	F20WZ2	F20W31
表示寸法(アクティブ表示エリア)	433(W)×270(H)mm	
画素ピッチ	0.258mm	
表示解像度	1,680×1,050ドット、 1,280×1,024ドット※3、 1,024×768ドット※2※3、 800×600ドット※2※3、 640×480ドット※2※3	
インターフェイス	DVI-D(HDCP対応※5)、ヘッドフォン出力×1、ステレオライン入力×1、地上アナログ・デジタル放送アンテナ入力×1、B-CASカードスロット×1、ビデオ入力(Sビデオ入力端子×1※1、コンポジットビデオ入力端子×1※1、ビデオオーディオ入力端子(L/R)×1)、専用ビデオ通信×1、リモコン受信機×1、リモコン端子×1	DVI-D(HDCP対応※5)、ヘッドフォン出力×1、ステレオライン入力×1
消費電力	約75W	約57W
外形寸法	485(W)×227(D)×436(H)mm	
質量	約10.6kg	約8.6kg
LCDドット抜けの割合※4	0.00012%以下	
備考	AuthenSoundLinear®	

※　1：Sビデオ入力端子、コンポジットビデオ入力端子の利用は排他になります。また、表示の優先順位はSビデオ入力端子→コンポジットビデオ入力端子の順になります。

※　2：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。

※　3：1,680 × 1,050 ドット以外の解像度ではアスペクト比（画面縦横比）を保つために画面の左右または上下左右が黒表示となる場合があります。

※　4：ISO13406-2 の基準にしたがって、副画素（サブピクセル）単位で計算しています。

※　5：HDCP とは "High-bandwidth Digital Content Protection" の略称で、DVI を経由して送信されるデジタルコンテンツの不正コピー防止を目的とする著作権保護用システムのことをいいます。HDCP の規格は、Digital Content Protection, LLC という団体によって、策定・管理されています。本製品の DVI-D 入力端子は、HDCP 技術を用いてコピープロテクトされているパーソナルコンピュータからのデジタルコンテンツを表示することができます。ただし、HDCP の規格変更等が行われた場合、本製品が故障していなくても、DVI-D 入力端子の映像が表示されないことがあります。

LAN仕様一覧

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	1000BASE-T使用時：1000Mbps 100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	1000BASE-T使用時：UTPカテゴリ5e以上 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	1000BASE-T：最大約200m/ステーション間 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

リモコン仕様一覧

外形寸法	53（W）× 225（D）× 29（H）mm
質量	約 130g（電池含まず）
通信方式	赤外線通信方式
赤外線到達距離	3m 以内
電池	単４形乾電池２本

ワイヤレスLAN仕様一覧

■トリプルワイヤレス LAN

本機能はトリプルワイヤレス LAN モデルのみの機能です。

● 5GHz ワイヤレス LAN

項 目	規 格
準拠規格	IEEE802.11a　ARIB STD-T71※4
通信モード	54/48/36/24/18/12/6（Mbpsモード）※1
変調方式	OFDM方式
無線チャンネル	36ch、40ch、44ch、48ch（アクティブスキャン） 34ch、38ch、42ch、46ch、52ch、56ch、60ch、64ch（パッシブスキャン）※5
周波数帯域	5GHz帯域（5.15～5.35GHz）※2
セキュリティ	WPA-PSK（TKIP/AES）、WPA2-PSK（AES） WEP（鍵長64bit/128bit※3）

※1：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。
※2：5GHz ワイヤレス LAN の使用は、電波法令により屋内に限定されます。
※3：ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ 40bit、104bit です。
※4：ARIB についての表記の説明は 「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレス LAN（無線 LAN）」の「使用上の注意」をご覧ください。
※5：パッシブスキャンのチャンネルは接続に時間がかかる場合があります。

● 2.4GHz ワイヤレス LAN

項 目	規 格
準拠規格	IEEE802.11g、IEEE802.11b　ARIB STD-T66※3
通信モード	IEEE802.11gモード：54/48/36/24/18/12/6（Mbpsモード）※1 IEEE802.11bモード：11/5.5/2/1（Mbpsモード）※1
変調方式	OFDM方式（54/48/36/24/18/12/6Mbpsモード時） DS-SS方式（11/5.5/2/1Mbpsモード時）
無線チャンネル	1～13ch（アクティブスキャン）
周波数帯域	2.4GHz帯域（2.4～2.4835GHz）
セキュリティ	WPA-PSK（TKIP/AES）、WPA2-PSK（AES） WEP（鍵長64bit/128bit※2）

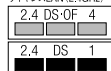
※1：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。
※2：ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ 40bit、104bit です。
※3：ARIB についての表記の説明は「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレス LAN（無線 LAN）」の「使用上の注意」をご覧ください。

その他のご注意

[著作権に関するご注意]
- お客様が複製元のCD-ROMやDVD-ROMなどの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
- 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
- お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[TV視聴／録画について]
- デジタル放送対応モデルでは、地上デジタル・BSデジタル・CSデジタル放送対応のチューナを本商品のビデオ入力端子に接続した場合、「一回だけ録画可能」の番組などのコピー制御された番組を録画およびタイムシフトできません。
- TVをご覧いただくためにはご家庭のアンテナケーブル（別売）と接続する必要があります。
- TV放送やデータ放送をご覧になる場合、ノイズやゴーストなど電波障害が強いところでは、TV映像がコマ落ちしたり、データ放送が受信できないなどの現象が発生する場合があります。電波の弱い場合は、ブースターが必要になる場合があります。また、ケーブルテレビをご利用の場合は、ADAMS-EPGなどのデータ放送が受信可能かどうか、ご利用のケーブルテレビ会社へお問い合わせください。
- 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。

[電波に関するご注意]
〈ワイヤレスLAN対応商品〉
- 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因となるおそれがあります。
- 埋め込み型心臓ペースメーカを装備されている方は、本商品をペースメーカ装置部から30cm以上離して使用してください。

〈ワイヤレスLAN（2.4GHz）IEEE802.11g／IEEE802.11b対応商品〉
- 本商品では、2.4GHz帯域の電波を使用しています。この周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
- 本商品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本商品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本商品の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- 電波干渉の事例が発生し、お困りのことが起きた場合には、121コンタクトセンターまでお問い合わせください。

〈ワイヤレスLAN（5GHz）IEEE802.11a対応商品〉
- ワイヤレスLAN（5GHz）の使用は電波法令により屋内に限定されます。
- 5GHz帯ワイヤレスLANは、IEEE802.11a準拠（J52/W52/W53）です。J52/W52/W53は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。詳細はhttp://121ware.com/navigate/support/info/ieee802.html をご参照ください。

[DVD/CDの読込み／書込みについて]
- DVDビデオの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM（96kHz/24bit）で記録されている20kHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。DVDレコーダや他のパソコンで作成されたDVDは、再生できないことがあります。
- このパソコンで書き込まれたディスクは、他のパソコンや機器では動作しない場合があります。
- コピーコントロールCDなど一部の音楽CDでは、再生やCD作成ができない場合があります。
- 別途有償アップデートを行うことでCPRM（Content Protection for Recordable Media）の著作権保護機能に対応することができます。
- メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
- 12cmDVD/CDのみ再生できます。ハート形、カード形などの特殊形状をしたCDはサポート対象外となります。
- 設定した書込み、書換え速度を実現するためには、書込み、書換え速度に応じたメディアが必要になります。
- ライティングソフトウェアが表示する書込み予想時間と異なる場合があります。
- 作成したDVDは家庭用のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブ搭載パソコンで再生できますが、一部のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブでは再生できないことがあります。
- ソフトウェアによっては書込み速度設定において最大速度を表示しない場合があります。

[周辺機器接続について]

- 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、各種インターフェイスに対応している必要があります。
- 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。
- USB1.1 対応の周辺機器も利用できます。USB2.0 で動作するには USB2.0 対応の周辺機器が必要です。
- IEEE1394 インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。
- 他社製増設機器、および増設機器に添付のソフトウェアにつきましては、動作を保障するものではありません。他社製品との接続は、各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
- 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は 48kHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤ・MD デッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。

「サポートナビゲーター」詳細目次

安心安全に使う

使いこなす

●パソコン各部の説明

・パソコンの機能
・パソコンにつなげる

●ソフトの紹介

・ソフト一覧
・ソフトの追加と削除

●Windowsの操作

▼使いやすい設定に変更する
・安定した状態で使うには
・マウスポインタ（矢印）の速度を変える
・ダブルクリックの速度を変える
・ダブルクリックの代わりの操作をする
・マウスを左きき用にする
・Internet Explorerを使いやすくする
・コントロール パネルを表示する
・デバイス マネージャを表示する
・日付と時刻を合わせる
・ウィンドウの開き方を変える
・画面をクラシック表示にする
・パソコン画面のデザインを変える
・起動時やエラー時の音を変える
・ドライブ番号を変える
▼使いこなすためのコツ
・パソコンのいろいろな終了方法
・ソフトをすばやく起動する
・ドラッグ＆ドロップを使いこなす
・ショートカットキーを使いこなす
・住所の入力を楽にする（郵便番号辞書）
・よく使う言葉を登録しておく（単語登録）
・入力方式を選ぶ
・IME 言語バーを表示する
▼ファイルの使い方
・ファイルとフォルダの基礎知識
・「エクスプローラ」でファイルを操作する
・「エクスプローラ」のさまざまな機能
・ファイルを探す
・便利な検索機能を活用する
・ファイルやソフトをスタートメニューに表示する
・ファイルのバックアップと復元
・システムの状態を復元する
▼みんなで1台のパソコンを使う
・みんなでパソコンを使う
・パスワードを設定する
・ユーザーを追加する
・「ユーザーの切り替え」を使う
・ファイルを共有して使う

●週刊ぱそらいふ

解決する

●困ったときには

- 大切なのは、おちつくこと
- 急にパソコンが動かなくなったら
- 突然、見知らぬ画面が表示されたら
- ソフトの使い方を知りたい
- ハードウェアについて知りたい
- 知りたい情報を検索するには

● Q&A 一覧

●最新情報はインターネットで

- 修正プログラムを探す
- 最新の Q&A を探す
- ウイルス／セキュリティ情報を確認する
- NEC 以外のホームページで探す

●電話で問い合わせる

- 電話をかける前の準備
- リモートサポートを利用する
- パソコンの使い方を相談する

● NEC のサポート・サービス

●トラブル解決ナビ

索 引

英数字

あ行

か行

さ行

各部の名称(1)

● 本体前面 ●

(カバーを開いたところ)

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

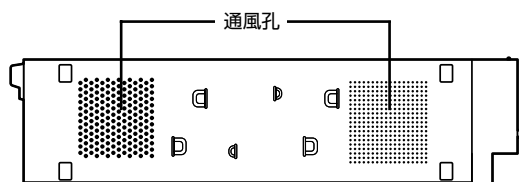
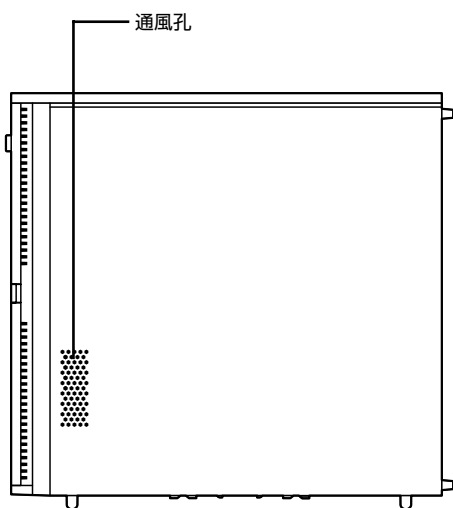
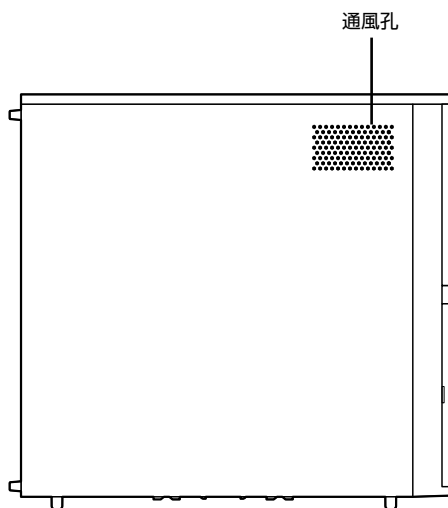
各部の名称(2)

● 本体背面 ●

※1: デジタルハイビジョンTV(地デジ/地アナ)モデルのみ
※2: トリプルワイヤレスLANモデルのみ

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称(3)

● 本体底面 ●

● 本体右側面 ●

● 本体左側面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

パソコンの中にもマニュアルがある

● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。

デスクトップにある サポートナビゲーター(電子マニュアル) をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

必要に応じて、次の３種類の説明を利用してください。

▶ 安心安全に使う

インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。

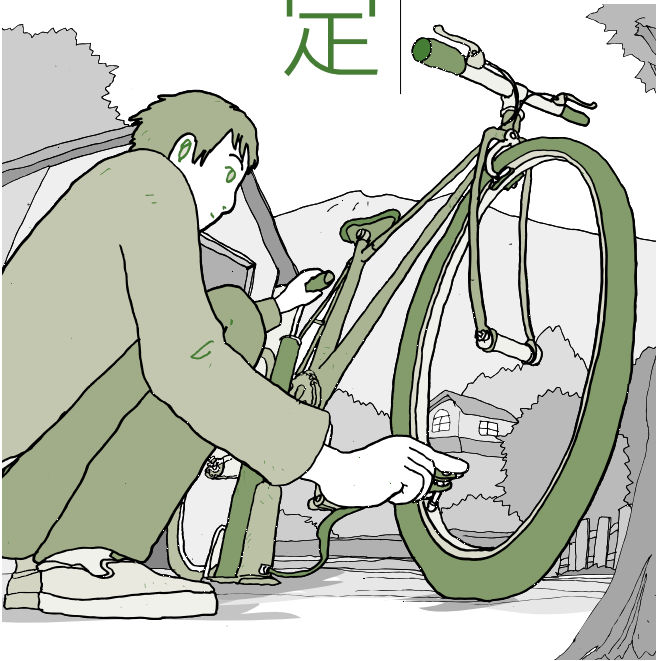
▶ 使いこなす

Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。

▶ 解決する

うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

2

準備と設定

初版 2007年4月
NEC
853-810601-640-A
Printed in Japan

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは、再生紙(古紙率:表紙70%、本文100%)を使用しています。